

□熊本銀行は、喰田君の手腕が揮き過ぎて、行運の全部を光被するが如き観なきにしも非ずだが、實は、内部に山田鈺五郎君と云ふ大黒柱があつて、銀行の進展と最も重大なる交渉を終始して来た、其の間の功勞を推稱せねばならぬものがある。熊本銀行に於ける勤績と精通を誇り得るものは、先づ君であらう。



□事理兼役締収行銀本熊

君郎五鈺田山

熊本大林區署に奉じて奉任したが、抑も熊本人たる縁故の初めであつた。が、然し其の後、御料局静岡支廳の遠州濱松出張所開設に際し、抜かれて其の所長となり、更に静岡支廳に榮轉し、後、東京御料局宇都宮事務所に拔擢されて群馬外三縣管轄の任に當り、明治三十八年一月まで勤務して令名を馳せ、其の間、所轄管内に日光と云ふ結構な名所があつた爲め、觀光探勝にと雲集し來る

知名の人士と善く交を結ぶ機會多く、其の折、熊本出身の新人物で當時政界の麒麟鳳雛だと囑目期待された故江藤啓藏君と相識の仲となり、同年九月再び熊本大林區署に轉勤し來るや、時偶々、九州商業銀行の第一次乱職時代に際會し、切に英才敏腕の人物を要したので、君は江藤氏の懇請紹介に基き、遂に、銀行界の人となり、兎角波瀾重疊、紆餘曲折に富む熊本銀行の爲め、縦横の才幹を振ひ、献身的精勵を致して今日に至つて居る。

□尚ほ君が、熊本を墳墓の地とするに至つた縁因が、他にも數々ある様だ。即ち、熊本と名古屋を加藤肥州が結び付ける歴史的情懷も深いが、其の東京にあつて、彼の有妻學舎の人々と親交厚かりし事は、君の生涯に最も大なる影響を招來したのである。顧みれば、其當時、淵澤能惠子と云ふ女丈夫が居た。有妻學舎の重なる人物、國民新聞社の濟々たる多士中、此の女丈夫の感化と陰れたる世話に預らぬものは稀れであつた。江藤氏の如き精神上の母として終生敬愛の至情を捧げ、其の臨終に際し、女史が晩年の事業たる朝鮮博通女學校(女史も學校も現に健在)の志を完うさせたいとの遺言を残した事は、當時政界美談として謳はれたものである。山田君父實に此の女史に多年親炙し、其の結果、國民新聞の雙壁で蘇峰學人の兩翼たりし栗原、阿部の諸君等にも交つたのだ。□家に令息稔君(十五歳)あり。居常、謠曲、碁等を趣味として居る。



熊本市池田町
志位一藏君

□熊本所在の各支店銀行の帳尻を見て、其の預金貸出しのバランスに於て、吾人は居常謙焉の懐に堪へせぬものであるが、唯、十八銀行支店のみが、支店銀行として爲し能ふ稍々理想に近い、所在地の金融を裨益貢献し來つてをる點は、是れを多とせねばならぬ所である。同時に其の基礎を開いて、多年、肥後財界に重きをなして居た志位一藏君の功勞を更に特記推稱せねばならぬ。

□君は今、還暦を越したばかりの鑑鑠たる晩年を、池田町の邸宅に悠々自適し、徐ろに餘生を樂み、又他意なきものゝ如くであるが、尙ほ且つ、去る市議職などに擧町の興望を以つて奮起を促したる事あり、又會社重役の懇請勸誘、切なるもの多々ある等、或は若後の思ひ出に今一花咲すではあるまいかの期待を繋ぐもの豈、吾人のみならんやである。

□君は幼少風に、兼坂止水翁の門に入り、彼の徳富蘇峰嘉悦氏房の諸君と机を並べて、盛に學習の傍ら氣を吐き後、京町、本莊校、花園校等に教鞭を執り、明治十六年七等訓導迄昇進したが、鬱勃たる雄圖は遂に教育界に甘んじ得ずして、其の鵬翼を實業界に伸ばしたのである。即ち、明治十七年第五百一十一國立銀行に入り、翌八年支配人に推され、全卅四年には取締役となり支配人を兼ねて縦横の敏腕を振つて居たが、同三十五年同行の任意解散を見たのである。其の間、他の事業にありては、廿八年、熊本織物力織株式會社監査役に就任同卅五年辭任、同廿九年肥後製絲會社創立功勞者として、取締役に擧げられ同三十四年辭退し、卅六年四月株式會社十八銀行熊本支店設立に執筆して四十二年二月支店長となり、大正八年名成り功遂げて圓滿裡に勇退して今日に至つて居る其の間、前述の如き金融上の貢献を致し、尙ほ大正六年商業會議所特別議員に推舉され、其他郡會議員村會議員等の名譽公職に盡瘁して令名があつた。

□嫡男陸軍砲兵大尉正人君(三十四歳)目下小倉任動中であるが、大正七年前後陸軍省の支那派遣を命ぜられ、セミヨノフ將軍の顧問となり滿腹の機略をやつた才物にて最も前途多望有爲の青年將校である。次男篤敬君(卅二歳)は東京帝大工科を卒へ、東京土屋家を繼ぎ只今、三井物産に在つて着々頭角を現はして居る等、家門の榮譽羨望すべきものがある。

九州ノート用品株式會社監査役



町原河市本熊

君郎三米野宇



□先代□

君郎太已野宇

□諸紙文具卸商

□熊本市河原町に、諸紙、文房具類卸商として、牢乎たる信用を博し、店運隆々、群を遙かに抜いて活躍發展しつつある實勢力は、即ち宇野已太郎商店である。最も信望實力ある各地一流の會社、知名の商舗と取引をなし、隨而精選せられた優秀品は自ら同店の聲價を高め、而も低廉なる價格を以つて、誠實懇切に營業を終始一貫する結果、今や名實共に斯界の權威たる重きをなし、更に洋々たる將來の隆昌を氣構へ、眞に業界羨望の的たる概である。

□同店今日の盛運を開拓完成した先代己太郎氏は、山鹿町屈指の舊家で、所謂山鹿四祖の一門に生れた人、其の祖先宇野七郎親治氏、大和國宇野の庄より山鹿町に移住し、嚴父七郎次氏の節、藩主細川侯、山鹿町に肥後生産の諸紙製所を設置せらるるに當り斯業に従事し、紙漉上大に苦心盡瘁した結果、帶刀御免の榮を蒙つたと云ふ、其の緣故で紙商を營むに至り、明治廿五年九月現營業所に居を移して、銳意業務の發展に力め以つて年と共に商勢の隆運を加へ、傍ら市會議員其の他の公職等に推されて社會的信望榮譽極めて高いものありしも大正五年物故して、幼主己太郎氏の代となつて居る。

□其の幼主を守り立て、後見となり能く先代令兄の遺跡を繼ぎ、更に其の事業を隆興大成せしめつつあるのが即ち、米三郎である。實直濃厚な資性と傑出非凡な才幹を發揮して雄飛奮闘し、信望、店の内外に極めて高い。



□長合組業同物織本熊□

君士政積



□長社會式株事商田増□

君郎次善田増

□綿糸太物卸商並に履物問屋として一流獨歩の商權を握る實勢力は、熊本市紺屋町の増田商事株式會社である。當代増田善次郎君、夙に熊商を卒へ、新進氣鋭の才幹を振つて、能く先代の志業を達成隆興し、信望極めて厚いものがある。先年、業務の駁々たる發展と時勢の進運に鑑みる所あつて、株式組織に變更の英斷を行ひ、自ら社長となつて内外を切り廻し、尙ほ幹部重役に日隈九平君中村徳藏君、吉村常記君等の錚々腕利き連を前後左右に相擁して、常に整々堂々の陣容を張り、縦横の商略、誠實敏活な營業振を發揮して斯界に活躍雄飛し、以つて多々益々進展向上の大氣運に乗じて居る所、寔に是れ、業界の壯觀にして、又異彩なりと推稱すべしである。

□熊本絹織物業の先驅者で機業界の恩人たる君は、安政六年八月を以つて熊本市本莊町の邸に生れ、夙に、本縣織物業の振はざるを慨し、京阪の間に研鑽を積み、深く造詣する所を齎らし、明治八年歸郷後直に絹織物製造工場を建て、自ら職工と伍して刻苦精勵、以つて改良發展に腐心した結果、販路月を逐ふて擴張を見、隨而業績年々異數な良好を加へ、家運の榮達を内に満すと共に、更に熊本織物同業組合長として偉大な貢獻を致し、輸出織物全國聯合會検査部長に推され、信望隆々、斯界に重きをなして居る。最も感すべきは、産業の見地に立脚せる其政争超越振りで、彼の組合をも是れが累禍に供して恬然たるもの比々たるかの間に特記推稱すべきである。

履物和傘卸問屋



◆店支津川◆

- 熊本市萬町二丁目
- 本店.....山鹿町
- 支店.....鹿兒島市金生町

□履物、和傘卸問屋として、九州の斯界に聲名を馳せ、商運隆々真に端腕すべからざる洋々の前途を有する川津支店は、今や、南九州一圓の商權を擁して、八幡、小倉、長崎等の各方面に牢乎たる販路を築き上げ、其の整備せる工場と充實せる店の内容と相俟つて、縦横の活躍をなし、驚嘆すべき發展を遂げて居る。

□本店を山鹿町に有し、業界稀に見る商才で、敏腕家の推稱高き早川仁三郎君當支店を經營し十三年前米屋町に開業して以來其の優秀なる製品と、低廉なる價格に加ふるに誠實懇切な營業振りを發揮し、而も能く商機を捉へて、時代の趨勢に順應善處した結果顧客は自ら水の低きに流るるが如く集り來り、隨而鬱勃たる商運の大發展は、更に店舗工場の擴張を促して止まぬので、五年前現在の場所に、今日に見るが如き模範的店舗と工場を新築移轉したのである。職人五十人、全店員約八十名に垂んとする人員を擁して、恰も一大家族の如き和氣藹々裡に熱誠勉勵し居る所、素より主人早川君の人格と才幹の反映であつて同店商勢の蔚然として群を抜く隆昌を開拓した所以も亦當然と云はねばならぬ。

□昨年十月、支店を鹿兒島金生町に創設し、是れが主任を兼ね監督の任に當り、從來の地歩に新鋭な活躍を加へて、同方面の斯界に覇を稱し、燦然たる生彩を放つて其の大前途を矚目期待されて居る□君は、本年四十九才の分別男盛りである。家庭に子女四人あり長女まさ子を子(十九才)は、縣立高等女學校卒業の才媛で、次女まる子(十四才)も亦現に縣立高等女學校在學中に屬し、他に春子(十才)房子(四才)があり常に霧々掬すべき團樂裡に起臥し別にはれと云ふ程の趣味を持たず、唯だ日夜家業を愛する外、社會公共の爲め陰徳を施して、是れを樂んで居る。



□町井坪東市本熊□
□長校學女東壺本熊□
君郎次富賀古

□帝東女學校は、明治廿五年の創立に係る蒼莨學舎の女子部を以つて、明治二十七年五月組織した私立女子中等教育機關にして、古武士の風格ある古賀富次郎君(六十才)の經營する所、誠實順良にして實用なる女子の養成を目的とし、本科と師範受験科あり。國民教育の從事者として活動する叢源となり、之れを擴充するを以つて校是となして居る。私立の特色とは云へ、此の學校程校長其の人の風格と教養を濃厚に反映せるも亦稀らしい程である。而も浮薄低調な現代教育の時弊を超越高踏して、校訓校是の標的に向つて驀進直往する所、確かに、熊本の有する女子教育の精粹として誇るべき名實がある素より不自然なる校運の膨脹が人を眩惑せしめず、真に其の高潔純良なる實用的教養に親炙せんする篤志の子女を收容しある事として、自ら、他の追隨を許さぬ渾然たる

□自贊□ 龍巷外史
自體新道。 口論斯文。
夏畦何屑。 松柏吾心。

校風を見る事が出来るのである。□君は、夙に、文學精舎、濟々費、文學館、五高等に教鞭を執り、肥後育英界の先達として深甚の信望を一身に鍾め、其の一生を教育界の爲め奉仕貫献しつゝ、ある師表的人物である。既に、名成り、功遂げ居るも、斯界の爲め老を忘れたるもの、如く鏗鏘奮闘意らず、朝夕、生徒の薰陶教育に日も足らざる熱誠は、肅然として襟を正さしむる概があり、又、其の温情慈心は自ら他を化育愛慕せしむるものある等、寔に高風仰ぐべく、彼の大正四年教育上貢献せし件からすとして市長より市有功者表彰規程に依る功績状と有功章を授與せられたるが如き、以つて其の一端を推す事が出来る。□居常書畫、讀書を趣味となし、龍巷の雅號に依る詩名高きものあり。



□熊本市藤崎宮横
□九州高等簿記學校校長
柴田鹿七郎君

□國家社會は實際家の腕に依つて支持發展を見る事が出来る。特に、商戰の陣頭に立つ第二の國民を養成して、識見あり手腕あり人格ある實際家を經濟界の各方面に送ると謂ふ事は、是れを國家的經綸からするも、又、個人的幸福を庶幾する點からしても、實に重要且つ偉大なる意義と隨つて貢獻がなければならぬ。

□この見地よりして、吾人は、簿記學校の使命の高きと其の任の重きを痛切に感ずると共に、是れが發展隆昌は正に時代の最大要求だと祝福措かぬものである。顧みれば我が熊本に於ても、所謂簿記學校の起源、夙に遠く、歲月を趁ふて興廢盛衰の歴史を綴つて居るが、時勢の進運は、何時迄も、過渡期の波動に榮落する學校組織を許さず、茲に

□九州高等簿記學校が盤石の基礎を齎らして創設を見る

に至つたのである。同校は大熊本市民の總氏神と崇敬措かざる藤崎宮に隣接し、大正七年九月、柴田鹿七郎君に依つて創立を見、内容の充實と設備の完備と相俟つて校運、年と共に隆昌を致し、男子部、女子部に分れ、職員十有餘名、生徒數實に四百名に垂んとする盛大である。特に、就職紹介、貸費女生、苦學男生養成等の適切崇高な特色ある時代の經營は、其の理想的教化と相俟つて、世人の信望を鐘め、日に月に歡迎せられて居る。

□校長柴田君は、夙に上京法律學校に學び、後、歸郷するや、志を育英界に立て、特に實際的中等教育に留意し其縁戚に當る九州簿記學界の權威にして簿記學研究會長田代仙次郎君に就き深く造詣する所あり、最初、英數漢簿記、習字等の中等教育機關として進みしも、大に感ずる所ありて大正九年現制度に改めたのである。

□由來、簿記學の教授は、多く煩雜、多岐に流れ易く、爲めに、滔々として、亡羊の嘆を發せしむるのであるが同校に於ては、深く茲に留意する所あり、即ち、あらゆる最新の方法を攻究實施し、叮嚀懇切に斯道の蘊奥を授け、尙ほ且つ、實地活用に重きを置いて實用的人物の養成に最大の注意を拂ひ、以つて万全の使命を果し、而も其の子弟に對するや、常に慈母の如き情意を披瀝して、訓化指導に衝り、唯々、門人子弟の立身出世を祈念する外、又、他意なきもの、如く、隨つて入學金を徴せず、極めて低廉なる月謝にて四時校門を開放して居る。



□熊本市新町一丁目
□私立勤業女學校校長
藤川豐男君

□女子教育終局の目的は、即ち良妻賢母でなければならぬ。而して、良妻たり賢母たるの途、素より多岐多端ならんも、是れを遠きに求めず、先づ、手近な女子須要な常識と健全なる品格と且つ家庭に於て、最も實用缺ぐ可らざる和洋裁縫の技を一通り修得し置く事である。熊本市新町一丁目私立有働裁縫女學校創立の趣旨、茲に發し其の歲月と共に益々發展の校運を招きつゝある所以も、亦かゝる時代的要求に合致せる結果である。

□校舎の外観規模、以つて誇示するに足らずとも、内容の充實せる、特に、其の實際教授の理想的なるに至つては、推賞驚嘆に堪へぬ所である。本科、別科及び實習科を設け、本科を三年、別科を二年、實習科を一年とし職業的裁縫の教授と生徒に對し裁縫の材料供給と習熟の生徒に對し工賃を給する事を以つて特色として居る。

□同校は、明治廿九年有働虎作君の創立に係り、其の物故後今より約五年前、君、是れを繼承して、一大刷新を加へ、以つて今日に至る校運を招致したのである。數年前迄は、僅か百名内外の生徒に過ぎざりしも學校内容の整備振興と時勢と相俟つて今や三百名に垂んとする生徒を收容し、十數名の職員中には、高濱爲子、大谷美壽子兩女史の如き十七八年勤続の功勞者ありて、校運の支持發展に献身的努力奮闘を捧げたる美はしき歴史あるに徴しても、如何に其の校風が純真崇高なるものあるかを推すに難くないのである。

□校長藤川豐男君(五十一才)は、市内黒髮町の出身で閨姓より出で、藤川家を繼ぎたる由縁深き舊家門に生れ、夙に、裁内中學校を卒へ、先づ、託麻高等小學校に教鞭を執る事七ヶ年、更に飽託郡龍田小學校に轉じ、顯著なる功績を挙げ、拔擢されて熊本市高等小學校に在勤九ヶ年間、市に於ける初等教育の牛耳を握つて指導啓發の貢獻絶からず、隆々の信望を一身に鐘め、更に手取山崎に奉職六年の後、感ずる所ありて辞し専ら有働裁縫女學校の爲め、畢生の心血を盡ぐべく、勇往邁進、以つて今日に至つて居る。資性温厚篤實、思慮周到、識見又高邁、能く衆と和して校運を包容振作する所、自ら、人に師表たる徳望を有し、眞に、得難き良教育家の範たる風格がある。熊本唯一の裁縫女學校である名實を益々發揚すべく社會國家の爲め茲に君の加餐自重を祈る。



□社會式株運通國內□
□所張出本熊上□

君作虎邊宮

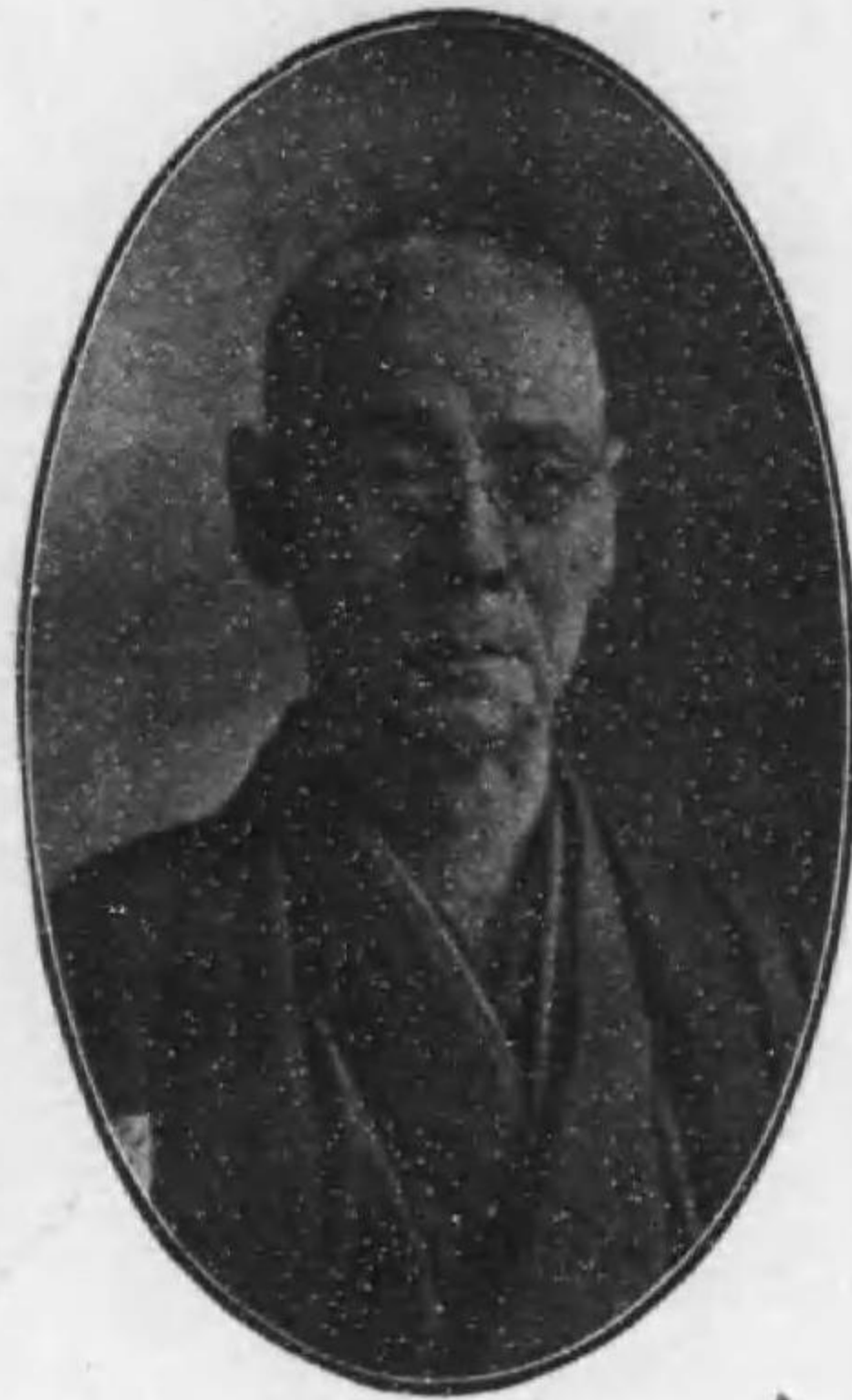


□商司厚□團蒲□
□町屋米市本熊□

君郎次安木正

□君は熊本縣玉名郡長洲の出身にして明治十二年を以つて生る。明治三十四年頃より本邦運送界の大權威たる内國通運會社に入り、先づ、久留米支店に格勤する事四年、更に熊本支店に前後二回を通じて多年精勵奮闘し、聲望隆々今日に至つて居る。斯くて、熊本に於ける物資集散の形勢は、特に、繭、生絲等を中心とする上熊本驛の地歩、最も重きを加へ、爲めに人格者で敏腕家たる君が拔擢せられて、其の大任に當り、能く使命を完うしつつある所、又、凡庸細鱗の徒の到底企及すべからざる點である。資質温良質實、而も一片稜々の氣骨と勇斷を内し、飽迄、大膽心小の事務經營を見、居常業務熱誠を以つて鳴る斯界傑出の人物である。

□米屋町の正木蒲團店と謂へば、縣下一圓は素よりの事南九州一帯に牢乎たる販路を有する著明店であるが、打ち見た所、如何にも質朴で表面を飾らず、一見、此の店がと驚く程であるが、更に内容の充實せると、經費をかけるない營業法による良貨廉賣には舌を捲かざるを得ぬものがある。同店は、元、大物の卸商を營んで居たが當代安次郎君繁次郎君兄弟は、幼少に嚴父を亡ひ、慈母の手一つで育ち、明治三十八年九月現營業を始め、兄弟一心同体となり相助け相和して美望すべき協力に依り、今日の如き家運の隆昌を得、更に益々發展止まざる所、眞に模範的家庭の人物にして推賞措く能はざる實業家である。特に其の厚司、蒲團は他の追隨を許さぬ好評がある。



君吾源村上

- 各種雜貨小間物化粧品卸商
- 大和座演劇株式會社取締役
- 肥後共同製氷株式會社相談役
- 熊本魚市場株式會社監査役
- 前市會議員 □熊本市紺屋町

□赤手空拳より身を起して、巨万の富を築き上げ、市會議員等の名譽公職にも推されて名を成し、牢乎たる社會的潛勢力を發揮して、多々益々商勢を張り、老來鏗鏘として壯者を凌ぎつつ晩年の身世を樂み居る一代の成功家上村源吾君は、確かに立志傳中の幾頁かを飾るに足る人物である。

□君は、勿論學識の世に誇るべきものなく、高德の人を化す修養ありとは謂へぬが、其の終始一日の如く、絶倫な勢力と、常人の企及すべからざる耐忍持久力を發揮して、星より星に奮闘努力した牢乎不拔の大勇猛心は、取つて以つて、彼の遊逸放縱にして、勤儉精勵の行を缺く者多い滔々たる現代人士の範とするに足るものがある。

□凡そ一藝一能に長ずるもの、或は他に優越して功を成す程の人物は、何處かに凡人と異なる點がなければならぬ即ち人間としての力に於て、他に打ち勝たなくては頭角を顯す事が出来ぬのである。引例は是れを遠くに求むるまでもない。熊本市現在の所謂成功家だと世人に推稱さるゝ五指十指の人物に就いて、其の經路を點檢し來れば自ら首肯すべきものが發見されるのだ。

□上村君又、夙に成功家たる資質と機畧があり、其の特長を鞭撻して、飽迄も初一念を貫徹した結果、今日に見るが如き成果を贏ち得たのである。君に接すれば、其の不得要領な言行の間に、何處か、活社會の機微に觸れ、人間味の流石に掬すべき點をチラホラ發見さるゝのである。勿論、時代に惠浴された幸運も加つて居る筈だが、要は君の力量努力が活社會の激争に勝利者たらしめたのだ。

□其の資性と過去に徴して、貨殖に専念なるは當然であるが、時に社會公共や社寺等の爲め其の義囊を披いて居る



□家 業 事□

◇町 服 吳 市 本 熊◇

君一又溝横

□横溝君が熊本に於ける成功家の一人である事は、世人の夙に熟知する所で今更贅する迄もないのだ。抑も成功家と云はれる迄には、其の事業の何たるを問はず、又程度の如何に關らず、尋常一様の苦勞と才幹では贏ち得らるるものでない。社會に頭角を現はして、一角の名を誦はれるには、それだけ他に卓越せる力を發揮すると共に人一倍の活動奮勵を前提せねばならぬ。横溝君の今日あるを得た所以も亦茲に起因するのである。

□君は、約二十年前から、彼の本邦製紙事業界一方の雄たる九州製紙株式會社製品の關西一圓に亘る販賣權を一手に引受けて居るが、其の是れを握るに至れる密接な關係と功勞あるを特記せねばならぬ。

□九州製紙の前身たる東肥製紙が、明治三十四年中、不幸祝融の災禍に罹りて破綻の悲運に遭遇した際、社有財産は、一時擧げて裁判所に手に移つたのである。所が製紙機械なるものは、元來、其の保存上、寸時も運轉の中止を許さぬのであるから、此の場合機械の運轉を中止して放置せんか、旬日を出でずして一大破損を招致し、又使用に堪へぬ様になり、隨而九州製紙會社の創立を見る事が出来なかつたのは、當時その消息を知れる人々の熟知せる所であつた。即ち横溝君は、自己の利害を顧みず、進んで當路に請ひ、東肥製紙機械の運轉を引受け、傍ら東肥破綻の整理に當り新に九州製紙の創立に奔走して遂に現在の九州製紙株式會社設立の完成を見、同時に全社製品の一手販賣權を獲得するに至つたのであるが、是れ即ち當然の應報と云はねばならぬ。

□而も、君は是れを以つて満足せず、更に九州洋紙株式會社を起し、下關の富豪原田岩吉君等と相呼應提携して羽翼を擴げ、自ら會社の専務に就き、縱横の敏腕を振ひ今や關西の紙商界に其の名實を誦はるゝ地步を占め、隨而、他方面の會社及び事業等にも幾多投資し居れるが、明敏にして天才的理財家たる君の關係事業會社は、何れも好成績を以つて終始し、其の總てを概括して君の現在並に將來を觀測すれば、如何に汪洋たる成功の展開であるかを想到せらるるのである。



□長店支本熊行銀金貯榮共□

君宣實井永

□一時、雨後の筍の子の如く、頻出濫設を見た所謂貯蓄銀行なるものが、時代の推移と共に淘汰し去られて、消え失せ、獨り、基礎強固で、健實なる經營に終始したのが益々發展して居るのは、當然の歸結であつて、公正なる社會的理法の支配を時と共に受けたまでの事だ。

□株式會社共榮貯金銀行は、即ち本邦で創設した貯蓄銀行中の、最も成功したもので、今日、盤若の基礎に立つて多々益々健實な營業方針を發揮し、盛運隆々、寔に業界異數の大發展を贏ち得て居る。

□同行は、明治三十三年二月の創立で、資本金壹百萬圓の大を擁し、本店は東京にあるが、全國樞要な箇所に洩れなく支店、出張所、代理店を設置せる爲め、各種の資益便利を得、而も其の營業は、最初から普通あり觸れた貯蓄銀行と、自ら方法を異にし、定期貯金の如き預金者

に最も割善き利息を附すると共に、別に有利な方途を設け、資金入用場合等には、簡易な手續で貸附け、誠實眞摯な營業振りと營利に因はれぬ主旨を信条とする所謂理想的貯蓄銀行である。尙ほ其の營業種目は、

□普通銀行一般の業務を取扱ひ、殊に定期預金、小口當座預金、貯蓄預金、定期貯金方面の貯蓄銀行的機能を遺憾なく發揮し、以つて中産階級に最も大なる便益を計り貢献を致して居る。

□熊本支店は、大正三年二月の開店で、爾來、順潮な發展を遂げ、縣下の金融界に重きをなし、漸次、其の確實な基礎と出色せる營業振りは江湖の自熱的指望を鐘め、彼の、二ヶ年、三ヶ年、五ヶ年の定期積金及び定期預金等の有利便益なる貯金取扱は最も時勢に適應せる事として、預金者爲めに相踵ぐの盛況である。

□支店長永井實宣君は、熊本市外清水村の出身で、明治十二年生、夙に五高を卒へて、大藏省に奉職した事があり、又軍役に服して陸軍將校の經歷を有して居る。資性濃厚謙讓、思慮周到細密、加ふるに趨勢遠觀の機畧を抱き、大藏省仕官時代より、金融界の研究を積み、造詣する所極めて深く、其の熊本支店を經營擔當するや、能く時代の大勢と機宜の善處を發揮して同支店、今日の盛運を開拓達成した傑出の人物である。尙ほ、腕揃ひの行員を擁し、多々益々發展の氣運である。茲に同支店の大進展と君の健福を併せ祈る。



□町下木市本熊□

君郎太已上田

□新町地方の潜勢力として、稜々の風格と侃諤の卓論を併せ有し、兎角、何かにつけ寂寞の憾ある新町西北方面の爲め、常に萬丈の氣を吐くものは、先づ田上已太郎君である。君は、青年時代より土木請業を營み川尻の鐵道鐵橋工事等に從事して出色の才幹を振つて居たが、彼の日清役の風雲に際會するや、即ち蹶然として是れに従ひ第六師團兵站部の酒保取締となり、在清する事二ヶ年、其の間、幾度か生死の巻を往來出入し、以つて人間究極の度胸の試験を経験したので、君が大事に臨み、泰然自若たる堂々の膽懷は、自ら其の由つて來たる所以のものあるを推知し得らるゝではないか。

□平和克復後も尙ほ、野砲隊列の用達酒保として、旅順に在留し、縦横の活躍を試み、大に名聲を博したのであるが、明治二十年、歸來する事となり、直に、酒類卸小

賣商を開始し、是れ又忽ちに隆々の商運を開き、異常な發展を贏ち得たのである。時、偶々、日露役となり、慧眼早くも佐世保に雄姿を現はし、各用達商の錚々と相結んで、酒類を納め、愛國盡忠の奮闘努力を致すと共に、當然、尠からぬ報酬利得を收めたのである。

□斯くて、明敏なる機略と精勵勤勉の結果、家連年々歳々、隆昌を加ふる一方又能く、社會公共の爲め盡瘁貢獻怠らず、其の衆望を負ふて市議員となるや、常に市百年の長計大策より打算して、高論卓説を披瀝し、彼の問題の上水道に接するや、即ち身を陣頭第一線に挺して、急先鋒となり、侃々の議、諤々の論をやつて盛に馳驅奮闘した鮮やかな戦陣振りは、今尙ほ世人の記憶に新たなる所、顧みて上水道問題が十三年に亘る波瀾量疊、紆餘曲折の末漸く、今日、解決を見たのであるが、其の間、紛々擾々たる群議俗論を排して君の如き經綸に富む先見的人物が熱誠を披いて、終始一日の如く、其の速成に銳意宣傳した勞功に負ふ所のもの大なるを、特筆多謝せねばならぬのである。

□多年、町總代を勤め町内の信望厚く、湯屋同業組合の創設以來、之が牛耳を握つて改善進歩を致し、令名噴々たり。尙ほ十一年前よりガス、コークス及び、ケントン友禪染の一手販賣を營み、盛況無比の概である。



□家 書□

君庭鶴井坂

▽書道の大家、鶴庭坂井虎太郎君は、熊城新町に生れ、幼少六才にして早くも書を能くし、九才より是れが正式の研鑽に入り、東肥の碩儒兼坂止水翁に就いて具さに詩書を學び、壯年に至り、巖谷一六、日下部鳴鶴、中林梧竹の日本三大家に私淑して益々造詣を加へ、更に支那歴代に亘る新古の書道を深く習得し、特に唐の孫過庭を好んで其の書風の精髓を極め、遂に一新機軸を拓いて名家の境涯を贏ち得たのである。其の間、實に五十有餘年、終始一日の如く苦心研究怠らず、艶麗花を欺きし其の書風は、年と共に雅致を帯び來り、今、正に枯淡入神の殿堂を發揮して居る。

▽三百年前、新町に居住して聲名を天下に馳せた肥後の書聖雪山の流風餘韻は、今尙ほ肥後の書風を支配し居るかの概であるが、君は素より是れに慊焉たるものあり、即ち、其古今を徹する造詣と前人未發の神技を振て肥後

の書風刷新に銳意する所がある。世人、君に囑り期待して、肥後雪山以來の詩聖で中興の鼻祖たらん事を以てする、又故ありと云ふべしだ。

▽資性恬淡謙讓にして名利を求めず、瀟洒たる書室に美の王國を建設し、風發する墨痕を以つて三昧の境に入りつゝ、ある君の高風雅懷は、寔に是れ人生の至純至高な境涯である。と、同時に又能く、書道の興隆に心力を傾注し、教へて倦まず、雅囑を滿しては其の神韻漂逸の雅致を江湖に布く所、以つて社會世道を裨益貢獻するもの自ら大なるを多とせねばならぬ。

▽市内、刀圭界の錚々たる藤野亂、大里直、神尾三伯、加治八郎、宮崎辰雄、田中巖、小澄任市、浦本清、出山四郎、黒川翼、豊島彦三郎、野尻万治、齊藤宗績、伊藤忠、高岡紉勝、行徳健男、大坪寅太の諸君並に長崎伊太郎、追源次郎、鳥井雪田、小川彌次郎、牛島治三郎、有働龜喜、吉川長次郎、長崎茂平等の一流有志家が發起贊助のもとに、鶴庭先生揮毫會を作り、或は書道會を起して師承する等、君の書風に親昵するもの相接衝し來ると云ふ信望名聲を一身に鐘めて居る。神技空しからず、徳必ず隣りありと云ふべきか。

▽尙ほ君の嚴父は、松濤軒桑人聽松と號して書道指南を勤め令名高かりし人、令兄も亦書に巧みにて傳統的な天才の家柄である。因に鶴庭の號は庭前の松と前記孫過庭私淑による由。齡五十七才。



熊本市塩屋町
日本國債株式會社支店

□日本國債株式會社は、栃木縣第一流の富豪にして、前長者議員たりし阿由葉館三郎君が、其の豊富なる資力と崇高の人格を提げて、各種國債の民衆的消化に依る國利民福を増進すべく、大正元年十月、是れを創立し、其の物故後、合息正一郎君繼いで社長に推され今日に及んで居る。君は、早大法科の出、新人物中の錚々を以つて鳴る實業界の花形である。更に、専務取締役の堀口貫道君は、以前、大藏省に屬官たる事十年間、恪勤精勵の名聲あり、財界の造詣深く、卓抜の才幹と高邁の識見を併せ有する傑出練達の人材である。

□斯くの如く、營業種目の内容が國策の大本に合致し、時代の要求に投じた金融機關で、而も經營者其の人を得て居る爲め、社運の發展眞に驚嘆すべきものあり、今や全國各樞要地に十一ヶ所の支部を有し、總契約高四千八

百万圓を越するに至り、更に前途の大活躍大進展窺知を許さぬ概がある。

□九州に於ける同社は、熊本實業界の巨頭たる林千八君が重役たる關係上、其の監督のもとに健實なる基礎を築き上げ、熊本支部大正十一年十二月現在の總契約高二百餘萬圓を算するに徴しても如何に隆々無比の盛運を招致せるかを窺知し得らるゝではないか。

□支部長西濱政吉君は、静岡縣の出で、東京に育つた人明治十三年生と謂へば、今正に活動分別の男盛りだ。最初本社の樞要部に縦横の敏腕を振ひ、大正六年拔擢されて金澤支部に赴任し、全支部の基礎を磐石の上に置く奮闘努力を拂ひ、最も鮮やかなる好成績を挙げ噴々の聲望を馳せて居たが、九州に於ける根本の大開拓の要起り、即ち洋々の使命を齎らして大正九年十月任に就き、快刀乱麻の勇斷を加へて、濶濶たる新陣容を整へ、其の冴えた經營振りは、忽ちに冲天の活況を呈するに至り、月十萬圓以上の契約を得、満期幾萬圓を現金償還し、五萬圓以上に亘る市内貸付を開始する等、随つて社會的信望自ら鍾り、今や、其の監督に屬する鹿兒島、大牟田、久留米、福岡の各出張所を通じて、九州一圓の大擴張を見、優に、月十五六萬圓の契約高を擧ぐる好成績である。かかる發展の大氣運に促され、從來の營業所にては到底狹隘不便を告げ、茲に、大正十一年四月新築の工を起し全十月堂々たる竣成を見たのである。



□館界世設常動活□
□任主業興□
君郎太市藤丹

□熊本市のキネマ界は、新市街の目と鼻に五常設館が互に隣接して、常に、白熱的競争を演じて居る。斯くて、經營者の興業手腕は時々刻々館の盛衰に現はれ、移り行くフアンの心を捕ふべく各館共、あらん限りの秘術と勢力を傾け盡して居る中で、一際目立つて鮮やかなのは、實に、世界館の四時變らぬ活躍發展振りである。是れ全く、丹藤君の非凡な活腕の結果で、年中押すなくの白熱的人氣を集中し居る所、到底、他の追隨を許さぬ天晴れな牙方である。君は、大分縣の出、多年日活社營業部に在つて縦横の腕を磨いた斯界の花形にして、熊本世界館の經營難を挽回すべく拔擢、任に就き、以つて今日に見るが如き隆々無比の盛運を贏ち得て居る。

□明八ゴム底足袋製造元
□各種足袋
□ゴム靴
□ゲートル
卸 商
西 原 雪 吉
熊 本 支 店

熊本市(西唐人町)明八橋際
振替口座二五三三三番

□ゴム底足袋の流行は、年一年と白熱し來り、足袋界に革命的な新機軸を開く様になつた。随つて是れを取扱ふ店舗各所に現はれ、熊本市の如きも亦激争の觀を呈して居るが、專業の西原雪吉君の前では、恰も太陽の前の月光の如き概である。君は岡山縣の出身で明治十九年生の活動盛り、幼少の折から各種の足袋製造に従事し、所謂腹からの足袋商人だ。慧眼早くも地下足袋に指を染め、其の製造に係る明八ゴムの如き、斯界を風靡靡捲するの威勢である。十三年前來熊し、最初細工町にて營業せしも、業務發展の爲め現在の場所に移轉し來り、岡山縣を本店として、其の製品一式を販賣し、南九州一圓に牟平たる販路を握つて居る。



□町木本二市本熊□
□院醫田内□
君甫田内

□君は、福岡縣柳河町の出、代々醫を以つて立花藩主に仕へたる由緒深い家柄に生れ、其の傳統を繼いで志を刀圭界に立て、夙に上京、彼の東京醫科大學豫科時代の出身に係り、卒業後、愛媛縣立病院に實地研鑽を積んで深く造詣する所あり、斯くて明治二十三年福岡市に獨立開業し、着々、接踵し來る患者の信頼を集めつゝある際、熊本二本木病院の革新的施設經營に伴ふ新人物の招聘として懇請黙止し難く、即ち、明治三十年より全四十二年迄の十有餘年間を、同病院の爲め献身的努力を拂ひ、格勳精勵の功勳眞に赫灼たるものあり。其の間、古町外十一ヶ町村傳染病院囑託醫に推され、畫策貢獻怠らず、爲めに信望隆々、社會的聲名を一身に鍾めて居たが、其の後、感ずる所あり、且つ町村界限の切なる慈惠を容れて開業今日に及んで居る。

□二本木町方面の開業醫は、其の土地の事情と風習等より來る關係上、兎角、常識圏内を超越せねばならぬもの多々あるが如し。醫師としての社交に於て然るが様に、施術治療上でも特殊の技倆と複雑せる心理的考察を留意攻究せざれば、到底、地方色に富む良醫名國手たり得ぬのである。然るに、君は、能く、此の間の消息を体驗知悉して、最もデリケートな人心を捕へ、且つ新進の研鑽を怠らず、月歩の施設を斷行する等、以つて、行くこと可ならざるなき其の天分の豊富を驚嘆措く能はざると共に崇高清廉なる人格美の輝きは、眞に、仁術の實在たる畏敬を拂はれ居る所以である。明治三十七年以來の學校醫及び、前村醫として功勞顯著なるものがあり、又、郡醫師會幹事並に理事たりし等に徴するも如何に醫界の重要人物であるかを推す事が出来るではないか。
□全科に亘りて、起死回生の妙技を發揮し、惡驚可嘩、他に對して聊かも城府を設けず、其の患者に接するや、常に、全我を傾け盡す。仁術の濫輿に入り、斯くて盛況日に月に進み、今や、同地方切つての醫院たる名實を捕へ、多々益々隆昌を招致しつゝあるもの、即ち善因善果の應報と見做すべく仁と徳は必ず孤でない証左ではないか。居常、謡曲、舞踊、碁、狩獵、書畫等、極めて多趣味であり、閑日月を得ては、是等の高風雅懷に心身を洗練修養し居る等、又、君の風格の一端を窺ふに足るべきである。



□前局便郵本熊□
□賣販造製子菓種各□

君郎次辨富武



□前驛本熊□
□長店支本熊運通國內□

君夫英好三

□君は佐賀縣の出身にして、資性剛毅果斷、其の明敏なる頭腦を以つて能く業界を遂観し、縦横非凡の鐵腕は年と共に錚々冑えて、流石に、本邦運輸界の一大權威たる内國通運會社の南九州に於ける使命を脊負つて立つ名實の持主だけあつて、自ら一頭地を抜く傑出振りである。由來、熊本運送界は、其の内部の激争に於て、敢て他地方に譲らぬ歴史があり、且つ、九州鐵道網の實現に伴ふて中樞的機軸を握りつゝある熊本運送界の將來は益々多事多端でなければならぬ。かゝる地の利を擁して、業界百戰の猛將たる君が今後の活躍は、蓋し想像に難くないのである。居常、熱烈なる信神に依り靈的修養を積み、爲めに畏敬すべき風格がある。

□熊本郵便局前の大場所に、角店の大繁昌を見つゝある商店は、即ち是れ、武富菓舖である。新町三丁目の武富菓子店の令弟に當り、佐賀縣出身で、其の製品に係る櫻羊羹、マルポーロの如き、到底、他店の真似を許さぬ風味を發揮して、白熱的歡迎を受けて居る。其他各種菓子一式を製造販賣し、家號小櫻屋の菓子と謂へば、品質優良で價格の低廉を以つて鳴り、而も、熊本屈指の地の利な場所柄とて、全店の菓子が飛ぶ様に賣れ居るは、眞に故ありと稱すべしである。

□君は、約二十年前頃來熊し、元、吳服町角に經營せしも約十二年前現在の個所に移轉し來り、以つて今日に見る盛運を開いて居る。年五十五才。



□員議會市□

君衛兵長本楠

の成功家と見て然るべき財産の所有者たるに拘らず其の家をば、君一代限りにしたい理想を抱き、終生の清廉な生活資金のみを以て満足し、他は擧つて社會的資益の爲め隨時是れを提供せんとするものであるらしい。目下夫婦二人暮しにて閑日月を送り、静かに餘生を楽しみ、以つて身世の徐ろに暮れ行くのも、更に介意せぬ禪脱振りである。

□從來、幾人かの貧兒を育て、親身も及ばぬ程の慈愛を瀝ぎ、學費等を給與して、其の立身出世に致した篤志善行は、特筆大書せねばならぬ點で、現に、其の中の一人の如きは、小學時代よりの秀才にして、中學卒業まで特待生となり、一年志願兵を卒へて、目下印度方面に活躍奮闘しつゝある有爲多望な青年であると言ふ。

□一人の娘は、既に他に嫁して、相當の暮しを營み居れば、尠からざる君の遺産は、右述ぶるが如く、一代の身世に心置きなく消費貢獻する筈で、春竹町等の公共事業其他慈善行爲等、枚舉に遑あらざる程である。特に教育方面に對し、最も考慮を拂ひ、隨而物質的に或は精神的に盡瘁する所、極めて多く、彼の春竹に於ける夜學、補習教育等、率先して援助指導の衝に當り、終始一日の如く、銳意進める事なき、獻身的努力精勵は附近、町民の最も徳とし居るのである。

□茲に、君の健在を祈る。

□去る市議戦に、春竹舉町の輿望を脊負ふて、悠々當選し、更に六十九歳の年長たる故を以つて假議長を勤むる榮譽者となり大に面目を施した楠本長兵衛君は、元、上益城郡甲佐町の人、多年、彼の一代の怪傑で國權黨の重鎮たりし渡邊敬昌翁の知遇に感激して、一種の社會革新運動に従事貢獻した事があり、更に約十年前より熊本春竹町に來住する事となり、屠牛所經營の傍ら、常に町民の覺醒向上に就いて心膽を碎き、あらゆる困難と迫害に打ち克つて、能く、初一念を貫き、着々其の熱誠と努力が聊か報いられつゝあるは、是れを多とし、且つ其の心事の壯なるものあるを推さねばならぬ。

□君は、確かに一種の徹底せる社會人生觀と一片稜々の俠骨とを斷行する勇氣の持主である。先づ資産に對する君の所信は、子孫の爲め美田を買はぬ主義で、現に一代



□店服洋泉□

君 郎 一 泉

州の泉」と云へば、業界の權威として誰知らぬもの無き程の成功を贏ち得た一人者である。是れ、君が天職の高きを自覺して、殆んど業務に殉ずる境涯で奮勵した、所謂熱誠の結晶が茲に酬いられたのである。以つて業界の範とし、誇りとすべき點だ。

□嫡男一郎君は、寔に是れ、嚴君の志業を更に大成すべき出藍非凡な新進人物で、端腕を許さざる將來を持つて居る。夙に中學済々費を出で、更に東京洋服工商學校を卒業し、尙ほ進んで、歐米の留學觀察を遂げ、特に世界一の洋服大學校たる權威と歴史を有する米國ミツチエル學校及び英國ミヌスター學校を共に卒業した學歴に於て既に本邦業界の最も誇りとせねばならぬ點である。此の兩校は、實に世界的洋服學校の雙壁であつて又大學程度の洋服學校は他に無いので、尙くも洋服界に青雲の壮志を抱く程のものは、此の學校を見た丈けでも誇りとして居る位なのに、君は既に茲を卒業し、更に獨逸、佛國の觀察を遂げたのである。年齢二十六才、其の洋々たる大前途を齎らして、現に家業専念活躍中だ。洋服界に於ける九州の泉を超越して、日本の泉たる蓋し遠からぬであらう。尙ほ、令弟二郎君慶應大學、三郎君陸軍士官學校四郎君濟々費、令妹すね女子大學、雪子小學校各在學中なり。以つて家門の榮譽思ひやるべしだ。

□茲に泉洋服店の洋々たる前途を祝福す。

□熊本洋服界の名實を完全に代表するものは、泉増太郎氏である。多年熊本洋服業組合長として貢獻大に努め、本年四月三日、組合より表彰されたのでも、其の功勞と信望の一端を推す事が出来る然して、君の社會的實勢力は、既に、洋服界のみの人でなく、熊本事業界一方の雄たる概を示して居る。即ち中津親義君正解者の一人で、事業上に關し、同君と極めて靈犀相通するものがあり、現に共益社鐵工所取締役、熊本物産會社取締役の任に就き、尙ほ商工會理事となり、中津君と提携或は助言して着々、事業界の中心に向つて擡頭活躍しつゝあり。

□君は、上益城郡木倉村出身の明治三年生である。明治二十四年來熊と共に、洋服業を開始し、刻苦精勵、具さに業務の練達と研究を積み、聰明穎脱な天質と相俟つて妙技神に入る技能を得、加ふるに確實誠意に富む營業振りを發揮して終始した結果、名聲、嶄然斯界を風靡し、「九



有働龜喜君

□大熊本市、新町地方の潜勢力を代表するものは、有働龜喜君である。温厚篤實、忠直謙讓の徳操美を發揮して能く、社會公共の爲め盡瘁貢獻忘らぬ功勞は、夙に世人の熟知して推稱多謝措かぬ所、右に記する公職に就いて是れを見るも、如何に君が、市の各方面に於て、重きをなし居るかが推知せらるゝのである。

□新町方面の現在は、兎角、萎靡振はず、何かにつけて、後れ勝ちであるのは争はれぬ事實だ。是れ或は地の利を得ぬ當然の歸結だとなす觀察も一理なきにしもあらずだが要は、該地方民の覺醒と努力の缺如に起因すべく、特に其の中心勢力を支配する所謂有志諸君なるものを觀じ來つて、吾人は茲に、同地方唯一の徳望家たる有働龜喜君が更に、奮奮興起して、頽勢を既倒に廻すの勇斷努力を致し、以つて切實なる負托に酬ゆる所あるを期待し、

且つ祈つて止まぬ。

□君は、新町に於ける最も古き歴史を有する家系に生れ西南役の際、兵燹に罹りたるも、更に以前に勝る家運の挽回を願ち得て、今日に及び、以つて家門の榮譽を多々益々達成しつつある模範的人物である。

□居常、書畫、骨董を唯一の趣味とし、其の蒐集に係る逸物、名品は斯界の珍寶に値するもの多く、日常、是れを鑑賞、嗜好して高雅な風格を培養する爲め、自ら、品性情操の典雅を致し、隨而、人格徳望、衆を抜いて高く輝くものがある。

□家族は、母堂婦佐子(八十四才)令閨世津子(五十二才)の外一男一女あり。長男達喜君(十九才)本年三月熊商を卒業し、直に東京帝大商科に入學した秀才にして、長女美代子(十二才)は一新小學校在學中である。

□熊本市尚武會委員□同在郷軍人會一新分會顧問□一新校商議員□熊本市衛生委員及蔚山町檜物屋町衛生組長□蔚山町々總代□熊本招魂祭財團委員□熊本稅務所營業稅調查委員□前市會議員(三期)□前熊本稅務所所得稅調查委員□國勢調查委員□熊本市蔚山町八十九番地質屋貸家業□齡五十六歲□



熊本市唐人町
井上履物店

□大熊本市の履物小賣商中、水際立つて繁昌し居る店舗は即ち、井上履物商店だ。場所は、唐人町の中央角と云ふ熊本一の好適目買な要地であり、商品は悉く是れ各地一流筋の信用ある卸商舖で直接精選したのが豊富に取り揃へ、加ふるに低廉、懇切、誠實な營業方針を以つて終始して居る爲め、品物で満足すると共に店主店員の親切な心意氣に感ぜざるものなく、隨而店頭常に市をなす大繁榮を見るのも亦當然だと云はねばならぬ。

□同店は、茂平氏の嚴父忠吉氏の創業に係り、既に五十年を経過し、家運年々歳々、異常な發展を加へ、現在は、茂平氏の嫡男右平君(三十五才)が店の内外一切に敏腕を振つて家運の大成を遂げつゝ、あり他に忠次郎、銀藏、勝次の兄弟諸君が各々業務に精勵奮闘して羨ましい程仲睦まじく、嚴父茂平氏は是等善爲善良な子女家族に取り圍まれ、書畫、骨董等に悠々餘生を樂んで居る。



井上右平君

□最近、上通町に分店を開き、大に發展して居る。

- 履物小賣商組合長□
- 直營分店□
- 熊本市上通町□
- 銀藏君擔當□

□松星印醬油釀造元



□屋 洲 高 西 □

□君 藏 三 木、高 □

- 熊本縣上益城郡御船町□
- 支店……鹿兒島市
- 支店……宮崎縣加久藤

□松星印醬油は、熊本縣下御船町西高洲屋高木三藏君の銘醸に係り、業界異数の發展を遂げ、南九州一圓に牢乎たる販路を有し、特に鹿兒島市及び宮崎縣加久藤には支店を設け、商運隆々、寔に是れ、斯界出色の生彩である店主高木三藏君は機畧縦横な商才にして、事業上の熱誠又實に驚嘆すべきものあり、常に規律整然たる奮闘生活を營み、其の醸造に對する研究の如き、他の追隨を許さぬ境地に味到して居る爲め、品質の優秀は、寧ろ當然の歸結と云ふべく、各品評會、共進會博覽會等に於て絶えず、金牌を受賞し、隨而、日進月歩の擴張發展を告げ居る繁昌である。斯くて、大正十年六月業務の異常なる進展と時勢の推移に鑑みる所ありとなし、組織を資本金八萬圓の合資會社に變更すると共に益々新銳の陣營を整へて業界に雄飛して居る。

□君は實業界の飛將軍であると同時に又社會革新運動の一權威たる事は世上夙に熟知する所、即ち其の稜々の氣骨と任侠的熱血を掲げて、盛に貢獻しつゝ、ある禁酒運動は、民間稀に見る眞率熱烈な社會公共上の努力であつて、其の爲め君は秒からぬ資金と時間を吝まず東奔西走席捲んど席温まらぬ程の熱誠である。先年共勵禁酒會を起し、自ら幹事となつて會務を司り、毎月例會を開いて有益な演説を試み、或は各地に出張して活動寫眞演藝會を利用して禁酒の宣傳運動に銳意奮闘する等、其の敬虔すべき努力貢獻は、社會國家人類の爲め多謝せねばならぬのである。



□諸 紙 文 具 類 卸 商 □
 □九 州 學 用 品 株 式 會 社 常 務 取 締 役 □
 □熊 本 市 細 工 町 □

君 吉 弘 田 本

□熊本市の諸紙、文具類卸商を以つて組織せる團體に八聲會なるものあり、往年、ライトとサンエヌ問題起り、爲めに斯界一流の同業者十店中、八店對二店の紛争を見たり、其の八店を以つて組織したのが、即ち八聲會の起因で、熊本の斯界に、最も興趣ある展開を招致し來つたものである。然して、八聲會員の主腦者が、九州學用品ノート株式會社を創設し、是れに依つて共同の利益増進を期圖し且つ和親の實現を見て居るのも世上周知の通りである。所で、此の

□九州學用品ノート株式會社の設立に最も活躍奮闘した熱心家の一人者は、實に本田弘吉君である。君は、時勢の進運と業界の趨勢と殊に熊本市同業者間の將來を遠觀して、會社組織の必要を痛切に感じ、挺身奮起、是れが實現に任じた結果、其の創立を見、而も、推されて常務

取締役の要路に就き、繁劇なる家業を處理しつゝ、あるにも拘らず、能く、會社の爲めに銳意精勵怠らず、爲めに順調なる業績の發展を遂げ、年と共に隆々の盛況を開きつゝ、あるは、確かに君の事業家的才幹と献身的努力に負ふ所、最も大なるを推賞せねばならぬと共に、寂寞不振を極めつゝある熊本事業界の爲め、以つて意を強うするに足る誇りとすべきである。

□君は、健實なる志操と不羈豪放の膽懷を併せ有し、其の商機を見るに敏なる才幹と相俟つて、常に一頭地を抜く、發展活躍をなして居る所、又、業界の異才なりと推すべし。特に、地紙の奨励に熱誠を傾注し、銳意貢獻する所があり随つて、其の取引に於て、他の企及すべからざる獨特の境涯を開き美望に堪へぬ家運の隆興を見て居る。約三十年前の創業に係り、業績逐年盛況を加へ、今や縣下一圓は素より、宮崎、鹿兒島、大分等の隣縣に商勢を伸ばし、牢乎たる販路を築き上げ、多々益々、縦横の敏腕を振ひ、最も活況を呈し油の乗れる人氣店、信用店の名實高いものがある。明治十六年生と謂へば、實業家としての活動盛りに入つたばかりである、吾人は、君の窺知を許さぬ大前途の洋々春の如き成功を期し且つ祈つて止まぬ。

□家に一男二女あり、和子、正男、とし子で常に團樂を樂しんで居る。居常、業務熱心を以つて唯一の趣味となすもの、如くである。



□ 商 業 本 熊
□ 所 議 會 業 商
□ 員 議 所 議 會 業 商
□ 役 補 取 場 市 魚 新 本 熊
□ 長 合 組 業 同 屋 湯 本 熊

村上亥之吉君

□ 鐵道省指定請負人 □
□ 熊本縣下耕地整理指定請負人 □



□ 本 熊 州 九
□ 土 本 州 九
□ 木 建 州 九
□ 築 建 州 九
□ 協 會 州 九
□ 副 會 州 九
□ 長 會 州 九

村上直八君

□ 熊本に於ける土木建築請負業界の代表的人物は、村上亥之吉君(文久三年生)である。夙に、鐵道省指定請負人となり、彼の大正十年福岡市に施行せられた鐵道省五十年記念祭に、請負勤績二十五年の特別功勞者として招待され、榮譽ある記念品を受領し、又、多年、熊本縣下耕地整理指定請負人として、網田村長濱耕地整理、川口村二十町耕地整理、清水村津ノ浦耕地整理、八代郡本町鹽屋耕地整理等の施工に従事し、何れも見事なる出来栄に各褒状及び、金員の授賞を受け、尙ほ、市内大江小學校施工の際、當時物價暴騰の影響に依り極めて損工事なりしも、契約通りの功を立派に竣へた爲め慰勞金の送呈を受けたる等に徴しても、君の人物と、随つて牢乎たる社會的價望の一端を推す事が出来るではないか。更に大牟田市聖公會傳道館建築工事の竣功に當り、ベインター師を通じて佛國より慰勞金を贈呈されたが如き、他に殆ど類例のない名譽である。

□ 資性温厚篤實にして、任侠仁慈の志に富み、幾百の配下を能く、一令の下に動かす威望の持主で、斯界獨歩の概がある。随つて同業者間の信用を一身に鍾め、尙ほ社會的與望深く、既に商業會議所議員となつて居る。

□ 養嗣子直八君は、君の甥に當り、又、能く其の志業を繼いで、更に、家運の大成を期待して然るべき新進人物である。明治十九年生の活動盛りで、縦横の敏腕を振ひ令名噴々たるものがある。



□ 諸 紙 文 具 類 卸 商
□ 九 州 學 用 品 一 株 式 會 社 監 査 役
□ 熊 本 市 魚 屋 町

吉本政吉君

□ 熊本に於ける諸紙、文具類卸商として幾々の聲望ある店舗の豪なるもの十指に餘る盛況であるが、就中、吉本政吉商店は、最も特色ある商店にして、一異彩を放つて居る。

□ 同店は、舊くより煙草製造業を營み來つたが、明治三十六年の煙草專賣法實施と共に、政府の委託製造業をなす事一年有半に及び、其の後、時勢に感じ且つ信する所ありて、明治三十八年より現在の諸紙並に文具類卸商を開始し、店主政吉君の温厚實着な性格は遺憾なる業務の上に反映を見、精勵奮闘の結果、遂に、今日に見るが如き盛運を開いたのである。

□ 特に、ボール紙に對しては、特殊の研究と考慮を振ひ他の追随を許さぬ境地を開拓し、現に、縣内外に於て牢平たる販路を擁し、需給の殆ど大半を占めつゝある名實の

由、以つて、其の盛況の程を推すに難くないのである。

□ 君は、温良謹直の資性を有し、常に信用第一主義を奉じて終始する結果、一度、取引を結んだ者は何れも、其の人格と誠意に感嘆措かず、永久の得意となり、随つて圓滿なる需給關係に、自他の利益を増進しつゝあり。爲めに、同業者間にあつても、重きをなし、現に九州學用品ノート株式會社に監査役として、噴々の令名を馳せ、尙ほ、町内外の社會的價望極めて厚いものがある。

□ 彼の、本山町に於ける吉本硝子製造工場は、君の舍弟が經營し來り、寂莫なる熊本の斯界にあつて万丈の氣を吐きつゝある模範的工場であるが、事業半ばに不幸他界した令弟の工場を監督して、益々盛況無比の業運を進めつゝある君の事業家的才幹と悌情溢るゝ義心は、齊しく世人の推讃措かぬ所である。

□ 家庭に三男一女を擧げ、長女秀子は、熊本醤油界の元勳にして先達者たる本莊町赤星政吉氏の嫡男に嫁し、長男健吉君(十六才)熊商在學中二男公一君(十四才)熊本中學在學中、三男政治君(十三才)、二女昌子(十才)は共に小學校に學んで居る。

□ 居常、三島流の生花を唯一の趣味となし、情趣樹すべき風格を養つて居る。明治九年生と云へば、實業家としての分別盛りである。吾人は、斯界の爲め、君が自重加餐して益々業界に活躍せん事を期し、且つ祈つて止まざるものである。



君郎次清川吉

□鍋釜鋤鋤鑄物各種製造並に、銑鐵各種、コークス卸商として、隆々の發展を遂げ、更に、益々遡たる盛運を開きつゝある吉川清次郎君は、當世、稀に見る大活動家で其の今日に見る店運の隆昌は、全く、奮闘努力の結晶である。茲に、君が、不屈不撓、終始一日の如く精勵勉勵し來つた汗の成功を物語る事は、世上滔々たる薄志弱行の徒輩を起たしむる龜鑑ともなり、又、模範的事業家として、大熊本を飾るに足る一美談でなければならぬ。

□君は、明治十二年現在の個所に生れ、幼少、夙に、家業を起すべく、先づ、十五歳より二十歳迄の間、姉婿に當る市内迎町吉田卯平氏に就いて見習職人となり、具さに業務各般の研究を積み、二十歳には、早くも驚嘆すべき器量を磨いた爲め、茲に、初志を貫くべく、借財貳百圓を資本金として獨立開業する事となつたのである。所で、君は常に、苟くも、他を凌ぐ成功を遂げんとせば、

- 東肥鑄工株式會社專務取締役
- 鍋釜鋤鋤鑄物各種製造
- 銑鐵各種、コークス卸商
- 熊本市細工町一丁目
- 工場熊本市二本木町

尋常一様の働きの能くする所でないから、自分は普通二人前以上の活動を以つて、業務に當らなければならぬと確信發奮して、朝は未明より、夜は十二時過ぎる迄、殆ど、不体不眠の働きを斷行し、而も終始渝らざる其の勢力の絶倫と意志の強固に至つては、到底、他人の企及を許さぬ所である。斯くて、一心不乱に業務を精勵した結果、今や、數ある同業者中、嶄然頭角を抜き、東肥鑄工株式會社の專務として令名あり、將來の發展、蓋し窺知すべからざる概がある。

□資性温厚謹直にして、能く、誠意と熱情ある世話を他の爲めに致し、社會的信望極めて厚いものがある。家に一男四女あり、長女はつ子(十六歳)、次女まつえ(十四歳)、縣立女學校在學中)、三女しづ子(七歳)、四女欽子(三歳)、長男喜次郎(十一歳、尋常科)で、常に和氣漲る家庭に活動の疲れを慰しつゝある。



君澄清橋石

□世に活動家は尠くない、然し高遠な哲理を内在して、社會人生の眞意義を其の中に味解しつゝ、是れを樂む境涯の人物は寥寥稀である。茲に奮闘生活の權威者たる石橋清澄君を評傳するに當り、吾人は先づ此の點に於て多大の敬意を表すると共に江湖に向つて、大に推稱せねばならぬものあるを發見する。

□奮闘生活の權威□

□熊本市本庄町堀切□

□君は、鹿兒島市の出身で、大庭景親氏を祖先とし、松平乗承子爵の外戚に當り、前八幡製鐵所長官押川則吉氏の姪婿で岐阜縣惠那郡岩村の石橋家に養嗣子となりたる由所高き名門と榮譽輝く縁戚を有し、夙に日本法科大學を卒業後高等文官試験に合格したる俊秀の高才で、内務

大藏、司法の各省に歴任して令名を馳せ大に其の前途の大成を囑望期待されて居たが、官界生活と君の人生觀の渾然融和せぬものあるを看破し且つ古色蒼然たる規繩づくめの空氣中に踟躕するは到底英氣瀟灑たる君の性格の許す所でなく、斷然官界を去つて自由奔放な實業界に入り、而も滔々たる重役風を吹かして待合等の低級趣味に耽溺する如きは、斷じて其の取らざる所即ち自ら陣頭第一線に立つて、自轉車で風を切り、毎日得意廻りをすると云ふ活動振りは君の家門と閱歷に徹し、何と味ふべき意義深く、教訓に富む行動ではないか。取つて以つて舉世滔々、浮華遊逸を是れ事として一世の風をなさんとしつゝある現代の頂門に一針を加ふる戒とすべきである。

□君が活動生活の怡樂として選んだ事業は、食糧問題に交渉深甚な改良麥を主とする米穀類である。即ち專賣特許改良麥特許權者、不二商會九州一圓改良麥調査員並に肥後改良麥發賣部總務となり、斯界の爲め名實共に代表的聲名を博し、尙ほ熊本白米商同業組合の評議員に推されて同會の爲め其の新智識と才幹を振ひ、大に重きをなして居る。

□又一面、本庄本町三丁目副町總代となつて縦横の貢獻を致し、近隣町内の向上發展に銳意努力する等、着々社會的勢力を築き、必ず市政界に擡頭活躍すべき將來を齊しく嚮望期待されて居る。夫人シゲ子は泉州境高等女學校出身の才媛で書を能くし、内助の淑徳極めて高い。



松藤友三君

□最後の勝利は實直勤勉でなければならぬ。松藤友三君今日迄の経路に就いて見るも、時に事志に副はぬ事業上の艱難もあつた様だが、其の終始一日の如く、實直にして非常な勤勉家で通して来た事は、言ふは素より易いが行ひ實に難い所だ。此の社會國家の重寶たるべき篤行は結局酬ひられて松藤商店昨今の隆々たる盛運を見る、即ち當然の成果である。

□君は、筑後柳河在の豪農の家に生れ、夙に志望を事業界に抱き、青壯早くも貿易事業に着目して大川町に出で先づ花菱貿易に指を染め、漸次汽船問屋、材木商等と營業種目を擴張し、着々豫期の成績を挙げつゝありしも、爾後に譲られて遂に失敗の止むなきに立ち至つた際の如き君は全責任を一身に引受け、實に見上げた整理を決行した犠牲的精神は到底是れ常人の企及すべからざる人格の反映である。

□其後、監獄製品取扱業を始めたのが縁故となり、二十一年前米熊開業して、誠心誠意奮闘努力の結果、各方面の絶大な信望を博し、以つて今日に見るが如き商運の隆昌を贏ち得たのである。

□十五年前より逓信局の御用達たる榮譽を得、金物、雜品全部、電信電話器具機械類一切を納入し、建築用、金物工場を昇町に設置する等、商勢の擴張に伴ひ、多々益々内容の充實完備を見、更に、松山合名會社を組織して其の代表社員となり、熊本特産和傘の骨製作専門を營み斯界の大歓迎を受け、是れ又異常な活躍發展を招致しつゝある等、其の關係事業の何れも盛況なる、以つて君の人物と才幹の傑出非凡な證左である。

□君は本年四十五才で家に子女七人あり。長男峻君熊商を卒へて家業に就き次男瑞夫君は獄中に在學中である。

- 監獄製品熊本縣下一手販賣業
- 熊本 逓信局 御用達
- 松山合名會社代表社員
- 熊本市下追廻田畑町
- 金物工場.....市内昇町



□熊本市紺屋今町角
林田支店

□熊本市紺屋今町角の目貫な場所に熊本一の醫療器械並に理化學器械店がある。全縣下の病院及び各學校其の他一般の需要を一手に引き受けて、常に目の廻る様な繁忙で活躍發展しつゝある林田支店が即ち、それだ。同店は本店を長崎市に有し、其の内容の充實せる隨而賣行の盛大なる、九州に其の比を見ざる實勢力である。



八尾金一君

□熊本支店は八尾金一君の經營に係り、其の新進明敏な商才と誠實謙讓な性格と、縦横無盡な奮闘力を渾然發揮して、忽ちに嶄新たる頭角を顯はし、商運日に月に向上發展を加へ、今や同店の低廉な良品と誠實懇切な營業振りは相續つて顧客を水の低きに流るゝが如く吸收し、自ら牢乎たる地歩を築いて、眞に旭日昇天の勢ひである。

□君は、最も有爲多望なる事業家で常に多くの店員を指揮して内外一切の店務に銳意奮闘して終始渝らざる精力主義の活動家だ。若し夫れ、熊本市を徘徊する時、途中君が自轉車姿を見ざる日なく、又郡部の隅々に至る迄、殆ど足跡を印せざる所なき活動振りには、實に驚嘆に値するものがある。是れ同店今日の大發展招致した所以の一つでなければならぬ。益々其の發展を祈る。

- 醫療器械商
- 理化學器械販賣
- 本店.....長崎市



酒井鶴藏君

- 活字鑄造業
- 製造能力九州一
- 關西に於ける斯界の祖
- 熊本市紺屋今町

□何れにせよ、九州一を有する事は、熊本の最も誇りとする所であつて、全市民が衷心の敬意を其の人物に拂ふと共に、其の事業が多々益々進展して大成せん事を祈願し且期待する所である。況んや、文化事業の最大方面を司る活字鑄造業に於て、名實共に九州一たる酒井鶴藏君を我が熊本に有する事は、特に意義深長な、祝福すべき誇りであらねばならぬ。

□而して、功業の裏面には必ず是れに伴ふ苦難の徑路があるもので、平坦砥の如き道程に冠絶する事業の成果は殆ど皆無だと云つて好いのだ。即ち酒井君の過去に就いて見るに、悉く是れ苦心慘憺の思出であり、血と汗の結晶である。金鐵の決意牢乎として、奮進精勵、以つて素志を貫き、儕輩を遙かに抜く境涯に達成したのである。

□君は、長崎縣島原町の出身で、三十年前と云へば未だ十二三才の頃、既に京阪地方に上つて斯業に入り、研鑽する事四ヶ年、大に技を習得して後九州に下り、先づ當時の熊本新聞に入社し、其後令兄長太郎君と共同にて、博多、長崎等と轉々獨立開業したるも、素より大資本を擁しての企業でない結果、幾多の苦境に遭遇し、時に善後策なき迄の悲惨に陥つた事もあつたが、一難を経る毎に勇氣を奮ひ起して、今より十四年前、現在の營業所に居を構へ、晝夜善戦力行の結果、漸次事業の開進進展を見、遂に今日の盛況を贏ち得たのであるが、其の間、企業準備と目すべき苦い經驗を嘗めた教訓時代が實に十三年を要して居る。

□現在、模範的工場を裏に設備して多數の職工を使用し九州一の能率を誇つて居り、製品は三分の一を市中に残り三分の二は市外照外の切なる需要を僅かに満して居る有様である。



□業造醸油醬□
□町京出市本熊□
君平新田永

□熊本市出京町にて大正九年より新らしく醬油醸造業を開始し、其の豊富な資力と、出色せる才幹を提げて、忽ちに進進を遂げ、嶄然、頭角を現はして斯界に雄飛する新鋭は永田新平君である。先代彌平氏は明治十年役後直に米穀商を創め、濃厚健實の資性を以つて盛に精力主義を發揮し、信用年々加はり、隨而、商勢異常な隆昌を開き、彼の龍田口の細郷と並び進んで熊本俵物界の兩横綱たる名實を博し、覇を關西に稱した盛大無比の店舗を築き上げた立志成功家であつた。而して賢明な氏は、時勢の進退に伴ふ自他の洞察に於て卓見を抱き、且つ所信の斷行に忠且つ勇な確乎たる人物であつた。即ち、其の晩年に及び、偶々嫡男新平君が有爲に成人したのを好機となし、熟議考慮の結果、其の多年經營し來つた重厚無比

な暖簾を取り去つて、子孫永続の事業と云ふ大計を策からして、醬油醸造業に轉化したのである。能く已れを知り、他を知り、時を知るものは即ち將に將たる大器であつて必ず勝利者たる事は兵法の數ふる所、古今東西に通ずる鐵則である。して見ると、永田君の事業が創業目向は淺きに拘らず一躍、業界の中心勢力に擡頭雄飛しつゝ、あるもの、寧ろ當然の歸結だと評すべきであらう。

□新平君は、永田家永遠の使命を創開担当して、既に、全力を打ち込む奮闘生活をなし、着々乃父の名と志を辱めぬ業績を上げ、更に其の大成を遂行しつゝ、ある傑出の新人物である。明治二十一年生と云へば、本年三十六才の新鋭盛りだ。明治三十九年第十回の熊商出身で、資性温良謙讓、人格、才幹併せ秀で、加ふるに高風雅懐の推稱嘆美すべきものがある。即ち、其の趣味好尚が如何にも高雅な點で、彼の青壯年時代には兎角溺れ易い、低級遊樂の如きに對し未だ曾つて心情を動かした事さへない程の強固不拔な徳操美の輝きである。居常書畫を以つて唯一の趣味となし、其の蒐集に係る逸品尤物頗る多く、忙中の間日月に能く古今の名作雅品に接し、造詣する所極めて深く、鑑識眼の高越せる點に於て、儔輩を遙かに抜いて居る。

□其の家庭は、君の風格が自ら感化して高趣常に横溢和氣絶えず露々、眞に團樂の樂み掬すべきものがある。子女恒子(九才)、富貴子(五才)の二人である。



□熊本 市本 洗馬 町馬 □
□綿屋 旅館 □
柳邊善次郎君

□熊本に於ける第一流の旅館といへば、先づ、指を綿屋旅館に屈するであらう、同旅館は明治十一年の創業に係り、市内に於ける目貫の場所たる、洗馬町洗馬河畔にあり、客室の清浄なると、庭園の雅趣とは共に、旅客の物憂き旅情を慰するに足るべく、加之も古き創業に伴ふ経験と、家人一同の懇切丁寧なる接客振りは、投宿の者をして、其の旅中にあるかを忘れしむ、同旅館が關西九州は勿論、京阪地方より一流の旅客のみを吸収し、今日の如き繁盛を招致するに至れる、亦、故なきにあらずである。

□主人柳邊善次郎君は、資性温良、俊敏穎脱、斯業者中稀に見るの人格者にして、其の傑出非凡の才幹は、般賑無比の盛運を贏ち得たる、最も大なる原因でなければならぬ。由来、旅館業なるものは常に、他國他縣よりの客

にのみ接し、其の待遇の如何は直に其の土地の人情、風俗の如何に直接關係を有するものである、此の點に於て君の如き着實なる營業者あるは、實に熊本の誇として推賞せねばならぬ。

□居常、謡曲、和歌、弓術、茶の湯、禮式、生花等最も趣味多く、殊に、和歌は其の造詣する所深く、謡曲弓術亦人後に落ちず。

わき出る岩間の清水口づけに

千歳の松の影ながら呑む

是は君が過る年の元且、居蘇氣嫌の吟詠、以て君の性格の一斑を窺知する事が出来る。其他書畫骨董にも趣味深く、古今の名幅珍器を藏し、客室の掛軸、床の置物、珍中の珍、粹中の粹を以つて飾り、四時常に旅客の眼を喜ばして居る。

□殊に洗馬河畔に臨み、數奇を凝らせし建築は、夏の夕べの舟遊の華やかな三味の音、飛び交ふ螢の居ながらにして、一陣眼下に納むべく、涼風颯々ど吹き來たつて、欄干の夕涼實に時の移るを知らず、是れ眞に「旅は憂きもの辛いもの」の語を裏切るに充分であらう。

□夫人多喜子は淑徳秀れ、夙に賢夫人の譽高く、其多趣味なるは、亦、夫君に譲らず、雇人を合しては三十有餘の大家族を、一身に脊負ひて立つ手腕は、凡備の到底、追隨を許さぬ所、同旅館今日の隆昌を見る、蓋し同夫人の内助の力に負ふ所勘しとせず。



□熊本市黒髪三軒町□
□業 木 土□
君生爲浦三



□熊本市鹽屋町十橋通□
□代 先 屋 庫 兵□
君郎次小邊渡

□君は年少時代より土木事業に従事し、深く造詣する所あり。夙に會社、役所に職を奉じて恪勤精勵の令名高く上下内外の信望を一身に鍾めた傑出の人物である。資性剛毅磊落、義氣に富み、熱血肌な點黠からず、時難に感奮して挺身躍起を許せぬ志士の快男子である。彼の大熊本建設に伴ふ町村併合の際、黒髪村有財産處分問題勃發するや、憤然起つて村民大會主催の街に當り、委員長に推されて當時の村長磯田數馬君糾弾の急先鋒となり、謀將と闘將を兼ねた一大民衆運動は、今尚ほ世上の記憶に新なる所、以つて君の眞面目と氣魄を窺知する事が出来るのである。現在、胸に万策を抱いて一大雄飛の風雲を叱咤すべく、徐ろに形勢を觀望して居る。



□熊本市製綿業の功勞開拓者たる君は、明治卅八年の創業に係り、八年前職人町より現在の場所に移轉し來り、其の仕入れに對する先見の明と靈腕は、到底、他の追隨を許さぬ獨特の地歩と天分を有し、爲めに業績日に月に隆昌を加へ、縣ト一圓は素より、鹿兒島縣、宮崎縣、長崎縣の一部に牢乎不拔の販路を握り、業界羨望の的たる一大盛況たるの異彩を放つて居る。更に、
□特筆大書せねばならぬ事は、往年福岡の原田製綿所が其の尨大な資力と規模を齎らして好望地の熊本に目を付け、一大會社創立の計畫を逸早く探知した君は、熊本同業者の死活問題なりと奮奮躍起し交渉の結果、茲に熊本製綿會社の創設を見、販賣仕入を君の手一杯にて切り廻はし好績を招いて居る。

□熊本市製綿業の功勞開拓者たる君は、明治卅八年の創業に係り、八年前職人町より現在の場所に移轉し來り、其の仕入れに對する先見の明と靈腕は、到底、他の追隨を許さぬ獨特の地歩と天分を有し、爲めに業績日に月に隆昌を加へ、縣ト一圓は素より、鹿兒島縣、宮崎縣、長崎縣の一部に牢乎不拔の販路を握り、業界羨望の的たる一大盛況たるの異彩を放つて居る。更に、
□特筆大書せねばならぬ事は、往年福岡の原田製綿所が其の尨大な資力と規模を齎らして好望地の熊本に目を付け、一大會社創立の計畫を逸早く探知した君は、熊本同業者の死活問題なりと奮奮躍起し交渉の結果、茲に熊本製綿會社の創設を見、販賣仕入を君の手一杯にて切り廻はし好績を招いて居る。



□熊本市淨行寺町□
君助之清田植



□熊本市上林町□
君稔田柴

□九州電熱株式會社取締役兼支配人□

竹下常藏君

□熊本市春竹驛前□

□登記専門代書業□

土肥信雄君

□東洋生命保險代理店□

□熊本市古城堀端町□

□君は、福岡縣浮羽郡吉井町外の出、明治十八年を以つて生る。夙に電氣化學工業事業に深甚の趣味と豊富な教養を有し、先づ、郷里に創立を見たる九州電氣酸素株式會社に入り、縦横の敏腕を振ひしが、其の勤勃たる志望は全社を去つて、新經營の地歩を發見したが、即ち九州電熱工業株式會社となつて出現したのである。

□動力と原料關係よりして電熱事業の地の利を擁し居る熊本に活躍を試み、其の造詣と鐵腕を傾け盡して、大正七年春竹驛前に君の理想と抱負を反映する會社成立を告げ、着々好績を擧げつゝありしが、歐戰後の一般的不振に一時中絶せしも更に最近、新陣容を完備して殆ど面目を一新せる活況を招き健實なる經營の歩武を進めて居る

□熊本の名實を握れる登記専門の代書人として、登記の土肥か、土肥の登記かと謳はる、傑出非凡の人物は、即ち是れ、土肥信雄君である。君は、熊本市新屋敷町の出、其の高等小學時代を不幸中途退學の止むなき家情に生ひ立ちしも天質と聰明と苦學力行の結果、他の企及を許さぬ學徳を有するに至り、裁判所雇を倍勤精勵五年に及びしが、當時の薄給は、到底家族扶養の義務を果し能はざるものありし爲め、即ち、辭して代書人となり、以つて隆々無比、今日に見るの地歩を築き上げ、兩親の心身を満足に養ひ、令妹さい子を東京高師文科に學ばしめ子女八人の教育を遺憾なく遂げつゝある所、夫人内助の徳、又掛からず、眞に立志傳中の成功龜鑑である。



□業員請築建木土□
□町畑花市本熊□
君吉庫崎大

□兎角、因循姑息で、時代と共に推し移るを敢てせぬ憾
ある、熊本の建築請負界に、最も現代的な奮闘家たる大
崎君を有する事は、斯界覺醒の曉鐘であると共に、極め
て多事多端な大熊本の爲め、意を強うするに足るものが
ある。君の五体は悉く是れ、活動性の結晶で一度、工事
に對するや、始と晝夜寢食を忘れて、内外一切を督勵し
常に自ら陣頭第一線に立つて、衆を率ゐるを示すので、
勇將の下、素より嗣卒なく、多年其の感化薫陶を受けて
英氣激濁たる多數職人が、一令のもとに手足の如く各々
其の所に依つて精勵奮闘するのだから未だ曾つて請負期
間を遅延した事なく、且つ施工上に就いては、常に推賞
感謝を受け、面目を施し居るに徴しても、其の人物と才
幹が如何に出色せるかを推知する事が出来る。

□君は、明治十一年三月三日廣島市材木町大崎幸次郎氏
の次男に生れ、殊に、縣立職工學校を卒へて、其の修む
る處を實地に研究せんと欲し、十八歳の時出郷して諸國
を巡歴し、二十七歳夙烈然郷里に歸り、其の間約十年の
星霜を斯業研究に閲したる手腕を振ふべく廣島市に開業
せしも、偶々陸軍經理部員として臺灣に渡航し、居る事
二ケ年間、益々才幹を發揮したが、感ずる所あつて更に
滿鮮地方を巡遊見學したる後、歸郷して、斯業に懸命努
力しつゝ、あつた際、折柄熊本第一銀行支店及島田病院建
築工事を清水組九州支店の請負ふ所となり是れに従業し
たのが縁故となり最初居を下追廻田畑に構へて創業し更
に櫻町に新築移轉して年と共に盛運を招き以つて今日に
至つて居る特に感すべきは君が時代思潮に鑑みて熊本縣
下に於ける大工職組合創設の急務を觀破し萬難を排して
献身的奔命の結果遂に大正八年四月是れが成立を見其の
爲め業界を大に資益すると共に大工組合員の人格と福利
を増進した大功勞は實に特筆多謝せぬはならぬのである。
□尙ほ君が施工に係る大建築は熊本銀行本支店直接請負
の外岩崎組下請負として、福岡工科大学工務科教室、化學
教室新築工事、九州劇場新築、肥後相撲館新築等であつ
て更に直接請負施工中心高女學校、大同印刷株式會
社、松竹館、九日印刷會社、増田高事會社、東洋板紙工
場等が其の主なるものである。



□主店支輸運本山□
□員議所議會業商本熊□
君郎五左卯城古

□古城兄弟は悉く是れ、激濁たる意氣の結晶である。兎
角、表微退嬰に陥り易い熊本の天地に、君等兄弟を有す
る事は、確かに一服の清涼劑であつて、或は市民の深い
眼りを叩き起す警鐘たるものがある、何れにせよ、熊本
の誇りとすべき名物男だとの推稱は、十目十指の適評で
ある。
□茲に評傳する古城卯左五郎君は其の性情風格、最も長

始一日の如く精勵意らの爲め、今や其の信望業界を風靡
蕩奪する概を示し、驛前の同業、東になつて君と勢力を
争ふ程の大發展を遂げて居る、又斯界の奇才なりと云ふ
可しだ。
□大熊本出現當然の結果たる、併合町村に於ける商業會
議所議員選舉に際し、最も壯快な陣容を布いて、全線に
亘る攻防戦に火花を散らしたのは、先づ君であつた。而
も最高得票の榮冠に、アツと敵味方に舌を捲かした鮮や
かな戦勝振りは、君の意氣と機略ならでは、到底、企及
すべからざる獨特の舞臺である、左に君が商議員として
の抱負と感想の談話を摘記し、以つて今後に於ける其の
目麗しい活躍の程を囑望期待する。
□熊本商業會議所の建物が宏壯立派であると云つて世八
は賞讃措かぬ様だが、自分は未だ一向其の價値なきもの
と思惟して居る。何となれば建築の宏壯立派なものと、議
員そのもの、均衡が果して取れて居るかに想到すれば
丁度、佛壇の阿彌陀様同様、魂が這入つて居らぬ憾みか
ある。議員が書記長に使ひ廻はさるゝ感あるのも矛盾極
つた痛嘆事だが、更に議員の不熱心には驚かざるを得ぬ
豫て會議所内出入するものは寥々五六名に過ぎぬのだ。
尙ほ會議所内の賣店は實に考へ物である。参考品の陳列
素より結構ではあるが、玉石混淆して是れを並べ立てて
も即賣する等は、會議所として最も耻辱とすべき一例で
ある常議員のみでの仕事も間違つて居る……。

□現に、或は近く、社會問題の中心をなすものは、即ち彼の勞資問題である。是れに對する世界の趨勢が、勿論勞資協調にある點は疑ふ餘地なく、盛に高調されて居る然し、實状は、勞資協調にのみ向つて進みつつありと見る事の出來ぬものなきにしもあらずだ。又單に協調と云ふも見る所は自ら種々に別れ、對等的主從的溫情的或は勞力万能其の他雜多の様で、勢ひ相抗争を辭し兼ねまじ



□町工細市本熊□
君郎四彌野大

き底流あるは識者を埃たすして明かである。隨而、此の問題は、重且つ大で、國民を擧つて其の解決と善處に當らねばならぬ。而も道は、必ずしも遠きになく、却つて近い所に求むるの要がある。そこで、吾人は、
□大野彌四郎君の敬虔すべき研究と努力に對し、深甚の期待を饜ぐと共に多謝惜かぬのである。君は、大正八年

以來、熊本市二本木町に創立せる東肥鑄工株式會社の業務一切を擔當する傍ら、勞働問題の實際的研究に専念し勞資協調の解決上、其の中間人物の必要を痛感すると共に進んで自ら之れに任じ、兩者の利益と意志疎通を期圖して徹底的經營を執行したる結果、茲に模範的工場の名實を博するに至つたのである。即ち利害の衝突なく、感情の疎隔なく、差別觀念の累禍による怠慢なく、小なりとは云へ、腕然家庭的親和の裡に自覺ある理想的工場王國を建設して居り、更に研究努力を進めつゝある所、寔に、斯界の指針曉鐘たる資益貢獻である。
□君は、明治十九年生で、第八期の熊商出身の錚々、殊に志を實業界に立て、大正元年迄米穀商を營み、更に俊敏の才幹を提げて、東京兜町の株式取引所の人となり、縱横の神謀鬼策を施し、以つて斯界に飛躍しつゝあつたが、感ずる所ありて、大正八年歸熊と共に前記の會社に牛肉鶏肉の敏腕を振つて居る。
□大正元年米穀商を止めて上京するまでの間に、山鹿屋と銘刀つ陶器商を開き、小賣業者の經營法を時勢に適應せしむべく先づ京阪地方を具さに視察し、陳列式營業の鼻祖をなしたのも實に、先見的天分の豊富な點であつた□君は、趣味として和歌を能くし其の愛堂、默笑の雅號不二の含歌會同人中の白眉をなして居る。又バイオリンは殆ど天才的で堪能深く、居常新聞圖書を耽讀して新知見の培養に努め、且つ信仰の念頗高い人格者である。



君平勝島光

□熊本市新鍛冶屋町に於て、隆々無比の洋服業を營み、業界の羨望と顧客の信望を一身に鍾め、多々益々活躍發展を加へて止まざるは、即ち是れ、光島洋服店である。店主光島勝平君は、獨力奮闘、勤儉力行の結果、能く、一代にして今日に見るが如き地歩と信用を開拓した立志傳中の一人者である。
□君は、普通教育を終るや、直に、志を洋服界に起し、幼少の頃より、裁縫弟子となり、具さに技術の習得練磨をなす傍ら洋服業に關する各方面の研鑽に銳意怠らず、明治三十三年には、早くも獨立開業して一家をなす名實を贏ち得た業界稀に見る傑出非凡な人物である。
□斯くて、優越せる其の獨特の技術を振つて、懇切誠實に晝夜の別なく、勤勉努力し、製品の優良と價格の低廉に、加ふるに期日の最も正確を以つて終始一貫した結果

- 洋服裁縫販賣商□
- 熊本洋服同業組合理事□
- 熊本市新鍛冶屋町□

自ら顧客の絶對的信望を博し、數多い同業者中、嶄然、一頭地を抜く盛運を招致し居るが、是れ全く、君が人物と技能と勤勉の反映だと推稱されて居る。
□曾つて、不幸、火災の厄に遭遇したるも、難局を経る毎に勇氣を幾倍する君の不撓不屈な大精神は、益々、發揮して、忽ちに、舊に倍する資力と繁榮を築き上げ、所謂、寧ろ焼け太りの盛觀を呈するが如き、以つて、如何に君が他の追隨を許さぬ獨特の地位を占め居るかを窺知し得べく、従つて、其の洋々春の如き大前途を推すに難くないのである。斯く、家業に成功する傍ら、又、能く社會公共の爲め寄與貢獻多く、特に、業界の向上發展に銳意怠らず、即ち、熊本洋服同業組合理事に推されて令名がある。居常讀書の趣味を有し、風格自ら敬仰すべきものあり、明治九年生。



熊本市十五人組町
岡本政平君

熊本洋服業界に於ける温厚篤實の人格者として、或は又、健實なる大發展を遂げて来た繁榮店の最も著名なるは、岡本洋服店である。同店の製品は、他に見る事の出来ぬ優秀な特長があり、且つ、薄利多賣の本領を發揮すべく能率の増進と経費の節約を併せ行ひ居る爲め自ら低廉の價格を以つて供給し得られ、今や、年額三万圓に垂んとする賣上高を示すの盛況を博し、更に、年を趁ふて益々向上發展の大氣運である。目下、工手店員六名、縣下一圓は素より、福岡縣の一部にまで、擴張の手を伸ばし、諸官衙公署、各會社等に販路を有し、前途の大成長に窺知すべからざる概がある。尙ほ大正四年御大典國産共進會に一等賞金牌を受領したるに徴しても、其の製品の眞價を推す事が出来るではないか。

店主岡本政平君は、明治九年二月を以つて熊本に生れ

- 洋服裁縫販賣商
- 熊本洋服同業組合副組長
- 中年會評議員
- 衛生組長有効章受領

十二才の頃より田代屋洋服部職長として令名ありし増田丈太郎君に就いて五年間技術を習得練磨し、更に一時、同店の工手となりて實地研鑽を積み、其の間、能く技能の蘊奥を極めると共に業界各方面の修養考究を怠らず、斯くて、十九才の青春で、早くも獨立開業を見、爾來順潮なる店運の發展を遂げ、常に誠實質素を旨とし、顧客本位の營業を進めた結果、今日に見るが如き旭日東天の繁昌を築き上げたのである。勇將の下、弱卒なく君の眼鏡に叶ひたる養子正喜君(明治卅年生)裁縫部の片腕を務め、尙ほ城戸健藏君(明治廿三年生)の如き多年誠實勤勉の模範的店員を有する等、以つて同店隆々の盛運を見る又、當然なりと断せねばならぬ。

君は、多年、衛生組長として有効章を受領し、又、洋服副組長、中年會評議員の公職に推され令名噴々たり。



熊本市船場町下丁目
松永直助君

石版印刷界に於ける九州屈指の技能と商勢を有し、我が熊本斯界の爲め万丈の氣を吐く、芳美館主松永直助君は、佐賀縣出身の新鋭人物にして、明治廿年を以つて生れ、夙に、雄志を石版印刷業に起し、具さに研鑽攻究を積み、十四才の時熊本に來り、獨立開業に十二ヶ年の經驗を加へ、而も日進月歩の技術を追ふて後れず、卒先して時勢適應の設備を施し、今や、最新式電力應用機械を備へ付け、十三人の優良職人が晝夜兼行の作業も接衝し來る需要を満たすに足らぬ盛運を招いて居る。

尙ほ出身地の佐賀市材木町に支店を設置し、更に、東京下谷に松永圖案製作版所を有する等、其の規模の雄大なにして、組織の時代的なる、到底、他の追隨企及を許さぬ作業上の特色があり、随つて、製品の卓越優秀に於て嶄然一頭地を抜き、爲めに顧客の信望自ら加はり、石版

- 石版印刷專業
- 最新式電力應用
- 支店、佐賀市材木町
- 松永圖案製作所東京下谷

印刷の松永芳美館と謂へば、眞に業界の代表たる名質を以つて推重され、其の前途の大成長、蓋し窺知すべからざる概である。

時勢の進運に伴ひ、石版事業の將來は、益々好望である。是れが利用の途、日を趁ふて加はり行く盛況を呈しつゝある。故に、同業者年々激増し、隨時隨所に猛烈なる競争を目撃して居るが、結局、優秀卓抜な技術と現代的組織の設備經營を併せ有する人物の勝利に歸すべく、時々刻々所謂優勝劣敗の過程を辿り、業界興廢浮沈の波、又常に絶えざる其の間に、君の如きは愈々益々覇を稱して斯界に雄飛獨歩措かず、新進の立物たる令名を博し同業羨望の的となつて居る所、又、異彩なりと推賞せねばならぬ。君、資性、温厚篤實、孜孜汲々業務の精勵研究に没頭して寢食を忘るゝ程で、人格又極めて高し。



前田重雄君

熊本印刷界の新人物にして、最も其の大なる前途を囑目期待され居る第一人者は、即ち是れ前田重雄君である君は、真に業界の麒麟鳳雛を以つて謳はれ、鋭氣激濁、積極進取の大勇猛心に富み、正に油の乗り初めた斯界の一大光彩であると推賞されて居る。

君は、最初、新設治屋町に獨立創業し、獨特の敏腕を縦横に振ひ、忽ちに頭角を顯はすの盛況を贏ち得るに至り、後、同心社の創業を見るや、年齢未だ二十五才の青春たる君は、一躍推されて支配人の樞機に座し、而も、畫策奮闘肯綮に當り、能く、同業の氣運を捕へて、常に他を凌駕するの活躍を試み、爲めに社運隆々たるものありしも、會社内部の空氣、兎角、業績の向上發展を阻害措かず、又、重役の総てが、必ずしも其の名の如く同心でなく、自ら別途の行路を取らねばならぬ情勢の推移を

- 活版印刷業□
- 共 力 舎 主□
- 熊本市新屋敷町□
- 熊本印刷同業組合委員□

見、不羈卓越な君は、即ち、大に感じ且つ深く信する所ありて、大正十一年獨立して新屋敷町の現在の個所に共力舎を起し、多々益々不撓不屈の精神を以つて活躍を振ひ、而も熱誠匪勉の他を凌ぐものあり、随つて、舎運日に月に向上發展の一路に邁進勇往を見、今や二十三名の模範職人が、勇將良卒の一丸となり、潮の如く接衝し來る顧客の注文に應ずべく、四時絶えず晝夜兼行の奮闘努力を致して居る。君、本年卅才の青壯活動盛りで、見るからに生色激濁の勢力家だ。而も、機略縦横、才幹卓越の一頭地を抜くものがある。有爲の資、果斷の質、自ら眉宇の間に溢れ確かに熊本印刷界の寵兒たる風格の持主である。現に熊本印刷同業組合委員に推され、其向上發展に鋭意貢献怠らず、令名噴々たる等、以て君が公私の人と爲りを窺知し得らるゝではないか。切に自重を祈る



本町白川端
小山勝熊君

滿身の覇氣を堂々たる偉軀に抱いて、社會を横行闊歩する快漢、即ち是れ小山勝熊君である。君は、他託郡錢塘村の出身にして、夙に、雄心勃勃、縦横の野望を齎らして上京し、東京公債株式會社の支配人となり、獨特の快腕を存分に振ひ、帝都の一角に其の事業家的才幹を鳴らしたものである。後、多方面の會社に關係して、各地を神出鬼没し、盛に飛躍を試みて居たが、大正七年、飄然歸郷する事となり、偶々、福榮無盡會社の創立に盡瘁し、八代支店長となつて出色の才幹に儕輩を抜き、其の後、信託業に活躍して今日に及んで居る。

君は自己發揮に最も豊かなる天分を有し、到る處に一種の生彩を放つて居る。其の便々たる腹中に、總ての人事物を併せ呑むの概があり、常に樂天的風格を發揮して事業を進め、社交を廣め、以つて活社會に善處する所、到底、他の追従を許さぬ人間味と活動力がある、又、異

數の才であり、名物男たる所以である。

兎角、因循姑息で、石部金吉を是れ信條となすもの多い熊本從來の人物中にあつて、君の如き、開放的進取の氣象に富む類型の人物は、素より正解に苦しむ結果、何れかと謂へば、時と力を得るに困難な舞台であつた。洒々落落として爲体の知れぬ怪物を以つて目され、其の捕捉し難き要領に、君の眞面目は遂に發揮されなかつた。觀なきにしもあらずで、唯だ、獨特の敏腕と魁偉な風手に打たれて、一種の力を感ずるのみであつた、が然し熊本當來の大氣運は、確かに君の活躍に好適な舞台の轉廻を見つゝあるではないか。以つて其の大々的雄飛の時機、刻々、招來すべく、社會的擡頭の刮目に値する展開を庶幾して然る可きであらう。年四十三歳。

君の信託事業は、新設辯護士の牧野義明君を顧問となし、接踵し來る依頼者に對し、一流の冴えた腕を振ひ、逐年人氣を喚び、業績を擧げ居る由、尙ほ別に大和湯を經營し、古大工町に福屋旅館を兼營する外、熊本酒類卸商界に於ける紅一點の異彩を放てる株式會社宇都宮商店の相談役となり居る等、盛に活躍發展して居る。

公職としては、町總代、衛生組長、本町白川端組合會長等に推されて、貢獻大に努め、令名噴々たるものがある。特に本町全總代を以つて組織せる本町總代組合會一致の推擧に依り會長たる榮譽と重任を贏ち得て居るに徴するも、君が、社會的信望を窺ふ事が出来る。何れは、其の勢力に立脚して市政界に出馬するであらう。



□ 熊本指物界の名實を完全に代表する、杉龜堂の隆々たる聲價は、世既に定評がある。紺屋今町に巍然として聳ゆる三階建の店舗は、隅から隅迄、主人の人格と才幹を反映し、高く生彩を放つて居る所、到底、他の追従を許さぬ盛運無比の概である。製作品の何れにも卓越せる技術の精巧を發揮し、其の二階三階の陳列場に就いて是れを見れば、宛然、斯界の醇と粹を蒐めた品評會場の縮圖の如き觀を呈して居る。而も、誠實懇切で薄利多賣を信條となし、終始一日の如く精勵奮闘怠らず、研究を積み、改良を加へ、常に時勢に魁する刷新を斯界に致す等確かに業界の第一人者を以つて推稱せらるゝ所以である

□店主杉龜齡君は、八代郡の出身で、彼の名高き、釋迦院嶽の麓なる柿迫村に生れ、夙に志を教育界に立て、先づ出生地の小學校に教鞭を執り、更に進んで上益城郡御船町の小學校長に榮轉し、令名を馳せ、舉町の信望を一

身に集め、其の職を辞した時の如き、恰も慈父に別る、情情であつたに似ても、高い徳望の程を推す事が出来る。後、君は軍役に就き、多年、陸軍經理部に督勤精勵して名ありしが、當時、既に陸軍經理學校の裁縫科を卒業し居たので、熊本師團に新設の管なりし經理部裁縫科が廣島師團に變更されし爲め、茲を辞して、監獄の授業教師となり、貢賦大に努めて居たが、明治三十八年十一月三日の天長佳節に指物業を始め、以て今日に及んで居る。□君が、指物界に身を投ずるや、明敏卓拔な手腕識見と新道に堪能なる天分を發揮して、奮闘努力の結果、直に嶄然たる頭角を現はし、斯界を風靡獨歩するに至つたのであるが、其の間、東京、静岡、名古屋、大阪、西京等の先進地を常に視察し、其の都度、優秀珍奇な品物を參考品として持ち歸り、是れを製作流行せしめて斯界の刺激發展に鋭意する外、必ず京阪地の一流職工を招聘連れ歸つて技能を振はしめ、現に全市に於ける指物職人總數七十名中、龜齡堂の職人が四十人と謂ふ半數以上を占め居るに徴しても、如何に盛況無比であるかを推察するに難くないのである。故に、各官衙、公署、諸會社、銀行學校、商舖等一流筋の注文は、悉く君に指命請負はしむる絶對的信望を博し、多々益々活躍發展の大氣運である

□令息富士雄君(廿一才)は、山口高商出身の幹々たる新人物で、最初支那貿易事業に熱氣を伸ばさん志望なりしが、家業の異常なる進展に鑑み、目下專念一意、嚴父の片腕となつて精勵奮闘し、大に嚆目期待されて居る。



飯田桂治君

□熊本醬油界の舊勢力は、所謂墮力に依る發展の極致に達したるもの、如く、市内を中心として縣下一圓に散在する斯業家の多くは、伸びる丈けの手を伸ばし、能ふ限りの基礎を築き、茲に舊家たる名實を擁して、今や一息の實狀である。試に熊本醬油界の需給關係を一瞥すれば縣内に於ては、既に發展の餘地渺きもの、如く、勢ひ、移入品を驅逐すると共に外部に向つての移出を可能たらしむる品質と價格を條件とせねばならぬのである。而して此の使命を果し得るものは、即ち是れ、新勢力の據頭に期待する外ないのだ。同時に、縣内にありても、時代は、正に新陳代謝を要求して止まぬのである。かゝる新氣運を捕へて、時勢の渦に應ずべく、熊本醬油界に一

新勢力を加へたのは、市内京町の飯田醬油店である。□店主飯田桂治君は、熊本土木建築請負界の權威として、名聲噴々たる飯田平五郎氏の愛孫に當り、明治三十四年を以つて生る。嚴父勝太郎氏は、日露役後に不幸他界し爾來、祖父後見のもとに慈母の手に生ひ立ち、大正九年熊中を卒業するや、茲に、分家して醬油業を開始したのである。其の創業に際しては、平五郎氏が万般の設備經營を授け、心總て最新のタンク式を中心となし、規模宏大にして、更に發展に伴ふて遺憾なき考慮を拂ひ、以つて熊本醬油界の一方に雄姿を現はしたのである。斯くて、□桂治君の天成的商星たる素質と豊富なる資力を擁する事とて、大正十一年九月一日の日鏡き創業であるに係らず、市内一圓は勿論、既に、阿蘇郡、人吉町等の郡部に半平たる販路を開き、更に鹿兒島方面に發展を見、其の前途の大成、殆んど窺知を許さぬものがある。居常園藝を趣味となし日置流の大弓をやる等高風雅懷を忍ぶべし

- イータ印醬油釀造元□
- 熊本醬油界の新勢力□
- 熊本市京町二丁目□



君一貴本桑

□九州は椿の原産地にして、全国に於ける約二分の一の産額あるに係らず、多くは原料のまま、是れを移出し、京阪地にて椿油となり、以つて全国に賣り出し來つたのであるが、茲に新進の研究家にして事業家たる桑本貴一君深く是れを慨し、理想的香油たる不知火椿香油の創製發賣を見、九州の化學工業に竿頭一步を進めた事は、特に我が熊本の産んだ新人物として國産上の功勞を推賞すると共に、最も大なる誇りであらねばならぬ。

□而も、不知火椿香油が、殆んど全国に類なき「冷壓油」である大特長は、殊記大書すべき點である。天威の研究發明家たる君は、椿の實を指頭に掴みて出る汁に動機して、冷壓油の製出に成功し、純粹の國産椿油を得たので正に是れ、本邦香油界の革新にして、女性美の生命とも稱すべき婦人毛髮の福音なりと嘆美せられ、隨て白熱的歡迎を受け既成品の悉くを壓倒する獨歩の賣行を見て居る

- 不知火椿香油製造元 □
- 桑本加多脂堂 □
- 熊本市花園町本妙寺通り □
- 冷壓製の純粹椿香油 □
- 本邦香油界の最高權威 □

□抑も、冷壓法に依り製出したる、不知火椿香油は、あらゆる在來品に冠絶して、絶対に追隨を許さぬ純良の品質を有し、毛髮に顯著なる營養あり、其の色艶を好くする事は、化學上證明されたる所で、又、實際の愛用者が齊しく是れを裏書きして居るのである。

□試に其の特色とする點を指摘すれば、些の混入物なき純粹油なる事、衛生上絶対に無害なるのみならず、毛髮を營養美化し且つフケを防止する事、各種の高等香料を配合しある故、各自の嗜好に依り理想的に使用し得らる、事、純粹椿油なるが故に銃器及物の錆止め時計其の他の機械用に最適せる事、價格低廉なる事等である。

□君は、縣下八代郡和鹿島村の素封家たる桑本太三郎氏の嫡男で明治十八年の生。曾つて窒素會社に研究す。



君郎太忠村砂

□歐米雜貨並にメリヤス類各種商として、細工町五丁目砂村洋品店の名聲は、夙に、江湖に鳴り、其の半平不拔の潜勢力は、到底、他の追隨企及を許さぬ信望を繋ぎ、同業者羨望の的たる概を示して居る。

□同店は人も知る、熊本近代の商傑にして一代の風雲兒たりし故砂村徳五郎氏の創業に係り、日清役前頃までは阿彌陀寺町に店舗を構へ居たるも、時勢の推移を遂観する氏の慧眼は、早くも熊本の玄關大通たる細工町筋に着目し、明治三十五年移轉し來り、四丁目より五丁目に移り以つて今日に至つて居る。氏は、砂村雜貨店の名聲を築き上げて、其の晩年、商傑の踏む當然の過程中、不幸物故したるも、家に、養嗣子忠太郎君あり、

□君は六才の時、本田家を出で、叔父の家に當る砂村家に入り、先代徳五郎氏の手摺にかゝつて、其の遺跡を繼

- 歐米雜貨メリヤス各種 □
- 各官衙公署購買組合直賣店 □
- 鐵道省指定購買店 □
- 熊本市細工町五丁目 □

ぎ、而も、資性健實温厚、能く、商機を捕ふるに共に又着々礎石を築き上ぐる事を怠らぬ、所謂攻防の商戦士である。積極的に手一杯擴げた砂村家の商運を整理しつゝ、歩一步と家業を磐石の上に措く適才の新人物として君の活躍奮闘は、眞に刮目して其の成功を期待せらるゝのである。毎年二回以上必ず上京し、親しく製造元や一流の間屋に就いて商品を精選仕入する事とて、所謂良貨廉賣の商訣を發揮しつゝあるに徴しても、同店隆昌の依つて來る所以を推す事が出来るではないか。

□夙に、鐵道省指定の購買店となり、其の他各官衙公署の指定人たる等、以つて社會的信用の程を窺ふに足るべく、世上、雜貨なら砂村商店への標語をなす、又、宜なりと謂ふべしだ。家に一男二女あり、徳五郎、松枝濱子の諸子にして團樂常に拘すべく、年齒三十五才。



財津吉太郎君

□大熊本市産業の中心地たる唐人町に在りて、數ある洋品店中の精粹を以つて鳴る人氣店は、即ち是れザイツ洋品店である。唐人町を通り、綺羅星の如く並べる各種の商店を見渡しつ、左顧右眄すれば、流石は、熊本目貫の場所丈けあつて、粹を誇り、輝を競ひ、四季折々の店頭顧客を吸ひ込まねば止まぬ壯觀と華麗である。就中、中唐人町の樞位を占め、一品一物に至るまで、精選されたる良質を飾り、而も、低廉他に見る事の出来ぬ價格で販賣しつ、あるザイツ洋品店の活躍發展振りは、一段と光つて目に就くものがある。店頭常に市をなすの語は、同店の盛況を表現するに好適の句である。

□店主財津吉太郎君は明治十二年三月十五日の生、今、正に油の乗れる活動男盛りだ。以前、上鍛冶屋町にて營業せしも、明敏にして商略に富む君は、逸早く、熊本の

- 歐米高等雜貨商□
- ザイツ洋品店□
- ザイツ洋服部□
- 熊本市東唐人町□

銀座たる中唐人町に目星を付け、移轉し來るや、茲に、縦横の敏腕を發揮し、幾何ならずして、斯界の花形たる隆昌を招き、年と共に、多々益々繁榮を加へつゝある。

□曾つて、日露役に出征し、國家の干城として轉戦奮闘大に大和男子の忠魂義膽を輝かしたものである。斯く、行くとして可ならざるなき君は、今や、隆々無比の商運を捕へ、大正七年より熊本稅務署及逓信監督局等、諸官衙公署の用途となり、其の購買店たる榮譽に浴し居るに徴しても、如何に君が深甚の信望を江湖に布けるかの一端を窺知し得らるゝのである。而も、君が過去を顧れば人一倍の辛苦艱難を嘗め盡したもので、其の今日あるを得たるは、實に、努力奮闘、汗の結晶だと評すべしである。家に一男一女あり、長男一二君(明治三十八年生)は既に店務に従事し評判極めて高し。



□祖元造製明發麵素葛□
 □堂神精留津□町崎山市本熊□
 君透留津

□熊本名産「折鶴印、葛素麵」は、津留精神堂の製造に係る無比の銘品にして、彼の江湖に名ある水前寺晒葛、八代不知火葛等を原料となし、多年苦心研究の結果、發明案出した獨特の秘法に依る精製品で、第一消化速かにして滋養分に富み、衛生上最も有効なる一般の嗜好品たる事は、世既に定評あり、爲めに年を逐ふて白熱的歡迎を加へ、時々、一二の模造品現はれ、好悪なる手段を講じて、同店水年の顧客を欺かんとすものもあるも、却つて、製品に對する眞價判別の機會を與へ、其の都度、反動的に大發展を促す動機となり、又、斯界に類似品の隻影を許さぬ所、以つて如何に同品が、卓拔優秀な絶對價を發揮して、盛運無比、業界獨歩の名實を握り居るかを推知する事が出来る。即ち、各博覽會、品評會等に於て金賞牌五回、米國サンフランシスコ萬國大博覽會銅賞牌進歩賞銀牌三回、有効賞銀牌銅牌各々五回、褒狀二回等

幾多名譽の賞牌を受領し、更に明治三十三年十月、特に東京殿下御買上の光榮を賜ひ、又、宮内省御用品の命を蒙る等、實に、無上の面目を施し居るが如き、其の聲價を立證して除くあるではないか。

□抑も、往時の葛素麵は、先づ晒葛粉を水に溶解して乳狀となし、桶の底部に一小孔を穿てるものにはれを入れ豫め鍋に煮沸し置きたる熱湯上に該桶より流出する乳狀葛を落下しつゝ、左右に動かして得た湯中の固形線狀をなしたのが即ち葛素麵で、如何にも相當な技術經驗を要するを以つて一般の使用に適せなかつたのを、森新平なるもの大に是れを假し、種々の苦心操を嘗め、幾多の資力と歳月を費して、明治十一年、一種の器械を案出するに至り、晒葛粉で普通素麵の如く製造する事に成功したのが、現今に見る固形葛素麵の嚆矢となつて居る。尙ほ同一方法にて干蕎麥をも製出したのである。是れ全く發明者が所謂陽氣發する所命石亦透る、精神一到何事不成らざらんの剛毅不拔の精神から産れ出たものなるを以つて、商號を精神堂と稱したのである。明治廿八年津留透君、是れを譲り受け、時勢の進運に順應して益々研究を積み、屢次改良を加へ、葛素麵中の上等品を糸水仙と命名登録し、其他折鶴の商標及びレットナルの登録をなし業務の擴張發展に銳意盡瘁の結果、遂に熊本名産として普く、世上に知られ、噴々の聲名を馳するに至つて居る。

□君は熊本麵類組合長、物産館商議員、出品協會幹事、町總代、衛生組長等の公職を有して名あり。年五十七歳。



□社會名合清米久□

□町 瀬 高 縣 本 熊 店 本 □

先代 君 吉 清 田 磯

九州の清酒界並に飲料水界に於ける、久米清合名會社の名實は、夙に、斯界の權威を以つて推され、年と共に益々聲價を加へ、異數の發展を招き、盛運無比、寔に是れ、東肥事業界の爲め万丈の氣を吐く、一大光彩たる壯觀を呈して居る。今、其の整然として活況溢れ居る各部門に就いて、是れを見るに、先づ、醸造部に於て、芳醇佳味の名、江湖に鳴る銘酒「よき娘」と「天下長」を吟醸し三男磯田三郎君主任となり、出色の才幹を振つて活躍進展の大氣運を捕へて止まず、隆々の業績を擧げ、各品評會共進會等の部度、常に優賞を贏ち得て、多々益々名譽の勢威を發揚しつゝある。抑も、磯田家の祖先是、元祿七年三月に起り、十四代を経て居るが、初代の時より酒店を開業し、次で弘化三年酒造業を創め、以つて現今に至り、實に二百有餘年連綿たる舊家である。即ち、其の榮譽ある家門と酒造の歴史に於て、既に他の追従を許さ

ぬ、擧す可き特徴がある。况んや出藍非凡な當事者が相繼いで、是れが研究を重ね、改良に改良を加へ來れるに於てをやだ。

飲料水部は、明治卅三年熊本市にラムネ製造業を起したるに始り、兎角、盛衰興廢の類々たる斯界の争闘戦に終始優勝を續け居る所、又、斯界の偉觀なりと推稱せねばならぬ。現今、金十字印並に赤十字印のサイダー、タサンボートラムネ、メロン、果實蜜等を製造し、熊本市横箱町の工場は、阿波勝吉君是れを擔當經營して令名を馳せ、高瀬町の工場は、先代の從兄弟に當る緒方盛策君主任となり相策應して、九州一圓に亘る販路の支持擴張に雄飛して居る。尙ほ雜貨部主任には、先代妹婿磯田清兵衛君を推舉し、錚々の敏腕を以つて、高瀬町を中心とする界限一帶に亘る商權を握り、是れ又、羨望の的たる好績である。更に販賣部主任として磯田吾亮君是れに任じ、業務の一切に關する販賣方面を整理統一する重責に遺憾なき活腕を發揮して居る。斯くの如く、皆縁族親戚を以つて、組織あり系統ある事業を各分擔し、渾然たる業績の大發展を遂げ居る所、眞に業界稀に見る壯觀であり且つ、美譽でなければならぬ。而して、是れ全く先代磯田清吉君の功業であつて、君の人物、才幹、識見の高邁卓抜なりしを、今更ら、追憶推服措かぬ所以である。大正七年合名會社となし、内外の陣容を整備すると共に、旭日昇天の勢威で活躍發展を見、一方社會の爲め貢獻大に努めて居たが昨年溘焉他界す。實に可痛嘆。

□キツコオキウ印醬油醸造元□



君 郎 四 彦 保 久 大



君 輔 勢 保 久 大

□熊本市出京町久屋本舗□

熊本市出京町、キツコオキウ印醬油醸造元、久屋本舗大久保彦四郎商店は、最も古き歴史を有し、多年の經驗と不斷の研究を積み、業績、年と共に異常な隆昌を加へ、盛運無比、寔に是れ、斯界の重鎮たる名實を握つて居る。當代彦四郎君は、明治二年父祖の業を繼ぎ、温厚俊敏の資性を發揮して、精勵奮闘、終始一日の如く、斯業の研究に銳意し、明治十八年醬油研究會を組織して副會長に推され、同二十年醬油組合創立と共に副組合長となり、更に同三十一年組合長に擧げられ、同四十二年重要物産同業組合法に依る組織變更の時、勇退辞任する迄、其の熊本醬油界に致した甚大な功勞は、世人の夙に推稱措かず、熊本醬油界今日の隆運が君に負ふ所、尠からざるものあるを齊しく多謝して居る。尙ほ、業界以外、或は市會議員となり、或は商業會議所議員に推され常に最善有爲の努力を拂ひ、公人として十二分の貢獻を致したのである。斯く公私を完ふし得た君は、名成り、功遂げて弘化二年生れの饒饒たる晩年を悠々楽しんで居る。又羨望に堪へぬ身世と云ふ可し。現在、内外を一手に切り廻して、縦横の敏腕を振ひ居る勢輔君は、熊商出身の錚々たる新人物で、研究心に富み、商略に長じ、隨而、嶄然、一頭地を抜き、年を逐ふて造石高を加へ、着々副位を占め、以つて家運の大成を遂げつゝある所、業界稀に見る異才である。最近賣出した東京式化粧醬油は寔に新進な試みで白熱的歡迎を博して居るが偶々以つて其の活腕の一端を窺ふ事が出来る。



□家造釀油醬印丸大□
□町通西市本熊□
君熊彌保久大

□熊本醬油界の恩人久保彌熊君は、明治二年より祖業を繼いで醬油業に従事し、同二十年現住地に分家し獨立開業するや、不屈不撓の精神を以つて、業界の一路に勇往邁進の外、又、他を顧みず、其の醸造上の熱烈な研究の如き、到底、他の追隨企及を許さぬものあり、即ち、日夜寢食を忘れて、研究に没頭し、恰も醬油と同化せるかの概がある。九州の斯界で、君程の研究を積み、且つ技能を有するものは、先づ、殆ど居ないと謂つて好い。
□明治十八年令兄彦四郎君の視察傳習に次で、日本の本場たる千葉縣野田町茂木醬油醸造場へ赴き、庫子となり一ヶ月間を實地に就き傳習し造詣する所深く、爾來、研鑽の歩を進むるに隨ひ、醬油醸造が化學工業に屬するを以つて、理化學の智識を要する點、切實なるものあるを痛感し、明治二十五年、齡四十五歳にして、熊本藥學校に特別の入學出願をなし許可を得て、聽講生となり、三

ヶ年間を學習したのに徴しても、其の周到な用意と潑瀾たる英氣の程を窺ふ事が出来る。此の事は、業界の美談として、今尚ほ、普く世人に膾炙されて居る。
□明治三十年業界に温室速醸法の發明あるや、逸早く、島根縣米子町なる發明者稻田氏方に出張して、是れが研究を遂げ、且つ分権を得て歸來後、其の普及に鋭意貢獻したのである。以つて如何に機敏聰明な頭腦の持主であるかを推すに足る。斯く、一般業界の爲めに精勵怠らず、彼の私設同業組合評議員以來二十有九年間を組合公職にありて斯業の改良進展に努力貢獻の功勞、實に大なるものがある。特に多とすべきは、君の醸造場に働いて具さに、其の薫陶を受けた、杜氏、庫子であつた門下生が縣下は素より福岡、鹿兒島、大分、宮崎の九州各縣に亘り、獨立開業、若しくは斯業に従事し居るもの、實に百餘名の多きに達し、隨所に君が研究と指南を奉じて活躍發展して居るので、大正十年二月十一日の佳節に、是等門下生の代表格となつて、縣下三名、福岡一名、大分一名の有力なる新進開業者が、君の爲め誠意衷情を披瀝して謝恩會を開き、且つ紀念品を贈呈したるが如き、名譽と功勳は、業界無上の誇りでなければならぬ。
□君は、本年七十一歳の高齡を、今尚ほ壯者を凌ぐの元氣で研究に没頭して居る。又、一代の俊傑、業界の一大權威として推稱すべし。子女六人あり、嫡男弘治君は熊商出身の新人物で、其の冑えたる敏腕を家業の上に振つて居る。即ち、乃父の名を更に輝す出色の英才である。



□任主所務工方緒□
君喜直方緒

□大熊本の充實に歩を進むるに連れ、最も多事多望なのは、土木建築請負界であらう。全市に亘る各種建築の大改革を斷行せねばならぬ事は、必然の勢ひであつて、特に幼稚で貧弱な其の現状に徴して、此の氣運は急激に促進され、隨つて、實境を見る事と思はれる。が、茲に最も注目すべきは、斯くの如き時運に當面せる熊本の斯界が、能く是れに順應して、遺憾なく能力を發揮する組織と人物の點、如何である。斯く觀じ來り觀じ去つて、吾人は、業界の新進人物にして、最も實力ある時代的組織のもとに、嶄然、一頭地を抜く鮮やかな營業振りを終始して居る緒方直喜君の雄姿に對し、以て意を強うすると共に滿腔の敬意を拂ひ、其の健福を切に祈る所以である
□君は、熊本工業學校出身の新智識で、卒業後、現場監督等の實地研鑽を積む事約四年間、明敏頓悟な才幹を練

達して益々造詣を加へ、大正三年嚴父伊吉氏の志業を繼いで其の業界に臨むや、温良實直な資性と冑えた縦横の敏腕を發揮し、市内外の隨所に起る目星しい工事を次から次へと施工する榮譽を贏ち得るに至り、忽ちにして新進花形たる名實を博し、遙かに儕輩を抜いて陸々獨歩の概がある。試みに君が、最近設計から施工全部に亘る請負工事中の主なる建物を擧ぐれば
□櫻山 祠 殿
□田代屋呉服店
□熊本醬油研究所
□西繁五郎氏邸
□加藤神社社務所
□松村龜源氏邸
□熊本商業會議所
□西茂一郎氏邸
等である。以つて其信望と業績の一端を推す事が出来る
□最近、業務の異常な進展と時代の趨勢に深く鑑みる所あり、且つ京阪各地の進歩せる斯道を親しく視察見學して、強い自信と大なる抱負を振り起して、茲に、緒方工務所の開設を見、廣く諸建築の設計圖案並に施工請負を營業課目となし、東京設計事務所工學士保岡勝也氏、熊本縣立工業學校校長、並に建築科の講師を始め、斯道の有力者多數の深甚熱烈な指導と後援を受けて、完全充實せる陣容を整へ、多々益々活躍發展の大氣運に乘じ、業界の信望を一身に蒐め、前途の大成、殆ど、窺知す可らざる概である。其の事務に對しては、飽迄も趣味を第一とし建築を樂しむ爲めに建築すると云ふ態度で居り、常に進歩せぬ請負制の現状に慊焉たる先覺者の一人である。



□熊本市追廻田畑町□
山内柳右工門君

□君は名古屋の出身で、夙に志を實業界に立て、十八歳にして、既に九州に來り、福岡監獄關係の事業に指を染め、獨特の敏腕を振って業績の異常なる發展を見、二十歳の時、大分縣に留まつて、大分、名古屋、熊本各監獄製品を取扱ひ、益々隆々の商運を加へ、營業の基礎全く確立したので、明治四十三年熊本に來り、茲を永住の地に定め、縦横の商略と勤勉力行の結果、商勢年を逐ふて進み、其筋の信望愈々加はり、自然、鬱勃たる資力を擁するに至つたのであるが、霸氣に富み、事業家的才幹の卓越せる君は、素より是れに甘んずる筈なく、更に各方面の事業を興し、盛に活躍發展して居る。即ち

腕を振ふに及び、社礎確立し、現に着々業運の有利多望な展開を見つゝある。尙ほ松藤君と提携して松山合名會社を組織し、和傘の骨類一式の製造販賣を營み、是れ又大に成績を挙げ、更に盛林堂印刷會社の社長に推され社運を統裁し、殊に山内殖産會社の經營は、最も注目に値するものがある。是れは主として開墾事業をなし、現に飽託郡廣安村に廣大な果樹園を營み、其の他開墾地の所有極めて多く、年と共に發展の氣運を促して居る。

- 山内殖産會社々長
- 日本地下足袋株式會社專務
- 松山合名會社代表社員
- 株式會社盛林堂印刷所社長
- 監獄製品、竹箸及久留米耕請負



□熊本市上通三丁目□
潮永幸三郎君

□熊本市に於ける金物商店中、最も信用の厚い模範的商舖は、即ち是れ、上通三丁目の潮永幸三郎商店である。電信電話用亞鉛引ポルト並に銅鐵線類建築金物類一式を手廣く營業し、熊本高等工業學校、第五高等學校、熊本逓信局、熊本電氣會社、縣立工業學校、專賣局を始め其の他諸官衙公署の御用達たる信望を得、店運、年と共に隆昌を加へ、更に、洋々窺知すべからざる大前途を有し、活躍發展しつゝある。

身的功勞を致した爲め、主家の商勢隆々比軒するなき發展を遂げしめたのに徴しても、其の人格と手腕の一端を推す事が出来るではないか。

- 各種金物商
- 電信電話用亞鉛引ポルト
- 並に銅鐵線類建築金物一式
- 各官衙御用達
- 熊本工業學校
- 第五高等學校
- 熊本逓信局
- 熊本電氣會社
- 縣立工業學校
- 專賣局



□目丁四町通下市本熊□

君吉壽本山

- 椅子類 □卓子 □机 □書籍類 □戸棚
- 腰掛 □筆筒 □寝台 □箱火鉢 □額縁
- 諸車 □電話室 □其他指物學校器具一切
- 九州逓信局 □專賣局熊本支
- 局 □第六師團經理部 □熊本縣
- 廳 □熊本市役所 □縣立熊本病
- 院 □蠶業試驗場熊本支場 □高
- 等工業學校 □第二師範學校 □
- 女子師範學校 □第五高等學
- 校 □九州瀬收容所

(用 御)

□最近、長足の進歩を遂げつゝある熊本指物界に異彩を放つ新人物の一人者は、山本壽吉君である。君は、二十一才にして熊本縣廳に職を奉じ、約十一年間の久しき、恪勤精勵一日の如く、上下の信望を一身に鍾め、漸次縣屬に進み、最も人格と計數を要する會計課にあつて噴々の令聞を馳せ、日露役の際、功勞により特に受賞を見たる等、以つて君が如何に忠良なる官界の吏才であり人物なりしかを窺知する事が出来る。明治十二年生。

□明治四十一年病氣の爲め職を退き、偶々、義兄の不幸に逢遭したので、大正元年より、其の事業を繼承經營する事となり、徒らに、表面を粉飾せず、門戸を大に張るでなく、極めて、健實に、經濟的に組織的發展を計り、

業務一体が、渾然として君が人物の反映を見、顧客の信望、諸官衙公署の深厚なる用命、日に月に加はる陸運を捕へ、今や、斯界に於ける中心勢力たる名實を握り、特に縣下各中等學校の如き、殆ど君が獨專舞台の概を呈し彼の滔々商略のみに没頭して眼前を糊塗する近視我利々々の流に群鷄中の一鷄たる人物の力を發揮し居る所、吾人の最も推賞措かず、實業界の範なりと斷する所以である。

□君は、産業組合法に依る見地よりして、熊本市の和洋家具組合が組織更新の必要を力説し、指物組合との衝突等を指摘して、大に業界の革新を促す所あり、所謂職人上りの連中多きに在つて、君の如く學徳兼備の新人物を有する事は寔に是れ、斯界の幸慶で、其の發奮自重を祈る



□町實迎市本熊□

君郎次又山小

- メリヤス □卸
- タオル □
- 洋傘 □商
- 小山又次郎商店 □

□實業家、特に、所謂商店主人の多くは、一片の打算と利害關係に依つて其の頭腦を硬化し居る殺風景の人物からず、共に趣味を頼ち、互に、時代の潮流に掉す底の具眼と、雅懐の持主稀れなるは、斯界の爲め懇懇すべき缺滔であらねばならぬ。別して、我が熊本の如き、因習墨守の地に在つて、一段とこの憾みを深うせざるを得ぬ。

□所が、万緑叢中、又、一點紅なきにしもあらずで、熊本の斯界に警拔なる先見と高雅擲すべき情操の人物、即ち、小山又次郎君を有する事は、最も刮目に値する意味深長な點でなければならぬ。明治十五年生。

□君は、東唐人町の老舗たる小山本店主の令弟に當り、所謂商家の氛圍氣中に成人したるも、天賦の才氣煥發と性好に任せて、夙に、身を操觚界に投じ、宮崎新聞社に文名を馳せし事四箇年に及び、其の間、九日支局の通信等にも椽大の筆陣を振ひ、傍ら、都城誌等の著述に加は

りて文献大に努むる所ありしが、大正三年櫻岳爆發當時歸熊する事となり、本店の營業部に入つて縦横の畫策を行ひ敏腕を發揮し、尙ほ、其の獨創と奇抜に係る、唐人町レコー堂を開いて夫人に經營せしめ、更に、安巳橋通に南洋堂を自ら創開經營する所ある等、其の着眼と商機を捕ふるに明敏なる到底、他の追隨を許さぬ獨歩の境地である。然るも、

□由來、君は大觀達識の人物にして、小賣商は遂に、其の性格と識見に好適せぬ所あり、故に、大正十一年九月迎町に假經營業所を構へ、卸商を開始したのであるが、多年の經驗と縦横の才識に依り、直に、潑瀾たる商運を拓き、一頭地を抜いて居る。其の將來の大活躍大發展、蓋し、窺知すべからざるものがある。

□居常、井上文水書伯に師事し南畫を樂しみ天才的筆力を發揮し、尙刀劍を好み、鑑賞眼自ら高きものありと聞く

□ 熊本商業會議所議員 □



□ 町 日 春 □

君郎次平妻上

□ 去る商議戦に、逸早く馬を陣頭に進め、攻守善戦、能く最高得票の榮冠を贏ち得た事は世人の最も熟知する所である。是れ全く君が徳望の致す結果で、其の社會的勢力の如何に牢乎たるものあるかを立証して居る。多年實業方面の實際的經驗に富む蘊蓄を傾けて、必ずや會議所の機能發揮に對して、最も力ある裨益貢獻をなすべく大に期待されて居る。

□ 君は、明治十一年の生、日露役一等計手として出征し明治四十年除隊後、九州逓信局書記たる事二ヶ年、更に熊本逓信局書記を大正八年迄恪勤精勵して職を辭し、爾來、盛大なる米穀、砂糖商を營んで今日に及び、家運隆々、名聲噴々たるものがある。

□ 熊本商業會議所議員 □



□ 町 莊 本 □

君八岩田永

□ 水船製造業を以つて、斯界に祖をなし、且つ年と共に盛運無比の大發展をなし居る永田岩八君は、現に牢乎たる販路を九州一圓に有し、一日二十五俵以上、年百五十俵位の製産を擧げ、更に販賣製造兩方面に向つて、難物たる氣運を包蔵し居る業界の雄である。更に熊本に於ける製氷事業に就いても亦先覺者たる功勞があり、斯界に指を染めたのは、實に九州の開祖をなして居るに徴しても、其の事業家的天分を推す事が出来るではないか。

□ かかる先見に富む敏腕家が、新に商業會議所議員となつたのは、斯界の最も幸慶とする所でないならばならぬ。尙ほ、君は兎角紛擾に陥り易い本莊町の調和的人物としても重きをなして居る。多年町總代を勤む年五十七歳



□ 町 工 大 迎 市 本 熊 □

君郎次久角守

□ 商勢兎角振はぬ迎町方面に在りて、白熱的人氣を鍾め大熊本市南半の顧客を完全に吸集し居る繁榮店は、迎大工町の守角久次郎商店である。守角家は、元、煙草製造業を營み、專賣制實施と共に、其の小賣業に従事したる關係上、店舗の商的得意が就き居りし所へ和洋、小間物雜貨商を開始し、而も、其の營業方針に於て、到底他店の企及すべからざる特色長所がある。即ち、家、屋敷が自己所有に屬するのと店員の働き事と仕入上の優越な實力と敏腕により、殘餘品を出さぬ點等からして自然經費の節約が行はれ、随つて、良貨廉賣を實現し能ふ所以である。

□ 一度、同店に買物をした顧客は何れも、其の品質の優良と價格の絶對的低廉に非常な満足を得、尙ほ、其の懇切周到なる顧客接待振りと相俟つて、所謂千客万來の大繁昌を見、陸々の店連、寔に、美望の的たる概がある。

□ 大正九年店舗の新築を行ひ、茲に内容、外觀の整備を見るに至り、益々、出色の商勢を發揮し、以つて寂莫たる迎町地方の爲め万丈の氣を吐き、同方面繁榮に負ふ所極めて大なるものあるを多とせねばならぬ。

□ 店主守角君は、人も知る古城卯三郎氏の令弟にして、守角家の養嗣子たる人、古城家兄弟中の知囊で最も抱擁力に富む人物だと推揚され、自ら求めて公職等の陣頭に立つて好まず、營業熱心を信奉し、牢乎たる社會的潛勢力を築き上げて居る所、又、異彩なりと推重措く能はざる所以だ。

□ 居常、大の不動明王信心を以つて鳴り敬神の念厚く、爲めに、情操自ら典雅を致し、其の人物の何處かに敬服信頼すべき力があり且つ高風真に他を化するに足る奥床しがある。茲に、君の自重健在を祈る。明治四年生。

- 和 洋 雜貨小間物商 □
- 大和座演劇株式會社監査役 □
- 肥後共同製氷株式會社相談役 □



□町 嶋 辛 市 本 熊□

君 平 半 野 早

□凡そ人物は、其の社会的交渉の程度に於て、是を過去の人、現在の人、將來の人等と分けて見る事が出来る。過去の人は敬すべく、現在の人は托すべく、將來の人は以つて望を賜ふべきである。勿論現在の人であると同時に、未來の期待を繋がる人材も亦決して尠くない、又老來益々社会的貢獻を加へて、現在に依然重きをなす傑物なきにしもあらずだが、普通は、四時に序あるが如く時と共に人物の新陳代謝が行はれて居る。是れ即ち萬物を支配する、天の微妙なる攝理でなければならぬのだ。

□爾而、早野半平君の人物に就いて觀察するに、其の事業家的生命は、寧ろ近き將來を以て最も本領を發揮すべく、大なる矚目の高才であり、期待の人物である。君は元、志を官界に起し、一時吏僚の空氣中に活躍を試みたらが剛腹奔放の資性は、到底、官海の游泳に適せず、偶々

明治四十二年鹽專賣法の發布と同時に指定されて是れを開業し、以つて今日に至つて居る。而して此の半官半民的事业は、君の人物、才幹を以つてすれば素より牛刀鶏肉の憾みがある。爾而、其の間、練々たる餘力を伸ばして、専ら發明研究方面に没頭し、其の豊富な天分と相俟つて、着々事業的新案發明に成功して居る。

□即ち、ロープ、糸紐、綱、網等に用ひて、實に驚くべき奏功をなす耐水性防腐劑を發明し、現に、其の專賣特許出願中の由である。是れが使用に依つて、ロープ、糸紐、綱、網等は、從來に幾倍の耐水性を發揮し、腐蝕を防ぐ事が出来、而かも極めて低廉なる價格を以つて製産し得らるると云へば、勿論實用に好適する新界の一大福音たる發明であると推稱して然るべしだ。特許の曉は必ず其製品が白熱的歡迎を受くべく同時に事業家的功勞も、茲に應報されて、家運益々隆昌に赴き、社会的聲望、更に加はる洋々祝福すべき前途の展開を見る事であらう。

□最近、日本水砂糖株式会社の代理店となつて活躍し、更に彼の驚嘆すべき勢威を以つて業界を風靡蕭捲しつゝある日本パーチメント株式会社製品一手販賣店として、縦横の奮闘を試み、鮮やかな靈腕を振つて居る等、茲に君は、愈々生氣激洩たる事業界の新天地に勇往邁進の第一歩を邁りたのである。蓋し、將來の大活躍、大發展窺知を許さぬものがあると推されて居る。



□長 合 組 絲 製 幡 八 郡 本 鹿 □

君 喜 逸 上 戸

□鹿本、菊池は熊本の養蠶業を代表する雄郡である。従つて、製絲業も是れに伴隨して發達し、特に養蠶家で組織する組合製絲事業の隆々たる盛況發展は、何れの方面から見ても、寔に祝福すべき現象であつて、寂莫たる熊本事業界の爲め萬丈の氣を吐く、大なる誇りとして推稱せねばならぬ。兎角養蠶家の苦痛とする所は、繭價が全然製絲家のみの打算に依つて支配され、養蠶家の利益を著しく蹂躪し去られたかの脅威であつた。同時に時勢の進運に伴れて加工上の利益に目醒めた爲め、過渡期に於ける多少の支障を拂つても疑々乎として事業の發展を贏ち得たのである。而して

□鹿本郡で、最も模範的發展を遂げ居るのが、即ち八幡製絲組合である。更に組合員壹千名を擁し、理事十名、

悉く是れを一流の當業者並に徳望家であり、特に組合長戸上逸喜君は、人格と才幹と識見を併せ有する業界傑出の人物で、而も其の終始一日の如く精勵奮闘して渝らざる勢力の絶倫は到底他の追隨企及を許さぬものがある。爲めに業績年と共に發展を加へ、今や盤石の基礎茲に成りて、益々盛運を氣構へ居る活況である。

□戸上君は、熊本縣立農學校第二期の卒業で、後、一年志願兵として入隊陸軍中尉となり、除隊後、推されて八幡製絲組合長其他の公職に就任善處して、令名噴々たるものがある。居常武藝を好み、特に柔道、乗馬、漁獵の趣味深く、腕も亦冴々て居り、就中、川漁に熱狂すと。

- 鹿本郡八幡村信用組合長 □
- 山鹿印刷會社取締役 □
- 産業組合熊本支會理事 □
- 熊本縣信用購買組合聯合會理事 □

□大熊本市の一角に、世界的最新思潮に觸れ、而も能く是れを咀嚼消化して、深く知見を培ひ、徐ろに英氣を養ひ居る傑物がある。本庄町中通りに嶋を負ふて虎視眈々たる竹田宇平君が、即ち夫れだ。資性剛毅剛達、快辯又滔々、常に其の聰明な敏感を發揮して、社會事象の核心を直把し、最も嶄新且つ肯綮すべき卓見を抱いて、悠々超脱し居る様であるが、若し是れを事業界に投足せしむ



□町莊本市本熊□

君平宇田竹

れば、必ず群鷄中の一鶴たる生彩を放つて獨歩すべく、更に政治的方面に崛起するにせよ、優に一方の覇たる天分の持主である。時代急轉し、舞台は刻々廻つて居る、實力に富む新人物が、手に唾して奮然躍起すべき秋に當面しつつある際、時勢は斷じて社會に遺賢あるを許さぬ筈だ。吾人は、竹田宇平君が、熊本政界及事業界の中心に擡頭雄飛する期の、しかく遠からざるものあるを、茲

に豫斷して措く。現に君の高邁卓越せる新思想は社會政策の内容と色彩の、最も精神をもたらして事業化し、以つて未發の新機軸を打開しつつある態度すべき努力は、熊本消費組合の創設に見る事が出来る。即ち左に其の事業の概要を紹介しやう。先づ趣旨を摘録すれば、
□國民生活の安定は「衣食住の安價供給」に在る。高價な食料品と安價ならざる衣服を供給されては、生活の動搖不安は免れぬ。是れは商人の仲間機關が多過ぎる結果である。かるが故に歐米先進國長所の一たる消費組合の運動に倣つて、熊本市に是れを設立し、各自が、小額の組合資金を提出して、日常必需品たる米穀を廉價購入精製して元價と諸費用を加算した分配を行ひ行く。味噌醬油其他一切の食料品並に呉服雜貨薪炭等の日用品に及ぼし、更に組合住宅建造、保險、銀行、運輸の諸業を營み、以つて生活費の低減を計り、國民福利の増進に努力したい……と云つたものである。其の特色も眼光を紙背に徹すれば自ら其の内に發見し得らる、のであるが、此の組合の機能發揮すれば、優に日常生活費の三分の一を節約する事が出来、又組合員の特典として、病氣等の場合は所屬醫師囑託醫師の無料治療を受け、組合病院に入院され、買物高に應ずる拂戻金額で貯金が出来る等極めて社會政策的公益事業故、既に縣當局でも非常に賛同獎勵され居り各方面の白熱的歡迎を博しつつある由。



□町屋桶新市本熊□

君郎太龜永德

□肥後の焼杉下駄は、最も特色ある名産として全國に流行し、噴々の聲名を誦はれ、年と共に、多々益々需要の激増を見つゝある縣下の重要物産だが、是れが製造の元祖たる功勳者は、實に徳永龜太郎君其人である。
□君は、熊本市本山町の出生で、明治二十二年十二月歩兵第十三聯隊に入營し、格勳精勵、能く軍務に服したる結果、上長の信望を一身に鍾め、模範兵たる榮譽を得、全二十四年には上等兵に昇進し、更に明治二十五年二等軍曹に命せられ、第一大隊本部付に拔擢せられ、全二十七年滿期退營する事となつたのである。其の後、
□明治二十七八年の戦役に従軍し第五十五聯隊に編入せられ、國家の干城に任じ、彼の奉天會戦に參加盡瘁し軍功を奏し爲めに桐葉章を授與せられて居る。
□斯くて、凱旋後、明治三十年、熊本市新桶屋町なる現

在の個所に轉宅し、翌三十一年より、所謂熊本名産たる焼杉下駄の製造を發案創始する事となり、其の製造卸業を開き、以つて今日に及んで居る。
□由來、熊本の天地には、名産が少ない、僅かに朝鮮鮎位である。然るに肥後の焼杉下駄が、新たに産れて、短日月の間に、能く、天下に聲價を博し、最も實用向で、至極重寶なものであるとの定評を以つて市場に殺到しつつあると謂ふ事は、寔に、縣下國産上の偉大なる貢獻で随つて其の元祖たる徳永龜太郎君の功勞は、熊本産業史上、特筆大書せねばならぬ所以である。
□君は、忠直勤勉の資質を有し、而も常に業務の進歩改良に對する研究を怠らず、爲に日に月に家運の隆昌を招致し、眞に旭日昇天の勢威で活躍發展しつつある。尙ほ社會的信望極めて、厚く、令名噴々たるものがある。

- 熊本焼杉下駄製造卸業□
- 熊本市新桶屋町總代□
- 熊本市新町説教所總代□
- 熊本市蔚山町説教所總代□



小杉嘉三郎君

□所謂菓子町の稱ある職人町に、軒を並ぶる斯界錚々の店舗中最も異彩を放つて活躍發展しつゝある一流筋の人氣店。信用店は、即ち、下職人町の小杉嘉三郎商店であるが就中、洋菓子専門問屋として、特獨の長所を發揮し他店の追従すべからざる技術と隨つて販路を有して居る

□小杉家は、天保時代より現在の個所に居住する、所謂熊本生へ抜きの舊家で、元、當主人嘉三郎君と令兄常八君が兄弟商會として菓子界に雄飛活動し、目醒しき發展を遂げつゝありしが、常八君は大正十一年三月不幸物故したので、當主嘉三郎君、令兄の遺子八人を擁して、更に不撓不屈の大勇猛心を振ひ起す事となり、大家族の世話は素より、業務上に於ける内外一切を一手に切り廻はし、縦横無盡の大活動を終始論らざる所、到底尋常一様の凡物の真似も出來ぬ點だと推讃されて居る。即ち、絶

□洋菓子専門問屋□
 □各種製菓卸商□
 □熊本市下職人町□

えず直接外交の衝に當り、縣下一圓は勿論、隣縣鹿兒島方面等に手を伸ばし、其の居宅に在る事、實に毎月二三日間に過ぎぬと聞く、以つて、如何に七面八臂、東奔西走の大活躍を試み居るかを推すに難くないのである。

□隨つて、能く、父兄の志業を繼いで、其の大成を遂ぐべく、着々洋々の大前途を開き、店運の隆昌真に同業者美望的たる概がある。爲めに斯界の信望極めて厚いものがあり、又、社會的に牢乎たる聲譽を贏ち得て居り、更に、其の窺知すべからざる將來の成功を、齊しく矚目期待されて居る。

□明治十七年生と云へば、今や働き盛りの第一歩である而も、絶倫の勢力を振つて、唯、業務を専念一意邁進する外、又、他を顧みぬ鐵石の志を抱き居る所、以つて、範とすべきである。



熊本市中職人町

古山正晴君

□熊本市中職人町に、日本的技術の持主たる京都形屋古山正晴君を有する事は、熊本の大きな誇りとして推賞せねばならぬ點である。抑も、本邦形屋界にあつて、熊本の古山、東京の形富、京都の平尾は、所謂日本斯界の三人者で、世、既に定評ある優秀の技術を發揚し、何れ劣らぬ聲名を天下に馳せ、貢獻大に努めつゝある所、寔に是れ、万丈の光彩を放つ業界の壯觀である。而して、我が

□古山君は、滋賀縣出身で、所謂琵琶湖の風色に生ひ立ちたる人、夙に、京都美術學校に學び、組織的研鑽を積んだ知識階級であり、特に、志を形屋に起し、是れが攻究に心血を凝らす事多年に及び、能く、學理の濫奥を極むると共に實地の神技を拓き、到底、他の追隨を許さぬ特獨の境涯を築き上げ、以つて、日本の聲名を博し得たのである。其の間、軍務に服し、日露役に出征して國家の

□京都形屋□
 □菓子製造用具製作販賣□
 □木形□金形□煎餅形□ヤキ印□其の他製菓器具一式□

干城たる榮譽と責務を完うした等、實に、和戰兩面に於ける國民の儀表とすべき人物である。

□大正三年、大に見る所あり、且つ確信する點あつて熊本に來り、所謂菓子町の名實ある職人町の一角に居を構へ、其の妙技を振つて木形、金形、煎餅形、ヤキ印、其他製菓器具一式を製造販賣する事となり、而も、時勢に順應して、研究考案怠らず、日進月歩の靈腕を磨き、尙ほ、其の營業に對するや、常に良品廉價を以つて唯一の信條となし、更に、商機を捕へるに敏なる、所謂近江商人の典型を有する事とて、旁々、異數の發展を遂げ、盛運無比の業績を見るに至り、今や九州全土は素より、遠く、台灣、朝鮮、米國等に牢乎たる販路を有し、眞に、旭日昇天の勢威にして、其の將來の大成、蓋し、窺知すべからざるものがある。明治十七年生。



□熊本市職人町□
□熊本市職人町□

辻本寅吉君

□君は、奈良縣吉野郡下市町の出身にして、同地の町會議員に推され、又、盛大なる漆器商を営み、其の組合長となりて郷黨の啓發に貢献する所多く、籍甚の信望を馳せて居たが、後、官界に遠大の志を抱き、明治四十一年熊本縣の林業技手兼工業技手となり、其の傍ら、漆器原料組合を創立して理事に推舉され、縣産業の振興に十二分の活腕を振ひ、施設經給の實績大に揚がり、功勞極めて顯著なるものあり爲めに官民の輿望信任を一身に纏めて居たが、大正三年、感ずる所ありて驟然官界を退き、再び、民間實業家として捲土重來の活躍を試み、以つて今日に及んで居る。年五十一才。現在、花あられ、都あられの製造、販賣兩方面に出色の盛運を開いて居る。



□熊本市職人町□
□熊本市職人町□

井本善平君

□新町地方に於ける、製菓界の重鎮は、上職人町に隆々の商勢を握れる井本善平君である。君は、元、玉名郡五水村の農家に生れたが、三十四五歳の時、病身の故を以つて百姓を止め、商業の目的にて、熊本市に來り、先づ營業撰定の爲め、約百日間を店員となり、活眼を見開いて、具さに視察研究の結果、遂に製菓業に身を投じたのである。

□質實温良な資性と忠勤精勵の活動により、忽ちに、先進同業を凌駕するに至り、内容の充實に伴ひ外に向つては、同業者間共通の利益増進に對して鋭意奮闘意らず、其の新町菓子同業組合評議員たる事、實に十有四年、功勞により感謝狀銀牌の贈呈を見、相談役たり。年六十七



馬島辰平君

- 建具、襖類製造業
- 熊本市辛島町四八
- 勳八等 白色桐葉章

自己の職業を熱愛し、是れを楽しむ外又他念なく、十年一日の如く奮闘精勵して、身を立て、家を興した一人に馬島辰平君がある。建具、襖類の製造を業とし、特獨の妙技を振つて常に精巧優秀な製品を低廉に確實に供給するので、江湖の信用日一日と加はり、商況は年々歳々盛大に赴くと云ふ發展振りで、同業者間羨望の的となつて居る。明治三十九年、鹽屋裏小路に開業したが、數年ならずして、事業の異常なる進展は、場所の偏在且つ狹隘を告げ、大正三年、辛島町の現住所に移轉擴張し、以つて今日の隆昌を見るに至つたのである。其の間、岳父古川常記氏の後援は、勿論君の事業を刺激する一種の力とはなつたであらうが、是れ全く君が努力勉勵の結果で忠直熱誠な資質が産んだ汗の塊に外ならぬのだ。彼の紛々たる功利に走るでなく、擾々たる名達に惑はさるゝ所なく、常に職人として、寢食を忘れて仕事を勵み、敢て渝らぬ其の人物は、個人として將又、國家の中堅として、模範的推賞に値すべく、其の功を成しつゝあるが如き、以つて當然の社會的應報と觀るべきであらう。君は當年の日露役に出征して國家的奉公を致し、勳八等白色桐葉章を授けられて居る。長男明君は熊本商業學校出身の新進で年齢二十四歳、大牟田三井物産會社に在勤して居たが、近く、同窓の親交を以て、熊本醬油界の立者たる上田彦次郎商店に入り、其の優越せる商才を伸して居る。他に二男治君(十二歳)長女夏枝子(十四歳)あり。

感謝状



□ 君郎五善村木 □

菓子町の稱ある職人町に於て、稀屋本店と云へば著聞する一流筋の菓舗。國産朝鮮餡を主として和洋菓一式の製造卸販賣業を営み、健實重厚な經營振りに、業績年と共に進展を加へ今や斯界の實勢力として推しも推されもせぬ商權を掌握して居る。主八木村善五郎君は、夙に嚴父清八氏及び令兄勝助氏の家業を継ぎ、豊かならざりし資力を運用するの奮闘努力の限りを盡し、以つて今日の隆盛を開拓した立志談中の一人である。一時醬油醸造業を兼營して居たが製菓販賣方面の多忙に依り歸然是れを中止して今日に及んで居る。

君は、斯く、温厚の資と精勵の行を以つて、家運の隆盛に成功したと共に、餘力を割いて常に社會公共の爲め顯著なる貢獻を致して居る。即ち新町菓子同業組合創立以來、組合長に推され斯業の進歩發展に對し献身的努力を拂ひ其の大正九年切なる懇請を振り捨て、勇退した際、組合の名を以つて別掲感謝狀並に金盆一組を送呈したのに徴しても、如何に君の徳望と功勞の大なるものあるかを推知する事が出来る。尙ほ、明治三十六年以來町總代として二十年以上を勤績し、其他、衛生組長等の公職に盡瘁せし外、各種公共の寄附行爲に至つては枚擧に遑ない程である。彼の日露役に於ける諸般の後援事業に甚大なる盡力をなして、熊本市の面目を完うした廉により、時の辛島市長より、感謝狀と共に木盃受與の榮譽を預つたのは、當時の町總代中熊本にては殆ど君一人であつた。

- 町總代 □衛生組長
- 和洋菓子製造卸商
- 熊本市中職人町



伊津野正一君

- 陸軍御用達、パン、菓子商
- 新町菓子同業組合評議員兼會計
- 營業 稅 調 査 員
- 新町總代会西部委員兼會計
- 熊本市中職人町

温厚篤實は、君の公私を評し得た適語である。明治十年嚴父伊七氏の長男に生れ、健實歩一步と、家業を進め、社會的信用を築いた忠直な人物だ。明治廿七年以來の陸軍御用達として菓子、パンを納め、實直精勵の資質を發揮して、其筋の信用益々厚きを加へ、需々たる家門の隆昌、眞に拘すべきものがある。其の菓子界に於けるや、即ち、新町菓子同業組合評議員並びに會計を兼ね、現に中堅たり潜勢力となつて、貢獻怠らざるは、同業者の齊しく推賞する所、先年、市の囑託で京阪、名古屋其他各地の斯業を視察し、歸來製造販路に對する改善に鋭意する所あり、爲めに熊本菓子界を覺醒刷新して、其の向上の進展に與へた功績は、實に大なるものがある。尙多年町總代となり、其の行届いた世話振りは町民の大に徳とする所、現に新町總代会の西部委員及び會計たる重任を完うしつゝ、聲望極めて高い。大正九年七月國勢調査委員を命ぜられて貢獻し、大正十年七月には、周囲の切なる懇請黙止し難く、營業稅調査委員の選舉に際して、最高四十五の得票を贏ち得た見事な當選振りは、即ち君の社會的信望を物語る一證據である。家庭に子女四人あり。長男實君(十七歳)は能く家業を助け、長女惠喜子(二十歳)昨年縣立高等女學校を卒へ、次女登美子(九歳)三女美惠子(六歳)の外、多數使用人に至るまで主人の高い人格の感化を受け、羨望矚目の的となつて居る。尙ほ、君は趣味として謠曲の嗜みありと聞く。



橋本榮八君

- 朝鮮館製造本舗
- 和洋菓子製造卸商
- 新町菓子同業組合評議員兼會計
- 熊本市下職人町
- 功七級勳七等

熊本の菓子町たる職人町を通ると、何時でも店頭は馬車を以つて満たされ、山積せる貨物積出しの光景に喫驚するのであるが、此の年中大繁榮の商店こそは、下職人町の橋本菓舗である。明治廿七年の創業に係り、熊本縣下は勿論、九州一圓に販路の手を擴げ、朝鮮館を本位として和洋各種製菓販賣卸業を營んで居る。店主榮八君は、當年四十三歳の男盛り、曾つては日露役に出征して、武勳を輝し、現に金鷄勳章功七級の榮譽者である。其の趨勢達觀の卓見である。見渡せば、職人町五十幾軒の製菓業者中、縣外輸出の能力あるもの殆ど皆無と云つて然るべく、需要方面の現状は、實に莫大なる輸入品を仰いで居る有様だ。翻つて同業者間の營業振りと職業的識見を一瞥すれば、寔に思ひ半ばに過ぎぬものがある。即ち徒らに地場競争にのみ没頭して、製品、販路共に舊態依然たる營業を改めず、天の時と地の利を有しながら指を啣へて爲す無きさまを痛憤長嘆するあたり、以つて同業者頂門の一針として大に鑑みるべき點だ。家に長男直治君(十三歳)、次男榮一君(十一歳)、三男末藏君(六歳)、四男福三郎君(二歳)、長女よし子の四男一女あり。常に團樂たる和氣掬すべく、尙ほ三人兄弟中、舍弟末彦君は、是れ又同町内に盛大な製菓業を營み、今一人は、日本窒素鏡工場に奉職在勤して居る。



山本元義君

- 菓子製造卸商
- 新町菓子同業組合長
- 熊本市下職人町
- 洋菓子の九州元祖

数多い熊本の製菓業者中特に洋菓子の如何なるものかを知る、所謂高い鑑識眼の所有者は山本元義君である。君は殆ど菓子の中から生れたと云つても然るべく、洋菓子界に於ては、實に九州の天祖たる歴史を有して居る。岡山縣の出身で、同地に於ける菓子並に卸商を営む豪家に成人し、幼少十二三歳の頃より横濱に出で、外國人に就いて具さに洋菓子を傳習する事多年夙に一家をなして九州地方に着目し最初長崎に開業して適業適所の功を收めたるも、事情あつて十九年前、熊本市に來り、洋菓子専門の開拓功勞者として今日に及んで居る。特にビスケットの有難なるを察知し自ら其の製造に専念すると共に、同業者を徳憑して熊本製菓界に時代的覺醒と光明を與へた功績は特筆大書し措かねばならぬ點である。尙ほ君は、多年新町菓子同業組合副會長として大に努め、更に一昨年、木村善五郎氏勇退の後を繼いで會長となり、其の深い造詣を傾け盡して斯界の爲めに貢獻しつつある。彼の各品評會、博覽會、共進會等の如きに際しては常に選ばれて審査員となり、其の腹の中から菓子を知る卓抜深甚な審査力を發揮して大に氣を吐くと共に、斯界の向上發展を誘掖建築する所尠くない。君は年齒六十三歳、鏗鏘として今尙ほ壯者を凌ぐものもある、今日の家運は君として到底成功の域ではない筈だが、洋菓子界の先達を得て、多とする熊本斯界の敬意は、せめてもの心やりとすべきであらう。

□樽丸、材木、酒類卸商□

元田清次郎君

□熊本市船場町□

□鶏卵卸問屋□

□青島卵の元祖□

齊藤輝次君

□熊本市朝市場□

□君は、本邦運送界の一大權威たる内國通運會社に在勤十七ヶ年、其の間、能く業界の趨勢を達觀し、尙ほ且つ縦横の敏腕を振ひ、嶄然頭角を顯はして社運の隆興に銳意活躍する所ありしが、後、一時獨立運送店の開業を見たるも、再び會社の人となり、名成り、功遂げて大正九年、船場町の目貫に、樽丸、材木、酒類卸商を營み、以つて、天成の商才を伸ばしつゝある。斯くて、創業未だ久しからずと雖も、今や、縣下一圓は素よりの事、京阪方面、筑前、筑後等に罕乎たる販路を有し、隆々の商勢眞に驚嘆に値するものがある。資性温良謙讓にして、社交に長じ、公共的義心に富む等、随つて社會的信望極めて厚し。明治十二年生。

□從來、熊本市に鶏卵商を專業に營みしもの決して尠からず、而も多くは是れ、舊習近視の營業に甘んじ、未だ以つて時勢の達觀に基く、雄大なる規模と經營法を提げて活躍發展せるを聞かぬのであるが、茲に、新進の成功家を以つて謳はれ居る、新人物齊藤輝次君は、前人未發の地歩を斯界に開拓し、朝市場の居住を中心として、八方に奮闘目醒ましく、盛運無比の商況を進めつゝある。特に、彼の青島卵は、實に君が始めて輸入賣出しを試み以つて今日に至る隆昌となれるが如き、其の商才機略の到底、追隨を許さぬ所だ。君は縣下木山町の出、本年三十四歳の活動盛りだ。資性温厚、勤儉の他を凌ぐあり、其の前途の大成蓋し窺知すべからざるものがある。



□業庫倉・店漕回□
□町屋米市本熊□

君門衛左九原藤



□商 服 洋□
□町通上市本熊□

君藏伴下岩

□藤原回漕店及び三角倉庫を経営して、斯界に隆々の威勢を振り、日に月に業務の健實なる進展を見つゝある實業家は、即ち是れ藤原九左衛門君其の人である。君は、徳島縣の出身にして、明治十年を以つて生れ、夙に、郷里の中學校を卒へ、明治三十年より四十四年に至る十數年間を神戸にて船舶業に従事し、蘊蓄造詣深きものあり明治四十四年志を齎らして熊本に來り、其の豊富な經驗と錚々の敏腕を提げて、回漕店及び倉庫業を始め、以つて、無比の盛運を開き、業界を雄飛闊歩今日に及んで居る。資性、俊敏英邁、而も達識果斷の他を凌ぐものがあり常に商機の眞髓を捉へて、鮮かなる活躍奮闘を試み、藤原回漕店の聲望眞に旭日冲天の概がある。

□君は阿蘇郡高森町の出身にして、明治二十三年生れの活動盛りである。洋服小賣商の家庭に育ち、夙に、志を斯界に立て、鬱勃たる其の抱負は、到底、郡部の一角に辨闘を許さず、十八歳の時、熊本市に出で、熊本組洋服部に入り、精勵研究を積み、技術の奥妙を得ると共に業務萬般の修養を卒へ、斯くて二十五歳に獨立開業するや顧客の信望自ら鍾り、今や四人と弟子と下請二箇所を督勵指導し、年産額實に二萬五千圓以上の製品を供給して居るが絶えず需要に追はるゝ盛況である。尙ほ、上通町青年會副會長、洋服組合幹事等に推舉され社會的貢獻又大なるものがある。斯くて大正十年現住所を購入移轉し多々益々業界の新氣運を捕へて活躍發展して居る。



□屋問卸贈味並物演種各□
□場市朝市本熊□

君記安田志津

□大熊本市の各種品の中心地たる朝市場に於て、各種漬物類並に味噌卸問屋として、健實なる經營を終始一貫し牢乎たる信望を博し居る人氣店は津志田漬物店である。店主安記君は、當年二十六歳の青年活動盛にして、十一才の時嚴父に死別し、爾來、慈母の手一つで成人したるも、其の間、實に人知れぬ苦心を嘗め、十五才の時、早くも獨立營業の衝に當り、親しく阪神地方に自ら取引を行ふ等、夙に、凡物の企及すべからざる奮闘をなしたるも、素より年少紅顔の事として、兎角、同業者其の他より侮蔑されるかの憾あり、爲めに事業上、人一倍の辛苦艱難を嘗めたるも、一難を経る毎に勇氣を幾倍にも振り起し、堅忍持久、益々家業を勵精匪勉したる結果、所謂天は自ら助くるものを助くの譬へに洩れず、漸次、家運の隆興を見社會的信望日に月に加はり、今や同業者間に於

ても、寧ろ獨歩の地歩を占むるに至つて居るが、是れ要するに、艱難汝を玉にすの通り早くから、家事上に於ける辛酸を経て、人物を琢磨したるに基因し更に、慈母の感化薰陶其の宜しきを致した結果である。世上、往々にして女親育ちの子息が、活社會に處し劣弱附甲妻なを見るのであるに拘らず、君の如く、能く、家運の隆興を達成する途上に勇奮健闘し居るは、蓋し、眞砂の中の玉として、天下薄志弱行の徒輩の龜鑑たるに足るべく推賞せざるを得ぬ。尙ほ、獨り、家業熱誠勤勉なるのみならず社交的にも非凡の信用あり、随つて隣近所、世間一般に極めて評判高いものがある等、旁々以つて摸範的青年として大熊本を飾る人物の風雅と推する足るのである。其の家業たる各種漬物並に味噌類は、品質の優良と價格の低廉と親切懇切の營業振りを併せ有する、所謂三拍子揃つた上、他の追隨を許さぬ大活動家であつて見れば、商賣繁昌は必然の結果たるべく、今や縣下一圓に亘り、抜く可らざる販路を有し、更に益々隆運を加へつゝ、其の大成功を期待するを得べきものあり。吾人は、君が、初一念を貫いて、津志田家の爲め、家運の達成を實現することの遠きにあらざるを疑はざると共に、大熊本青年事業家の範となつて、市勢に貢獻する所あらん事を祈る□資性俊敏且つ温良にして、氣魄に富み、飽迄も堅忍不拔の勇猛心を抱き、眞に、摸範的青年の一人者たるに恥ぢぬ概がある。



□商卸製造菓子菓子種□
□町迎市本熊□

君郎治太村今

□各種指物類、嫁入道具一式□
□各種家具製造卸小賣商□

佐藤清君

□熊本市紺屋今町□

□南九州に於ける種子菓子製造の元祖として熊本市迎町今村商店の名聲は、夙に、江湖に藉甚し、創業茲に二十五年の歴史と共に、益々活躍大發展の氣運を加へ、其の販路の如き、熊本一圓は素よりの事、鹿兒島、宮崎の南九州一帯に及び、尙ほ、大牟田、久留米、大分等にも半平たる顧客を有し、名實共九州一の盛況を招いて居る。

□店主今村太治郎君は、彼の本邦製菓界の大立物たる東京今村製菓株式會社長の舎弟に當り、資性、温厚謙讓玲瓏の徳操を有し、同業の組織せる五葉會の中堅人物たる聲望を馳せて居る。明治十二年生と謂へば本年四十三才の分別盛りで益々今村家の大成を進めつゝある。居常茶の湯、大弓、生花等の趣味を有す。

□熊本指物家具界の權威として嶄然頭角を現はし居る君は指物業の本場たる筑後大川町の出身で、明治十一年を以つて生れ、夙に、斯業に従事し其の道の第一人者だど驅はれ居る敏腕と商才の持主である。日露役出征後、他家に養子となりて苦心慘憺を嘗むる事三年間に及びしも豪放潑刺たる君の到底潔しとせぬ所ありて離縁し、約十五年前來熊を見、前記日露役の軍功に依る一時賜金二百圓を資本として獨立獨行、晝夜奮闘勉勵の結果、遂に、今日に見るが如き大發展を遂げ、今や、下通町二丁目の地所を購入し、近く、數万金を投じて新築を行ふべく、準備既に熟して居る。尙ほ現在の職人三十餘人にして熊本市内斯業全職人の約半數を占めて居る。



橋本末彦君

- 朝鮮 飾 製 造 元
- 各種和洋菓子製造卸商
- 熊本市下職人町
- 勳 八 等

熊本菓子界の新進氣鋭たる橋本末彦君は、斯界の大勢力橋本榮八君の舎弟で、大正元年分家獨立して今日の盛運を開拓した才物だ。朝鮮飾を本位として各種和洋菓を製造し、販路は九州一圓に及び、商勢日に進み、店運月に榮白、今や斯界の花形たる名實を握り、最も囑望期待されつゝある一人者だ。其の朝鮮飾工場は、彼の瓦斯火力と電動力を巧妙に應用した精巧無比の優良機械を据付付け、規模廣大、製造能力夥多なるに拘らず、製品の優秀と價格の低廉は自ら顧客の信用を博し、到底殺到する需要を供給し能はぬ程の盛況である。尙ほ君の創製發案に係る落雁「阿蘇の雪」並に「江戸川」の聲價は世既に定評ありで、賣行き定に飛ぶが如く、男女二十數人の職工を擁して、自ら陣頭に立ち、是等製品の從事に目の廻る様な忙しさは、見るからに氣持が好い。發展の氣運に満ち溢れた象徴である。君は今、三十九歳の男盛りで、常に積極進取の抱き、而も健實なる歩武を踏みしめるあたり、確かに事業家の才幹の非凡を物語つに居る。彼の日露役に出征して滿洲の山野に轉戦し、勳八等白色桐葉章を授けられて居る。其の家庭は眞に和氣満々で、團樂の樂しみ掬す可きものがある。長男正直君(十一歳)長女文枝(九歳)、次女芳枝(七歳)、次男正照(五歳)の二男二女を挙げ、家庭的にも亦君は幸福な主人である。居常、閑を得て好きな謠曲を嗜む等、好尚極めて高く、以つて人物の一端を勞働するに足るものがある。



小堀保治君

- 鍍金専門業
- エナメル塗
- ニツケル鍍金
- 熊本市上職人町

九州に於けるエナメル塗、ニツケル鍍金界の元祖として、名聲噴々たる小堀保治君は、創業茲に二十有餘年、當初より鍍金専門で押し通し、業績年と共に發展を加へ今や斯界の寵兒となり、羨望の的たる名實である。君が業務に對して燃ゆる様な熱誠と深い研究的努力は到底他の企及を許さざるものがあり、爲めに時代に魁した經營を進め常に新機軸を拓いて居る。其のエナメル鍍金は、實に君自身の研究に成つたもので、九州に於ける斯業の嚆矢であり、尙ほ且つ方法、技術の點でも、同業者の追隨し能はぬ獨特な地歩を占めて居るとの事だ。現在の工場使用人は八名で、常に自ら陣頭に立ち、奮闘努力を怠らぬ結果、遺憾なく能率を増進し、其の獨立的妙技と相俟つて潮の様な需要を品質數量共に併せ満た

して居る事は斯界の爲め多とせねばならぬ所だ。君は篤實恭謙の資性を有し、信義に厚く、熱情高き爲め、近隣の德望大なるものあり、隨而交友博く、其の需々掬す可き家庭と相俟つて、内外の公私、眞に羨望に堪へぬ點である。現に熊本青壯年聯合會の幹部に推舉され又、上職人町青年會副會長たる重責を完うし

つゝあり。年齡三十八歳で、長男保俊君(十三歳)、次男秀夫君(八歳)の二息あり、居常、金春流の謠曲を嗜んで唯一の趣味とし、情操自ら典雅たるものがある。尙ほ君の家系に就いて聞く所に依れば、其祖先は代々舊細川藩士で、和歌詩文に長じ、殊に嚴父直氏の如きは斯道の造詣最も深く、且つ敬神の念頗る厚い爲め、其の晩年を神に捧げて、細川家の鎮守六所宮の宮司となり、専ら社會人道の爲めに盡す傍ら、詩歌の指南をなした高潔清廉の士人として令名を馳せた徳望家であつた。當代保治君も亦、其の血と氣を享けて、自ら士魂商才的風格の濟輩を超越した所があり、閑を得て詩歌を創作吟詠する奥床しい雅懐に富んで居ると聞くが、其の家柄を想到すれば、さこそと首肯されるのである。



後藤正男君

職人町の製菓事業が、熊本市重要物産の大なる一つとなつて居るのは、業界幾多の人物が、努力を致し、才幹を振つて開拓貢献した結果である。下職人町後藤周一君の如き斯界の中堅人物で八方に活躍し、業績駁々乎として群を抜くの勢威あり。君は、岡山縣の出、幼少夙に京阪地方に出入して菓子製造方法並に取引賣買方面の實地研究をなし、習得する所大なるものがあつた。先づ東京で菓子業を創め、更に最近迄大阪の斯界に活動して居たが見る所あつて、十三年前熊本に來たのが縁故となり遂に今日の商舖を張り、日に月に店運の隆昌を招致して居る機械製造の金米糖は、後藤家が元祖であつて、斯界に一新機軸を開いた功勞がある。内外各種菓子類を製造し販路の如き、熊本縣下は素よりの事、宮崎縣一圓特に宮崎町、都城町、妻町、鹿兒島縣川内方面には牢乎たる商權を確立し、多大の信用を以つて歡迎され更に九州一圓に向つて着々販路の大擴張を實現しつつある。養嗣子正男君は年齒二十五歳の青春で、家業熱心の評判頗る高いものがあり、常に東奔西走して直接外交の衝に當り、席温らぬと云ふ活動家、最も有爲の人物として矚目されて居る。家族は主人周一君(三十八歳)夫婦と正男君の三人で、多くの職人を相手に水入らずの奮闘振りは、何時見ても壯快なものだ。職人町の菓子業が、今や一種の革新氣運を孕んで居る際、後藤君の如き豊富な經營と見聞の博き人材を有するは多幸である。

- 内外各種菓子製造卸商
- 熊本市下職人町
- 金米糖機械製造の元粗



八代郡八代町
上村壽吉君

- 醬油醸造
- 精醱製造
- 味噌製造
- 内外米雜穀商
- 上村壽吉商店

□君は、立志奮闘の人にして、其の今日の家運を見る迄の道程は、寔に是れ、粒々辛苦、殆ど不眠不休の汗の結晶である。特に、十二三歳頃より三十歳までの努力勤儉は、實に、筆舌の能くせざる概があり、到底、凡庸の企及を許さぬ所であつた。即ち、朝は、必ず午前三時に起き、而も夜は殆ど眠らぬ程の大勢力を發揮し、二十年間終始一日の如く、星より星へ働き通した、天晴れな精勵の人である。加ふるに、群を抜く、才氣と知略あり、傍々、以つて成功家の大なる素質を具備し居る事が推すに難くないのである。尙ほ、

日、隆々無比の大家運を築き上げた一半の功勞は、何と謂つてもマサ子女内助の淑徳に負ふ所であると思はれて居る。斯くて、夫婦異体同心の大勤勉は、着々、報はれ、天も自ら助くるものを助けて、君の事業は、漸次他を凌ぐ發展を遂げ、今や、

□醬油醸造、精醱製造、味噌製造、内外米雜穀商として一流の名實を有し、縣下一圓は素よりの事、遠く、鹿兒島、小倉、八幡等に牢乎たる販路を握り、日に月に盛運を開いて居る。顧みれば、君が、些々たる米穀商を開始したのは、三十歳の時にして、精米、醬油、味噌、醱等は約十年前頃であつた。居常、大事業を〜と云ふ點を念頭に放たず、歩一步、進一進と働き通し、其の間、異常な辛酸を嘗め、刻苦を積んで、遂に、城南に於ける最も實力ある成功家として謳はれて居る。文久三年生。



熊本市東坪井町
岩本末松君

- 東洋貯金株式會社監査役
- 肥後石鹼株式會社監査役
- 慈善相互會 副理事

□熊本事業界に於ける、最も進歩せる知見の持主であり且つ、抱擁に富む器局と錚々の敏腕を併せ有する一人者は、即ち是れ、岩本末松君である。君は、縣下飽託郡西里村の出身にして、明治四年岩本家の三男に生れ、十五才の時、不幸嚴父茂七氏を亡ひ、爾來、身一本、裸一貫を提げて、獨立獨行の志望を起し、慧眼早くも、黄金の花咲く米大陸に着目雄飛し、二十三才より四十一才まで即ち十一年間、亞米利加カリフォルニア洲に在つて、縦横の活躍奮闘を續け、遂に、初志を遂げ、功を成した出色の人物である。而も、其の間に於ける君の道程を顧みれば、最初、先づ、勞働に従事して汗の貴さを經驗し、粒々辛苦の効空しからず、其の報はれた蓄積の實力を以つて、後、洋貨店を經營する事一年有半、更に、洗濯業に轉じて獨特の敏腕を振ふ事五ヶ年、其の間、三十一歳の時、中途歸朝し、令閨を迎えて再渡航を見たのである。

斯くて、贏ち得たる新進の知見と掛からざる實力を齎らして歸朝するや。素より、彼の別荘趣味や待合道樂に耽る底の消極衝氣の人物にあらず、即ち、
 □大正三年、東洋貯金株式會社を發起創立して、其の常任監査役となり、會社經營の事、多く、君が方寸に出で優に、社運の全責を背負つて立つ概がある。兎角、經營困難にして崩壞相次ぐ斯界に在つて、能く、今日の如き盤石の基礎と隆々の盛運を見て居るのは、全く、君の卓拔高邁な才幹と精勵奮闘の結果だと推されて居る。尙ほ
 □君は、理財性の人たると同時に、推服すべき政見を有し、最も熱誠眞率な普選論者である。が、其の政黨的立場は、寧ろ中立と目すべきで、從來、準政友系の人物を以つて色分けされて居るが、必ずしも然らず。又、其普選論の爲め、憲政派に参加するが如でもない筈だ。其實性の如く飽迄公正、至直の善處であらうと推せらる。



中島保明君

- 九州貯金株式會社長
- 熊本市紺屋今町
- 會社、熊本市櫻町

□君は、中島進吾氏の二男にして、明治十七年を以つて生れ、夙に才子の名あり、尙ほ、天成の社交家たる風格を有し、敢て、其の軍役に服するや、忠勤精勵、能く模範的國家の干城たる推稱を受けた人物である。今、九州貯金株式會社長に推され、其の全責任を負つて立ち、能く、會社今日の運命を支持開拓しつゝある功勞は多とせねばならぬものがある。顧みれば、九州貯金株式會社の過去は、兎角經營担当者其の人を得ず、随つて紛擾紊亂の極に陥り、加入關係者の損害は謂ふ迄もなく、一般社會に及ぼしたる影響實に掛からざるものありて、其の收拾を如何にすべきかは、世上注目焦點となつて居たが大正六年、一度、衆望の信頼に推されて、君が社長となり、社の内外に大英斷を加へて刷新改善の實を着々擧ぐるや、齊しく、安堵の胸を撫で下し、以つて、漸次、社

會的信望を挽回し得て、遂に、今日に見るが如き社礎の強固を招致するに至つたのである。是れ、全く、君が才幹と人物に負ふ所にして、到底、凡庸の徒の能はざる難局である。
 □君は是れ、家に恒産ある新進の事業家であつて、九州貯金整理收拾の鮮やかな敏腕により、既に、其の事業家の天分の片鱗を輝かし初めて居る。更に、氣運を捕へて何等かの事業家の活躍發展を矚目期待されて居る。現に君の周圍には、一角の知略と手腕を抱いて虎視眈々たる才物が掛かない様であり、是等の人々は、今、君を中心にして、雄飛の氣運を盛に、瀟灑しつゝあるに徴しても其の前途の展開を、略々、推すに足るるではないか。
 □實性温良謙讓にして、而も、激濁たる意氣と機略を内蔵し、極めて春秋に富む、君の健在を茲に祈る。



堀江兼次郎君

□熊本に於ける印刷界は、今、確かに革新の氣運に當面して、一種の生存競争が行はれ、自然淘汰を見て居る。即ち、従来の規模と組織と營業振りは、到底、激争の波濤を凌いで、其の地歩を支持し得ざるのみならず、遂に落伍自滅の悲運に遭遇する外ないので、現に飄々として、其の種の現象を示しつつ、あるは、世上目撃する通りの事實である。

□斯くの如き、時代の大勢を遠觀し、業界當面の時務を善處する勇斷と卓見を發揮した一人は、即ち、堀江兼次郎君である。君は、元、名古屋の人、夙に、志を奮らし、熊本に來り、印刷業を中心としたる幾多の方面に身を投じ、活躍健闘、到る處に顕俊敏の才幹を振ひ、彼の肥後紙合資會社全盛時代に於ける君の活躍と奮闘努力は到底、凡庸に見る事の出來ぬ鮮やかさであつた。

□其の後、獨立して上通町に活版印刷業を創め、斯界に

- 大同印刷株式會社專務取締役
- 高田原青年會顧問
- 熊本市楠町

臨むや、獨特の敏腕と絶倫の精力を發揮して、直に、先進を抜き、儕輩を凌いで、隆々の盛運を開き、業界の一異彩として押しも押されぬ地歩を占め、勢力を握り世人羨望の的たる概を贏ち得たのである。而も

□明敏遠識な君は、時勢と共に推移するを怠らぬ、賢明の持主であつた。即ち、其の經營を會社組織となし、茲に熊本印刷株式會社として新銳の勢威を見、更に、合して大同印刷株式會社の成立を告げ、今や、同社專務の要路に推され、社運の發展に鋭意奮闘して居る。同社は人も知る關西屈指の大規模と實力を有し、怪傑中山君社長のもとに、其の大兵肥滿の全身、悉く是れ精力と手腕の結晶たるかに目されて居る君が專務として策應精勵して居る以つて、同社洋々の大前途推して知るべく、君も、亦茲に會心得意の好舞台に立つ概である。尙ほ、君は高田原中年會の爲め、最も力ある後援盡力者として介名あり



奥村利吉君

- 不二屋の料理
- 熊本市細工町
- 細工町青年會役員

不二屋の主人としてよりも、事業家的創業の才幹に於て將又、任侠、時に鐵火をも辭せぬ男の骨に於て、普く知られて居る奥村利吉君が、曾つて本邦活界の先進で第一人者たりし小林氏と靈犀相呼應して相撲館を經營し、將に熊本キネマ界の覇者たる氣運を捉へんとした際、偶々小林氏の蹉跌に逢ひ、天の時の未だ利あらざるを知つて陣營を退いたが、其の折の君が畫策飛躍振りは、當時の消息通をして今尙ほ舌を捲かして居る。更に下河原公園繁榮策の理想に基いて彼の不二館經營を試みたが、活界は兎角、君の鬼門たるにや是れ又功を收めずして終つたけれども君の事業家的才幹の凡ならざる煌めきは是れを認める事が出来る。今では事業的銳鋒を暫く收め、其の惚れ惚れする美しい咽を鳴らして遊藝三昧に自適して居るが、必ず風雲に乗じて捲土重來すべく觀測されるものがある。君の俠骨は、そんじよそこの賣名俠客連と自ら選を異にし、情理を盡した徹底的肌を抜き方をする眞平の勇氣である。頼み込めば素より情に脆いものがある而し理知に盲した輕舉を取らぬと共に徒らに名を賣るを深しとせぬ所に其の人物の純真な輝きが窺はれる。尙ほ其の經營に係る不二屋の料理は、四季折々に相應はしい庖丁の牙竹を發揮して、千客万來の満足を興へ、上中下と萬人向きの遊興所、食道樂場として。所謂其名を欺かぬ不二屋である。不二屋の料理、不二屋の遊び心地は到底忘れる事の出來ぬものだとは専らの評判。



森本久五郎君

大熊本の玄關口たる春日の驛前で、水際立つて商賣繁昌の店がある。熊本に於ける晝夜開店の元祖、森本久五郎本店が即ち夫れだ。若い店主森本久五郎君が獨立力行で斯くの如き大發展を遂げ得た、其間には血の出る様な苦心の跡もあり、涙の流れる物語も多々あるが、要するに夜を日に繼いで、他人の幾層倍も奮闘努力した汗の結晶が今日の成功を見た大なる原因である。君は曾つて長崎次郎書店で敏腕を奮ひ、店の内外から君でなければならぬとまでの信用を得た活動家にして、其の人物才幹が夙に一頭地を抜いで居た事が解るのだ。本家にあつて令兄を助け、果物問屋業に専念し、家門の隆盛に貢献願ふ致したが、大に成じ且つ信する所あり、奮然として獨立力行の新局面に向つて、邁進したのである。即ち僅かばかりの資を以つて先づ腕に覺わのある果物仲買を始め、日夜荷物を曳いて賣買に熱誠した結果、其の正直にして敏活なる營業振りは忽ちに多方面の得意を取り入れ、茲に商賣の素地が出来たので漸次諸罐詰、和洋酒類、各名産等と商品種目を増加し、尙ほ成功の要素は誠實にして他人以上に働くにありとの確信と場所柄に鑑みて大正三年以來、晝夜開店を斷行し、君の努力悉く圖に當り以つて他に見る事の出来ぬ活潑發展を招いて居る。更に大正九年には、細工町五丁目の祇園橋際に支店を設置したが、是れ又場所ではあり、粒選りの優良商品が揃つて、而も低廉なことから、目醒しい大繁榮である。

- 和洋酒諸罐詰類
- 各名産果物類商
- 熊本市春日町驛前
- 細工五丁目祇園橋際支店



吉田數馬君

裸一貫より身を起し、短い月日で驚く程の信用を得、營業益々繁昌して、仕事に油の乗れる吉田數馬君の如き有望な若手商人は先づ少い。君は柿屋實作氏の長男で今年廿七歳の青年活動盛りだ。嚴父實作氏は既に數十年前より果物問屋を始め居たが數馬君七歳の頃から數年間病氣で家計困難に陥りし爲め、君は二人の姉と弟の中心となつて一生懸命に働き感心な息子だと評判され、町内神吉喜平氏父君の如き、三年間無家賃の篤志をかけられた程であつた。斯くて十六歳より廿一歳迄某果物問屋の店員となり大に修養する所があつたが或る事情の爲め退店し居る時、熊本驛前の森本久五郎氏から資金拾圓を借用し、大正五年八月初めて先代よりの家業で、果物問屋たる本望を遂げたが偶々適齡の爲め入營二ヶ年の兵役を終へ、大正七年十二月愈々開店するや、其の人物と働き振りは直に各方面の信用を得る所となり益々奮闘努力した結果、今日に見るが如き店運の隆盛を招いたのである。果物の偉大な營養價は世上夙に熟知の事實で、今や食前食後の必需品とまでなりつゝある。特にバナナの營養、風味は果物界の覇者として珍重し食用せらるゝ所だが君は、我が大熊本に其の良品ゆきを嘆き、親しく門司其他の取引方面を觀察研究の結果、其の手に依つてバナナ、其他梨、林檎等一般果物の最優等品を供給し、以つて大熊本市民の満足と信用を得て居るが、其誠心誠意を込めた活動努力は、日に月に事業の大發展を招く事疑ひないのである。

- 内外果實
 - 青物柑橘
 - バナナ
 - 熊本市下職人町
- 委託
問屋



□町原河市本熊□
君郎次鐵斐甲

□君は、慶應二年八月十五日長崎縣高來郡港町に生れ製菓業の傍ら銀行業に従事して、財界に敏腕を振ひ、金融方面に關する造詣極めて深きものあり。明治十六年志を官界に起し、同二十年迄文部省に奉職し、格勤精勵、機略縱横、能く上下の信望を贏ち得て令名を馳する所ありしが、官吏生活の空氣が、兎角其の性格と相容れざるものあり、且つ雄志鬱勃、千里の驥足を伸はずには、別に自由奔走な天地あるを觀破した爲め、斷然職を辭して實業界に入り、盛に雄飛活躍しつゝある、時偶々、熊本市河原町甲斐芳章氏の養嗣子たる事となり、明治三十六年六月轉籍し、菓子販賣業を營んで今日に至つて居る。資性温良謙讓にして、知識業に秀で、特に財界金融上に關しては、明敏透徹せる識見と才學とを有し、常に他より巨額の資金を齎らし來つて、熊本の金融並に事業を援助貢献

しつ、ある功勞は、其の性行徳操が、兎角、名を傳り、功を街はぬものある故、普く世上に知られて居らぬかに觀せらるるが、其の實際に通ずる方面では、實に、陰然重きをなして推稱されて居る。
□自ら進んで、社會公共に對する表面の人物たるを好まず、從而懇請懇進し來る幾多の公職等には常に固辭謙遜し居るも、内部に於ける實際的貢獻努力の點に至つては寧ろ他を凌ぐものがある。表面陣頭の人、素より必要缺ぐ可らずだが、今日の世態に就いて最も遺憾とすべきは彼の實名徒らに功を街ふ自稱有志家の徒輩が至る所に跋扈跳梁し居る事である。斯く輕跳浮薄以つて一代の風をなす當世にあつて、君の如く眞に華を去り實に就く徳操を持つて、公私に處しつゝあるは、取つて以つて時弊に對する頂門の一針たるものがある。
□君の養母甲斐貞子刀自は熊本華道界の權威として聲名を誦はれた婦人であつた。遠州流の插花師範となり數十名の弟子を有し、細川侯爵家其他知名の家庭に出入して重きを置かれ、賢婦人の榮譽高きものがあり、現に插花は、其の高弟たる春日町福田婦人跡を繼ぎ陸々の聲名を馳せて居る、又茶の湯の技に秀で、延壽寺住職其他上流家庭の同好者と廣く親交を結び、刀自他界後は延壽寺住職其の跡を繼いで斯道の爲め貢獻啓蒙の勞を取つて居る□茲に君の健福を祈る。



□朝鮮備製造元
□和洋菓子製造卸商
□熊本市下職人町

と君郎太蔚像宗 場工菓製の其



君郎次榮像宗

國産朝鮮備の機械製造を魁して、其の整備せる工場で、大に製産能力を高め以つて肥後唯一の名物たる朝鮮備の販路を擴張し、其の聲價を益々發揚するに奮闘した宗像蔚太郎君(四十八歳)の功勞は斯界の爲め多とせねばならぬものがある。現に十三釜を有し、九州一圓は素より遠く下關、廣島、岡山、三田尻邊まで牢乎たる販路があり、商運隆々として勢威年々加はるの發展である。甥に當る榮次郎君(二十八歳)養嗣子となつて、家業を専念努力し能く養父の志業を繼いで、更に是れを大成するの資質才幹ありとの評判専らなるものがある。職人町の製菓事業は將來益々發展の氣運を包蔵して居る。それだけ

業界に人材を要する事が多い。宗像父子が常に時代的經營の裡に事業の進展を實現しつゝあるは、一面業界の模範として裨益貢獻する所を推賞する

□宮崎綿店主□



□町屋鹽市本熊□
宮崎勝次君



□製綿問屋□

宮崎定次君

□熊本の製綿業者中、群を遙かに抜いて最も商運の隆々たるは宮崎綿店である。明治廿九年の創立に係り、元蔚山町にて營業せしが業務の異常な發展に順應して、大正三年現在の個所に移轉し、年を送るに盛況を加へ以つて今日に見るが如き、熊本一の名實を贏ち得て居る。

□抑も同店の基礎を築いた貞次氏は、温厚篤實の資性を有し、終始一日の如く精勵力行怠らず、専心一意家業に向つて勇往邁進した汗の結晶、奮闘の應報が宮崎商店今日の隆昌となつたので名並に成り、功既に達げた氏は、本年七十三才の高齡を鑑録として所謂孫兒の頭を撫し乍ら樂隱居の餘生を悠々楽しんで居る。

□當主勝次君又嚴父の性行志業を能く繼ぎ、其業務に勤勉熱誠なる、他に見る事の出来ぬ器量人で、必ず家業の大成長を遂ぐべき模範人物だと推稱されて居る。彼の大正十年五月本山熊本製綿會社創立に就ては、其中心となつて盡瘁し、社長に推されるや、縦横の敏腕を振り機宜の方略宜しきを講じて奮闘貢献した結果、會社發展の基礎茲に確立して良好の成績を示し得たのであるが、故ありて是れを固辭する事となり、現在では監査役となつて居る。斯くて愈々家業専念の境地に入り、其基礎の強固と將來の大發展に銳意し、目下電動機三馬力を振付け盛に活躍して居る。令弟貞三、宗吾の二君又家に在つて兄弟三夫婦協力親、一家常に囂々團樂裡に事業を進め家運を開く所以つて同店が新界獨歩の繁榮を招ける所以で世人羨望の的となつて居る。



武富官吉郎君

□熊本市新町三丁目角の好適な場所に、熊本製菓界の一異彩なる小樓屋がある。店主武富官吉郎君は、佐賀鍋島藩の功臣武富通安氏の次男に生れ、幼少の頃より穎悟群を抜く才物であり、夙に各種の事業に執筆して特稱の敏腕を振ひ、養蠶方面の如きは、最も造詣深く、實績を擧げたものであつたが、機を見るに敏なる君は、製菓界の將來に着目して、決然斯業に身を投じ、刻苦研究の結果、技術の蘊奥を極め、就中、本家本元たる佐賀名産の櫻ようかん、マルホーロの製造に於て獨歩の妙技を有するに至り、此上は地の利を得るにありとなし、明治二十二年熊本に來り、暫く細工町に居住營業して、後、現今の場所に移轉擴張し、以つて今日に至つて居る。

□其の間、格段の奮闘勦勵を致して、製造、販賣兩方面に對する縦横の才幹を振ひ、爲めに逐年業績の異常な發

展を加へ、從つて店舗の増設擴張を行ふ等、内容茲に益々充實を告げ、販路は縣下を風靡靡捲して九州一圓に及び、特に其の製造に係る櫻ようかんは鐵道院の指定販賣品たる榮譽を得ることとなり、又其の特製丸房露は、素より、他の追隨を許さぬ優良な品質を有する事とて、嶄然、業界の雄たる名實を博し、眞に商勢の盛況、旭日昇天の概である。

□家庭は六男二女の子福者で、悉く俊童英才を以つて知られ、長男本年既に二十八才となり、乃父の片腕となつて實直に働いて居る。趣味は碁と投網である。因に君の嚴父通安氏は極めて碁を好み、從つて好きこそ物の上手たるに洩れず、進境大に見るべきものがあり、遂に初段となるまでに至つた云ふ。

尙ほ君は、元治元年生の本年五十九歳である。

- 和洋製菓販賣業□
- 丸ボーロ及櫻羊羹本元□
- 熊本市新町三丁目□
- 小樓屋□



君郎七治野庄

□熊本市に於ける海陸物産委託問屋として、其の聲望、實力の偉大なる事、恰も獨專事業の概あるものは、即ち是れ、庄野治七郎商店である。從來出沒した幾多の群小同業を能く征服して、今や、獨歩の隆運を拓き、年と共に、多々益々活躍發展の氣運を捕へつゝある所、又、業界の一大光彩であらねばならぬ。

□庄野家は、以前、紅を業となし、爲めに紅家と號する舊家である。其の後、一時宿屋を營んで居たが當代治七郎君深く感じ且つ信ずる所あつて約二十五年前現營業を創始し、以つて今日の盛運を築き上げたのである。君は三才の時、嚴父を亡ひ、兎角世路の辛酸を嘗めねばならぬ境遇に成人し、而も勤物たる志を抱いて努力奮闘怠らず、十四才にして、朝市場なる龜井商店に乾物商を實地習業する事八個年、其の間、具さに此の種の商略と取引

□海陸物産委託問屋□
□並に粉類卸商□
□熊本市細工町一丁目□

上の知見を体得し、早くも實業家として一人前以上の才幹を有するに至り、茲に始めて、獨立の家業を起したもので、其の深謀遠慮の程を推すに足るべく、随つて、今日に見る成功を招致しつゝある因由の然らざるを得ぬ所以を首肯する事が出来るではないか。

□其の販路は、九州一圓より横濱、静岡、名古屋、大阪中國地方一帯に及んで牢乎たる信望を博し、縣内産及び宮崎産並に豊後産の椎茸、香茸、木茸、木附子、莫朱菌、黃柏、又度、東雲草、竹皮、楮皮、烏橘、毛皮、銀杏其他各種の精選せる優良逸品を最も低廉且つ懇切迅速に取引を行ひ、旭日昇天の商運、寔に羨望の的たる概がある□家庭に子女三人あり、治助君熊商在學中にして、他は常喜君、秀子である。居常、未生流の生花を嗜み、高雅真に拘すべきものがある。明治十年生。



君熊辰閑古



君郎一茂閑古

□古閑家は、元、縣下飽託郡書津村重富の出にして、夙に熊本に來り、明治四十四年現在の住宅を購入移轉し、健實なる家運日に月に進み、以つて今日に至つて居る。

□當代、古閑辰熊君は、剛健實直な模範的人物にして、早くより志を官界に立て、明治三十一年熊本縣廳に奉職四年の後、更に專賣局熊本支局に格勳精勵する事七ヶ年に及び、其の後、第六師團經理部に轉じ工務課に在りて、忠勤を挺んずる事、實に十有六年の久しきに亘り、其の間、能く赤誠を傾け、敏腕を振つて上下の深甚なる信望を博し、嶄然一頭地を抜く重きに座して居る。然も、

□職務精勵の餘暇には、又能く居町の向上發展に銳意盡瘁怠らず、現に、大正十一年二月十一日の紀元節に發會式を擧げた春竹校後援會長に推され尙ほ町總代たる等如何に社會的興望を存ふて貢献しつゝあるかを窺知する事が出来る□居常、弓術、謡曲の趣味を有し特に其の弓術は日置流の目録を受け居る堪能の技で鳴つて居る。

□令弟古閑茂一郎君は、高邁豪放な世界的人材にして、夙に青雲の大志を抱き、明治三十五年渡米し、オハヨ洲のトールズ大學に性學を學び、斯界の蘊奥を探究して業を卒へ、ドクトルの學位を受け、其の在米十年間に修得した學理と經驗を齎らして大正元年歸朝を見るや、性學博士古閑肥州の名實帝都に輝き常に、京阪知名の人士と深厚なる交誼を結び、能く、専門の學術を普及し、以つて世道公共に裨益貢獻しつゝある所、又、肥後の産んだ一異彩たるを失はぬ。



熊本市新橋屋阿 坂本恒藏君

□軍需諸品供給商として、帝國在郷軍人會本部の指定製品販賣人たる坂本恒藏君は、人格と手腕を併せ有する模範的實業家にして、社會的信仰、又、極めて厚く、多々益々隆々の家運を築き上げて斯界に雄飛しつゝあるが、其の今日を見るに至るまでには、成功家當然の徑路たる幾多の辛酸を嘗めた所謂立志傳中の人物である。

□君は、夙に青雲非凡の志望を抱き、明治二十九年四月には、早くも朝鮮探險を試むる事一々年、其の後、更に鵬翼を伸ばして明治三十一年四月台灣基隆港に渡り、台北に在つて初志の貫徹に奮闘したるも、未だ天の時を得ず、目的の如くならず、苦辛慘憺の末、全年八月新竹廳に奉職の身となり格勳精勵大に上下の信望を博したのであるが、偶々徵兵適齡の故を以つて歸郷し、明治三十三年より現業に従事して今日に及んで居る。

- 軍需諸品供給
- 帝國在郷軍人會本部指定製品供給
 - 會旗
 - 團旗
 - 校旗
 - 諸徽章
 - 奉公袋
 - 紀念木杯
 - 銃劍術具
 - 擊劍用具
 - 各附屬品
 - 被服補修材料及演習具材料商

□其の間、明治四十年二月より全十一月迄、支那法庫門より蒙古にかけて貿易業を營み、以つて其の錚々たる活躍を大陸に伸ばし、業界濶歩の壯舉を遂げたのである。是に由つて之れを観るも、如何に君が實業家として高邁な識見と遠大の抱負を有し居るかを窺知する事が出来る。

□斯くて、大正六年には、帝國在郷軍人會本部の指定製品販賣方に付き指名囑托を拜命する榮譽に浴し、爾來、誠心誠意を傾け盡して事務に精勵勤勉怠らず、常に良貨廉賣を本領となし、正直に、敏活に用命を満足せしむる結果、其の筋の信用益々加はり顧客期せずして店頭に集り、今や、會旗、團旗、校旗並に是等の各附屬品、諸徽章奉公袋、紀念木杯、銃劍術防具、擊劍及び是等の各附屬品、被服補修材料及演習具諸材料商として、盛況無比の優位を占め、斯界美望の的たる隆運を捕へて居る。

■見渡した所、熊本の表装界も時代と共に推し移つて、誇るに足る人物も亦尠くない様である。が然し、高潔清廉な人格と優秀神妙な技術を併せ有して、眞に熊本の表装界を代表すべき名實に座すものは、中島八郎君であらう

■「吸雲堂」—其の名からして既に高雅で風韻の掬す可きものがある。試に吸雲堂に行つて堂内を流るゝ空氣に浴すれば、所謂羽化登仙して、恰も靈峯の絶頂に天上の雲を吸るの思ひを起し名は實の實なりの語、寔に吾を欺かぬ感がある。其の秀逸な雅稱を命名して、家業の祖を開いたのが即ち、君の祖父に當る新助氏で、斯界稀に見る傑出の天才であつた。

■君は、表装の中から生れ出たと云つても然るべく、幼少夙に表装に對する腹が出来て居たので、長ずるに随ひ腕はメキメキ進み、人物は實直に伸び、而も終始一日の如く、研究考案を積んで、常に新生命、新意匠の開拓に奮勵怠らぬ結果、牢乎たる信用、自ら唱集して、盛運隆々、宛然、旭日

□表装界の覇 □吸雲堂



熊本市表装組相談役 熊本市紺屋町



中島八郎君 中島一郎君

東天の勢威を贏ち得て居る。

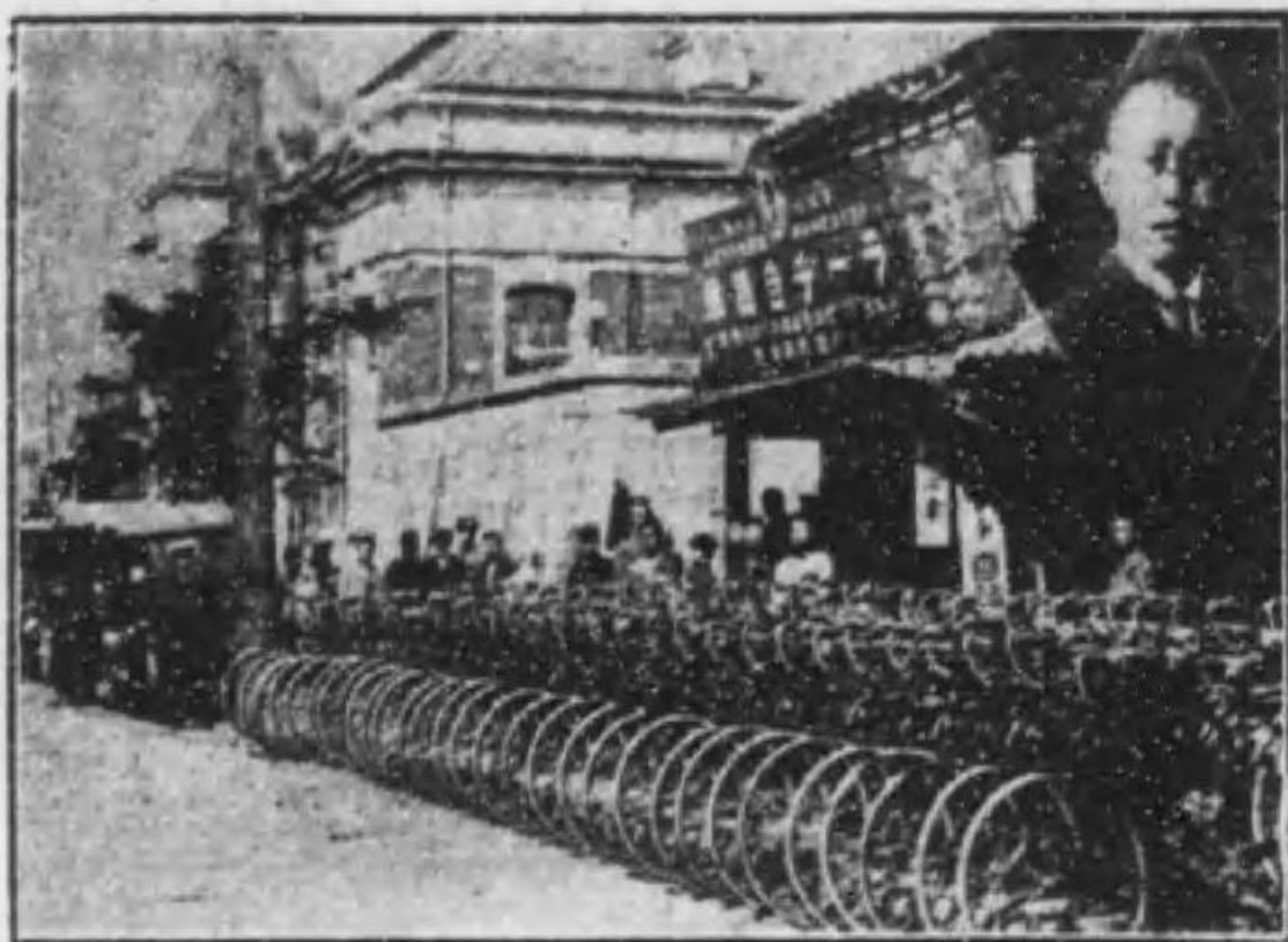
■一度、君に表装を依頼した顧客は、永久に其の技能と人物を忘るることが出来ず現に會つて當地で得意となりし官民知名の人士が、居を全國に轉じ、其の先々から注文し來ると云ふ信頼振りである。特に、京阪地方には全國の粹を抜いた表装師が綺羅星の如く薈り居る筈なのに、君の昔得意が今尚ほ續々依頼し來る點に徴しても、業界に於ける君の眞價を推すに足るではないか。

■舎弟一郎君、又能く業務に専念して、兄弟常に相親和提携しつつ家運の隆興を達成する等、實に羨望に堪へぬ所である。

■生花、書畫、骨董、諸曲等の趣味を有し、共に造詣する所深く、情趣雅懐の豊かなる思ひやるべしだ。

■子女は、かゝる子(縣立高女在學)わい子、一雄、たづ子、きみ子、の一男四女である。

□日米商店縣下特約代理店
□自轉車、自動車一式卸小賣



□店商車轉自川宮□

君雄志次川宮 主店

□自轉車附屬品一式卸小賣
□熊本市辛島町

□縦横の機略と、剛腹突進の氣象を發揮して、熊本の輪界を併せ呑み、更に九州の斯界に覇を稱しつつある宮川次志雄君は、業界稀に見る實勢力で、同時に熊本の有する快男子の一人である。
□宮川家は連綿たる細川本家の重臣で、祿一千石を食み來りし熊本屈指の名門である。武士の血を濃く享けて生れた次志雄君は、少年時代より人一倍の腕白者であつた長じて青年時代に入るや、英氣鬱勃、霸氣満々として、單に一家の傳統的空氣内に煙り返つては居れなかつたので、足に任せて四方に客遊したのである。
□大正二年、當時の佐久間臺灣總督の計畫に成れる、第二期生蕃大討伐の際、君は直に馳せ參じて兵站部に入り倉庫長として従軍し、大に快腕を振つて功績を顯はしたが、大正三年歸熊するや、爛眼早くも輪界に着目し、彼の大坂に本店を有する日米商店が斯界に於ける實力と信用の内外に藉甚せるを見て、之と特約店を結び、熊本縣下一手販賣代理店を開始したが品物は好し、値段は安し手腕は鳴るといふ三拍子揃つた事とて、忽に斯界を風靡し、遞信局、監獄、專賣局を始め諸官衙、會社、銀行等の用命店となり、更に購賣會を組織して一般の普及を計り、尙ほ自動車に指を染むる等、其の商機を見るに敏にして而も奮闘努力の他を凌ぐものあるに徴すれば、君今日の成功が、決して偶然でない所以のものを發見する事が出来るのである。



君玉野喜

□熊本市新町三丁目を通ると、何時でも十臺に餘る程の自動車、店の内外に置いてあつて、何れも修繕や試運転に目覺むる様な音を立てて居る。是れ即ち喜野自轉車店活躍の壯觀である。
□店主喜野玉君は、舊細川藩士で、熊本に於ける擊劍道具製造の元祖として令聞高かつた故喜野福太郎氏の八男に生れ幼少の頃、家業に従事して居たが、明敏な君は時代に感ずる點あり、且つ大に期する所があつて、二十四才の時、早くも輪界に着眼し、自轉車の將來が必ず時勢と共に盛大たるべきものである事を觀破した結果、奮然斯界の人たるべく意を決し而も嚴父の充分なる諒解を得て斯業を始めたのである。是れ實に明治三十六年で、當時業界頗る幼稚寂莫たりし時君は唐人町に些々たる資本

- 自動車及自動自轉車修繕専門
- エナメルメッキ專業
- 熊本市新町三丁目
- 倉庫.....全新町二丁目

を以つて業を起し晝夜の別なく奮闘努力した汗の結果、信用を博し、時勢の進歩に伴ふ業界の活況に能く乗ずる事を得て、店運日に月に進展を加へたが、君は更に乗物の將來が自動車にありとの先見的斷案のもとに、明治四十年、現在の所に移轉するや直に、自動轉修繕を創開したのである。而も九州に自動車が唯の二臺しか無つた時代だから驚くではないか。實に、自動車修繕事業の九州開祖をなして居るのだ。以つて君が如何に機を見るに鋭敏であり且つ機械工業に對する豊富な天才の所有者であるかを推す事が出来るのである。同時に其の商勢の隆々として、遙かに儕輩を抜き前途の大成就を窺ひ知るを許さざる店運を招致しつゝある、又自ら首肯すべき多くの因由あるを發見さるゝのである。



野野八藏君

□君は飽託郡清水村の出身で、夙に志を事業界に立て、早くも十五才の時、大江にて水車業を始め、廿四才迄九年間、一日の如く孜々營々として業務を奮闘努力し、信望極めて厚いものがあつたが、時偶々、事情の展開する所があつたので、洋々たる希望を抱いて上京し、二十四才より廿七迄、帝都の生活を營んだのである。其の間曾つて多少の経験あり、且つ帝都の人の嗜好に適すべき風味ある「熊本モヤシ」を開始し、盛に製造して士官學校等の御用達となり、或は一流料亭の歓迎を受けつつありしも、何分氣温の關係上、製造上面白からぬ費用と結果を見、到底熊本邊にて出来る如き品物を得られずして漸次事業上の支障困難に遭遇した爲め、遂に斷念の止むなきに立ち至つたのであるが、帝都の真中で最も熊本の地方的特色あるモヤシの製造販賣に銳意したる所に、君の

- 陸軍御用達商
- 蒸氣織機……餛飩製造
- 熊本市追廻田畑町

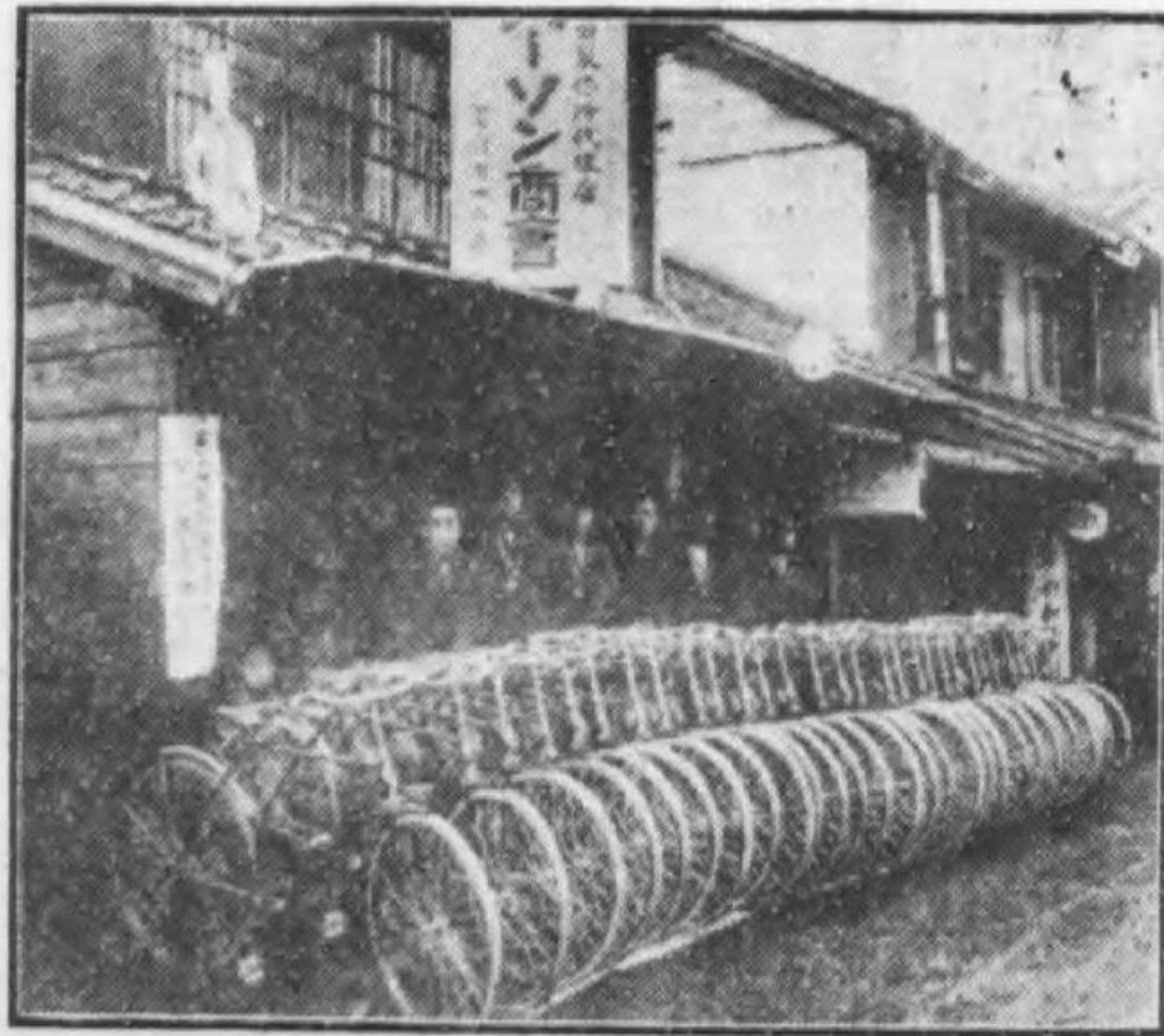
風骨と人物の一端を推知する事が出来るのである。□斯くて事志と違つた君は諸先輩知友の斡旋により、宮内省に在勤して穀物取扱を執掌する事二ヶ年間、後歸熊して、白川町中將姫際に再び水車業を營む事三ヶ年を経、現業に轉換し、十年前より陸軍御用達となり、店運に疑々乎として向上發展を見、場所や其他の關係上、七年前現住所に移轉し來つて益々繁榮隆昌を招いて居る□資性、温厚篤實で實直謹嚴を以つて己れを持し、謙讓和親の徳を披いて他に處する當代稀に見る篤行の人物である。常に自ら陣頭に立つて家業を勵精采配し、四年前より蒸汽機械を据わて製造する結果、製品の優秀と製産費の経減は、それ丈け軍隊に對する奉仕となり、隨而其筋の信用益々厚きを加へて居る。家に子女六人あり。孝一ひろ子、次一、まさ子、八一郎、正一の四男二女である。

□古來、武道を以つて天下に鳴る熊本にて、弓矢師の營業し居るは僅かに高橋民平君と其の縁類に當る外一軒のみである。高橋家の祖先は、彼の舊藩の國學者として令名高き熊本市上林町木下先生の姻戚に當り民平君の嚴父徳太郎氏、大に見る所あつて弓矢師となり、茲に、家運の基礎を開き、逐年業績の發展を加へ、以つて今日に見



高橋民平君

るか如き盛況を博し得たのである。□當主民平君、重行と號し、能く嚴父の志業を継ぎ、元「矢」製作専門なりしを更に「引矢」共に製造し、原料を京都に仰ぎ或は日向産、鹿兒島竹の良質に取り、常に研究工夫を積み、先年林産品共進會に於て賞狀受領の榮譽を得て居る。尙ほ製造方法に改良を加へ、器械力にて作業し得べく既に研究の曙光を見、能率の増進を實現しつつある。



□町屋魚市本熊□
店支本熊會商ンソーパ
 □君助之善村奥任主□

宮田製パースンの名實が、輪界の最高權威として全國に重きをなす理想的製品たる事は、世人の普く熟知する所である。其の熊本支店は奥村君の經營に係り、直接に逓信省御用達の榮譽ある外軍隊、電氣會社を始め重なる官衙公署銀行會社商店等の信望需要殆ど一身に鍾る盛運を示し、嶄然、業界を雄飛獨歩して居る。君は、愛知縣西加茂郡の出身にして、多年輪界に豊富なる經驗を有し、元、本店の勤務より抜かれて名古屋支店及び神戸出張所主任となり、十年前來熊し、前後十七年間縦横の敏腕を振ひ、隆々の業績を挙げ居る傑出非凡の才物である。



□長村莊本前□
□町人職下市本熊□

君治純廣永

□北海物産、昆布製造□
□尾張大根切干問屋□



君男辰廣永

□熊本市朝市場前に、北海物産、昆布製造、尾張大根切干問屋業を営み、斯界切つての盛運隆昌な店は、即ち月屋事永廣商店である。二十數年前の開業に係り、縣下は勿論、福岡、長崎、鹿児島等の九州一圓に販路の擴張發展を見、十年前より同町内に刻昆布の機械製造を設置し別に廣大なる倉庫を有する等、設備万般の充實全く成り一方店主辰男君は大正六年以來、毎年産地北海道を視察すると共に取引上の有利な展開に成功し、以つて年を逐ひ月を重ねるに従ひ、店運勢物として、業界無比の進歩を遂げ、更に發展の氣運益々大なるものがある。

□叔父純治君は、舊會所小頭より地方自治の爲め精勵奮闘し、其の本莊村治に貢献せしこと實に前後引續き四十二年七ヶ月の長きに及び、君の一生は殆ど本莊村政の爲め奉仕した敬虔すべき功勞者たる事は、世人の夙に熟知して、感謝推稱措かぬ所である。資性温厚謙讓にして、公共の行厚く、昨年町村併合による村長勇退後は、書畫骨董等に雅懷を養ひつゝ、悠々晩年を樂んで居る。又、以つて羨望に堪へぬ身世である。齡五十九歳益々鏗鏘たり

□嫡男辰男君、夙に家業内外一式を切廻し、營業熱心で敏腕の評事なる新鋭人物である。特に感すべきは、繁忙なる業務中に能く閑日月を得て、國風の嗜みある事だ即ち國風會員としての佳作を左に紹介しよう。

○秋風にはれゆく宵の月影は、筑紫の空も澄み渡るらん
○住の江の岸の松原みどりして、霞こめつゝよする白浪



君二雅内堀

□熊本市を通ると、自轉車や赤塗りの箱車に堀内製館所とマークを打つた製館を山程積んで、縦横に馳驅して居るのを必ず隨所に見受けるが、是は、謂ふ迄もなく、高田原楠町の堀内雅二君經營に係る製館所の目醒しい活躍振りである。市内外に於ける一流菓舗の得意を殆んど其一身に鍾めて、八方に敏腕を伸ばしつゝ、ある同君の勢威は、實に素晴らしいものがあり、更に將來の大成就に窺知すべからざる概を示して居る。

□君は、愛媛縣の出身にして、熊本製菓界の重鎮三好馬太郎君の甥に當り、幼少の頃より其の薫陶仕込みを受け加ふるに才氣煥發の天質を以つてし、精勵奮闘二十年に及び、同店が朝鮮館本舗として斯界獨歩の名實を博し得たのには、君の勞功に負ふ所が多いのである。斯くて、大正七年獨立製館業を開始するや、多年の經驗と事業の

□製 館 業 □
□高田原中年會幹事會計 □
□熊 本 市 楠 町 □

性質と獨特の快腕とが相俟つて効を奏し、逐年異常な進展を加へ、以つて今日に見るが如き隆々の盛運を招致して居る。

□昨年の初め頃、高田原の向上刷新を標榜して、高田原中年會なるものが生れ、市所在の各青年會中、最も實動の見るべきを致し、能力を發揮しつゝあるは、既に世人の普く目撃する所だが、此の會の發案創立より今日に至る活動の中堅となり居るものは、即ち是れ堀内君其人である。高田原は過去に於て、熊本の中樞たる地の利の名實があつたもので、年と共に、兎角萎微退嬰振はず、他方面に對比して、確かに後れ勝ちなるも、同地方青年が今や覺醒奮起大に爲すあるの氣運を促進して居り、將來刮目の焦點たる概があるに徴し、是れが中堅たり潛勢力たる堀内君の社會的展開は事業以外更に公人としての使命と期待の大なるものがなければならぬ筈だ。以つて自重加餐すべしである。年三十四歳。



君郎太德田内

□熊本輪界の重鎮として藉甚の名聲を馳せ居る内田徳太郎君は、以前新町に於て盛大なる酒類商を営んで令名あつた故内田傳次郎の長男に生れ、幼少、夙に出藍の才物を以つて矚目され、最初志を醫學に立て、現今の九州藥專が未だ本取本町にありし時代、入校して勉學研鑽を積みつつありしも、家事の都合にて中途退學の止むなきに至りしが、飽迄初志の貫徹に銳意邁進すべく、鐵石の如き決意を抱いて、十八才の時大阪に至り、同地著名の製藥會社に勤務して、精勵研究する事五ヶ年、造詣する所深く、日清戰爭の際、衛戍病院に奉職し、傍ら醫器器械の製作に腐心して蘊蓄を積む事二ヶ年、更に臺灣の衛戍病院に榮轉在勤二ヶ年後歸郷後、直に醫器器械の製作販賣を營み、其の造詣と勤勉を以て、能く豫期の業績を擧げ、着々發展の氣運を捉へつつありしが、或る動機と所

見の爲め輪界に身を投ずる事となり、爾來今日迄廿有餘年間、一日の如く奮闘精勵を續け、且つ時勢に魁する新しき試みを以つて常に聲名を博し、特に研究心に富み、豊かなる發明の天才を有する事とて、驚く可き技能を發揮して居る。最近、内田式安全ベタルの發明に成功し、目下、實用新案特許出願中の由、仄聞して居るが、何れ許可を得ると共に、未だ未發の特許製品が、市場に現はれて業界を裨益貢獻すると同時に、多々益々、家運の隆昌を加へ、以つて其の功勞に報いらるゝ事となるべく、斯くて、輪界獨歩の名實を握り、盛況無比の成功を贏ち得る氣運の更に健勃として漲つて居る。現に、各官衙、銀行、會社各學校等の御用を勤め、信譽を一身に鍾め同業者羨望の的たる概を示して居る。又異材なりと稱すべしだ。

- 自轉車販賣並ニ修繕業 □
- 自轉車附屬品一式卸小賣 □
- 牛島 自轉車店 主 □
- 熊本市唐人町 □



□町土宇郡土宇縣本熊

君喜繁森金

- 金 森 醫 院 □
- 皮 梅 科 外 科 □
- 熊本縣醫師會豫備議員 □
- 宇土郡醫師會理事 □

□君は、下益城郡海東本の出、明治十一年を以て生る夙に、私立熊本醫學校を卒へ、更に、熊本縣立病院に於て皮梅科、外科の研究を積み、深く造詣する所あり。明治四十年、現在の個所に開業して今日に至り、獨特のメスの偉力を振ひ、地方稀に見る名醫を以つて推され、令名噴々信譽を一身に鍾めて居る。

□宇土町現在の開業醫中、君と吉田君は、兩々相對峙して隆々の聲名を馳せ、正に、鐵中の錚々たる雙幅の白眉である。即ち、君が、外科、皮梅科の名實を完全に代表し居るに對し、吉田君は、内外、小兒科に於て出色の生彩を放ち、互に、靈腕を發揮して、投藥療養に銳意貢獻する所多く、尙ほ、醫事衛生の、總ての方面に亘りて、盡瘁して居る等、寔に、同地方民の擧つて推重多謝措かの所以である。

□君は、謹厚の資、仁恤の性を有し、自己の高き天職を自覺徹底して勇往邁進する外、又、他を顧みず、終始一日の如く、一視同仁的懇篤靈妙なる施療に専念し以つて患者の厚き信頼と深き感謝を唯一の樂しみとなし居る所確かに、仁術の境涯に入れる斯界傑出の人格美である。彼の、往々にして見る、醫界の人々が、徒らに職分の脱線を顧みず、或は利慾に迷ひ、賣名に走り、爲めに神聖なる天職を累するもの多く、有体は是れを告白すれば、仁術の實在、年と共に影薄くなり、遂に、滔々地を拂はんとする憾みなきにしもあらずで、かゝる慨嘆すべき斯界の一醜面を暴露しつゝある際、君の如き、玲瓏高潔の人物が、其の放つ徳操美の光輝は、寔に是れ、斯界を警鐘する空谷の登音にも似たらん概がある。吾人は、茲に君の自重加餐を祈る事、特に、切なるものがある。



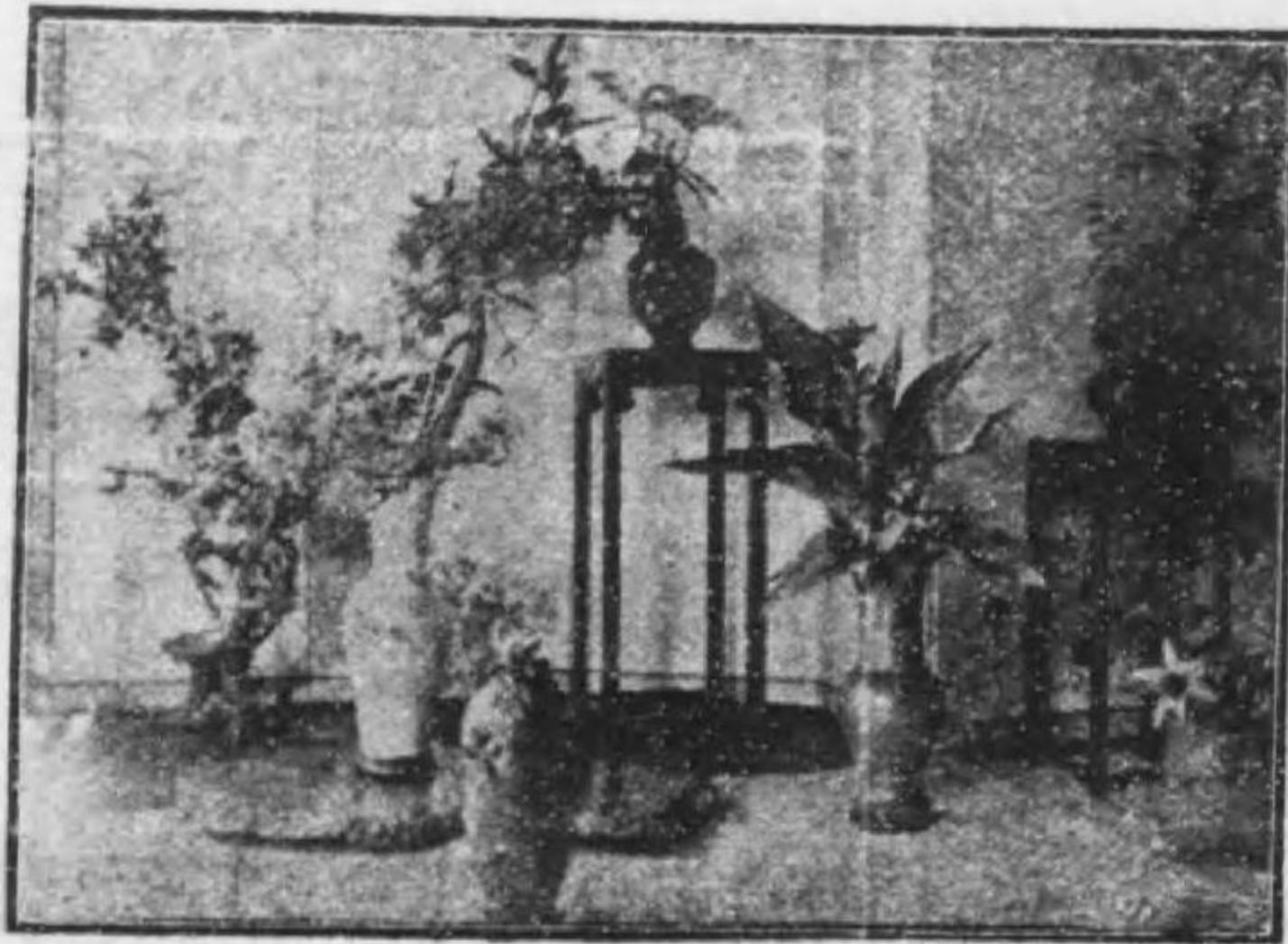
熊本市上通町
田代屋吳服店

熊本の流行界が、田代屋吳服店から生れるとは、世、既に定評ありで、其の粹と醇を盡せる最新式の柄や模様の数々中に、熊本の流行界が、完全に縮圖され居るのみならず、進んで、京阪のそれを窺知するに足る概があり、常に、高き抱負を以つて、斯界を支配し居る經營の一端を偲ぶ事が出来るではないか。主人美作常太郎君は、別項記載の如く、一代の師表として名成り、功遂げた樂隠居格？。店務は、多く、長男二郎君と二男三郎君が擔當切り廻して居る。二郎君は、豪商の大家に相應しい悠揚温雅な人物であり、三郎君は、才氣煥發、七面八臂の驚嘆すべき敏腕家だ。何れも熊商出身の錚々人物にして、三男史郎君神戸高商を出で久留米の國武家を繼いで居る



他託郡白坪村
矢島七郎君

君は、夙に、友枝庄藏氏私塾忍濟舎に學び、更に、川尻町戸田篤忠氏經營に係る中學程度の就將校を卒へ、其の後、上京八年間、具さに學徳を積み、後半四年は、宮内省圖書寮に格勳精勵して令名あり。後、歸郷、第九銀行頭取堀江直臣氏の秘書となり、併合後の肥後銀行頭取紫藤猛氏秘書を経て、明治卅七年同行庶務主任より進んで同四十一年庶務課長に抜かれ、以つて今日に至つて居る資性、實直謙讓、世故に通じ、社交に長ずる一方、又、一片稜々の氣骨を胸底に抱き、而も、才識の他を凌ぐものあり。蓋し適材適所を以つて推重せらるゝ所以である肥後銀行内精通勞功の一人者で、健實重厚を体得し居る代表的タイプの人物だと推されて居る。年五十五歳。



庭園師 □ 書畫骨董商 □

廣島久八君

廣島久八君は、文人花中興の開祖として名ある人、彼の關西唯一の稱ある柏屋宇兵次君と共に、明治卅年頃より苦心研鑽を積んだ結果、遂に、一家をなすに至り、獨特の流義を開いた斯界の功勞者である。日本の家庭に最も相應しい典雅な嗜みとして、且つ、家庭教育の一端に資する高い見地から、盛に、是れが養成に努め、高弟、門人頗る多く、一流の家庭に非常な歓迎を受けて居る。尚ほ、君は、熊本の商傑を以つて推されて居た下田耕造君と熊本繁榮策を講じ、先づ、熊本名物として二輪加を考案し、自ら、招魂祭に是れを演じたのが、即ち、熊本二輪加の元祖となつて居る。又、電氣事業の計畫に於ても鼻祖なりと稱すべく、政界に於ては、彼の、自由黨の血を吸つた一人だと聞く。

迫時計商店支配人



大橋勝太郎君

君は、明治二十二年一月二日より叔父の家に當る迫時計店の支配格となり、爾來、三十二年有餘、其の精巧緻密なる明晰の頭腦と絶倫の勢力を傾け盡して、同店今日に見る盛運に致した功勞は、世人が目して迫時計店の大黒柱と推す所以である。専門とは謂へ、時計に對する君の造詣と靈腕には驚嘆すべきものあり、精工舎技師長吉川鶴彦君が君に送りし書簡中に「貴下の如く、時計の實際に當り、識見卓抜の御方より、充分、御教示仰き度云々」とある。以つて斯界に於ける名實の一端を推す事が出来るではないか。居常、静嚴主人の高風を受け、時事問題に對しても一度眼を有し、國家社會の大勢を談論風發の概ある等、又、異數の才なりと稱す可し。年四十七才



君郎次新本野木

□君は、努力奮闘の人である。所謂、朝早くから、晩遅くまで、業務を熱心に働き通し、是れを樂しむ外、又、他意なく、終始一貫、敢て渝らぬ所、常人の企及すべからざる點である。随つて、現在、職人町の木野本菓子玩具卸商店と謂へば、最も信用あり人氣ある繁榮店として評判高く、同業者間でも、羨望の的たる盛運である。

□同店は、先代の創業であつて、君は、十五才の幼少時代から斯業に従事し、爲めに、家業に對する製造販賣兩方面の業務一切の事に就いて十二分の腹が出来て居り、而も、熱誠惻發の性質を有するので、常に、他を凌ぐ技倆と精勵を發揮し、以つて、自ら衆を抜く家運の隆昌を見、益々活躍發展の氣運を捕へて居る。

□由來、菓子と玩具の卸販賣は、兩者の間に微妙な交渉がある筈で、地方到る處に見る菓子店で、同時に、玩具

を賣らぬのは無いと云つて好い位だ。故に、其の販賣上何かにつけ、非常な有利益の點あるべく、傍々、以つて、同店の繁昌を助長する素因の一つとなつて居るだらうと思はれる。同店の販路は、今や、縣下一圓は素よりの事、殆ど九州一帯に及び、尙ほ、遠く、京阪地方及び名古屋邊までも手を伸ばし、隆々の商勢を振ふて居る。

□資性、温厚篤實にして、勤勉力行を唯一の趣味となし懇切誠實の顧客本位を以つて家業を進め、而も、商才の他を凌駕するものあり。同店今日の發展盛況は、蓋し當然の事であると評して然るべく、以つて、其の將來の大成を窺知するに難くないのである。

□本年三十七才の活動盛りである。家に令息義男君(九才)が一人息子として可愛がられて居る。家庭の和氣常に闊々、團樂の裡に家運を樂んで居る。



島オ子ルボ洋南

▼南洋ボルネオ島の奥深い未開地には日本人は恐歐米人でも未だ足跡を印せない寶庫が遺棄されて居る。唯、熱帯の惠浴に野獸の生活を營む自然人が隨所に巢窟せるを見受くるばかりで、而も、其の土人は、彼の莽猛なゲイヤ人種に屬し、所謂食人種の名に依つて恐怖嫌忌され居る所である。が、然し人類は根本に於て互に意志の疎通すべきものにして、敵意と先天的錯覺を取り除い

た彼等蠻人は、是れ又、人類愛に祝福さるゝ共存共榮生活の有能者でなければならぬ。見よ、彼の食人種の稱あるゲイヤ人種を相手に、唯一人の日本人が、常に五六十名餘の土人を使役して、盛大なる諸雜貨販賣業を營み王者の如き將來を期待さるゝ快男子があつて本邦人の爲め万丈の氣を吐くものあり。熊本市細工町奥村利吉君の今弟奥村谷五郎君、即ち其の人である。

□家 業 事□

君郎五穀村奥

▼君は、廣島中學校出身の錚々たる新人物にして、小學校より中學卒業迄、優等特待生を以つて一貫した、稀に見る秀才であり、其の卒業後一年志願兵として軍務に服するや、特に師團長より賞状を授與せられた程の模範的軍人と推稱せられ、大に面目を施して砲兵少尉となつたのである。以つて君が至る所に穎脱出色して、如何に人物の優越非凡なるかを證據立て、居る。斯くて、

▼満期退營と同時に、南洋なる蘭領ボルネオの開拓者として、籍甚の名聲を内外に馳する、熊本縣人正源寺氏の囑目する所となり、其の手引に依つて直にボルネオ島に渡り、縦横の雄飛を試み、前述の如き壯舉を敢行して茲に六年を経過して居る。

▼年齢三十三才にして青壯僅かに男盛りに入つたばかりの快骨熱血男子である。其の男性的雄圖の大將來は、蓄し、震天動地の期待を繋ぐものあるべく、常に未發の處女地を開拓して、報國の赤誠を致さんと渾身の勇を鼓して奮進活動を續けて居る。吾人は、茲に君の雄圖の壯に對し衷心の敬意を表すると共に、洋々たる大前途を祝福して止まぬもの、國家の爲め切に其の健

在加餐を祈る。

▼我國の國家的問題中、最も考慮し措かねばならぬは、實に彼の人口問題である。産兒制限等は與國的大氣運の日本帝國民が斷じて共鳴せぬ所、唯、海外發展の一事を残すのみだ。南へ！南へ！！の標語は古くて新らしい。吾人は海外万里の異郷で國家的使命を致しつゝある同胞の事業と抱負を傳ふる事の如何に國民的感奮と貢獻の大なるものあるかを痛切に信する。重ねて奥村君の自重を祈る。



□の會商池電洋東□

池電洋東 號八三四九六第許特賣專
號九〇〇四一第願案新用實
□町端堀城古市本熊□
會商池電洋東 發造製
舖本本
地番八十三町迎市本熊 場工□

實に此の時代的要求を完全に満足せしむる事の出来るもので、在來の乾電池や蓄電池の如く不經濟で使用上の難解なく、何人も容易に使用が出来、且つ僅少な費用で危険なく利用せらるゝのだから、呼鈴用、室内用電話用として室内點燈、手提電燈、自轉車、人力車其他各種電燈の設備に好適し完全無缺、便利重法な經濟的最優良品の名實膾々たるものがあり、隨而各商店、

■現今は、何と云つても電氣の世の中である。文明が電氣の光力に依つて進歩したのも争はれない事實だ。而して文明の利器は、それだけ難解の科學的知識と技術を要し、兎角使用上の不便と危険が伴ひ、且つ經濟上高價な爲め、世人の悉くが、其の利便に惠浴する事の出来能はぬ所がある。
■然るに、若し使用極めて平易で何人にも出来、而も危険なく經濟上低廉な文明の利器、特に實用的電氣利用の機械器具があつたとしたら、是れこそ万人向きな文明の一大福音として歓迎し直に利用せねばならぬものである
■東洋電池商會の發賣に係る特許、新案の東洋電池は、

旅館、質店、養蠶家、工場、官衙公署學校其他何れの家庭でも非常に歓迎され、其の賣行普及真に驚くべき程である。
■今其の特徴とする所を畧記すれば、電鈴電話等一年一回液の入れ替へで済み而も一々充電所へ持つて行く必要なく婦女子にも出来る藥液の調合で入れ替へ永久完全に必要ななく、特殊の方法で作つてあるから「アマalgam」の必要なく、且つ藥品代は乾電池に比し二割弱安く、電壓が二、一、一ボルト高いとの事である。以つて其の聲價を推す可しだ
■同商會は濃厚な敏腕家河島金造君の主宰經營である。



□君郎次宗清正□

■熊本市坪井横町の正清家は、祖先より同地に居住し、家系連綿として實に百餘年を閱する古い家柄である。代々米屋業を営み、藩侯の御用達を勤めて來た榮譽の歴史がある。特に養父米屋太七と稱せし人は、能く親に仕へて孝道を盡し、爲めに藩侯より褒賞を賜はり、肥後孝子傳中の一人として推揚された篤行の人物であつた。
■宗次郎君、夙に、太七氏の養嗣子となり、入りて正清家を繼ぐや、濃厚篤實の資性と精勵勤儉の行を發揮して益々家運の隆昌を加へ、社會的信望を博し、以つて正清の家名を大成しつゝ、今日に至つて居る。本年七十四才の高齡であるが、鏗鏘として尙ほ壯者を凌ぐものある等、勢力の旺盛なる實に驚く程だ。居常淨瑠璃を嗜好し和氣霽々たる子女の孝養を樂んで悠々晩年を送つて居る。

- 雜貨小間物商……彌七君(次男)
- 荒物卸小賣商……安次君(三男)
- 熊本市坪井横町□
- 藤崎神社宮總代□組長□

■子息三男二女の中、長男久吾君四十七才の時不幸他界し、次男彌七君(四十才)、三男安次郎君(三十七才)又能く嚴父の性行氣質を受け繼いで謹直篤實而も營業上の手腕、熱心に至つては、到底他の企及すべからざるものがあり、常に京阪地方を往來して、嶄新優良の商品を他店に魁すると共に勉強店たる評判専らなる爲め、店頭絶えず顧客を以て満され居る繁昌である彌七君の經營する小間物店は、明治三十五年の開店と云へば鹽山商店と同時に當り、兩々相並んで坪井地方の商權を握るの名實であり、又安次郎君の營む荒物店は明治四十三年の創業に係りの信望を推知し得べく、其卸部は縣下に亘る廣い販路を有し、尙ほ熊本の夜店の商品をも供給して居る。



安田幾平君

◎君は、温厚謙讓の徳操を以つて、誠實勤勉に家業を進め、傍ら社會公共の心厚く、爲めに家連年を逐ふて隆昌を致し、社會的信望亦極めて噴々たるものがある。以前は坪井立町にあつて古くより呉服商を営んで居たが、明治三十四年、蔚山町の現住所に移轉し、同時に綿問屋を創業して今日に至つて居る。君は又、熊本に於ける製綿問屋事業が、其の需給關係等より見て、頗る有利多望なるに拘らず、土地の關係商人は、多く小成に安んじ、蝸牛角上の争ひに没頭して、莫大なる製品の輸入を他府縣より仰ぎ、他地方商人の跋扈飛躍に委ねて顧みぬ如き實情なりしを遺憾に思ひ、率先奮起して、製綿會社創設の發起をなし、是れが中心となつて其の成立に多大の功勞があり且つ創立早々社長外八名の重役が連袂辭任をなす紛擾に陥つたのを、君の人格と才幹により、圓滿なる善

後策を見、新進氣鋭の田中社長を迎へて、自ら常務に殘り、銳意社運の健全なる發展に精勵奮闘の結果、日尙ほ極めて淺きに拘らず社礎着々強固を加へ、豫期以上の利益を擧げ居るが、是れ、君に負ふ所尠くないのである。

◎長男寅喜君本年三十二才の新鋭で、能く、嚴父の志業を助長發展せしむべく、銳意家業を勵み、篤實なる勤勉家として四隣に評判高く、長女静子良縁に嫁して他にあり、二女節子(明治三十四年生)高女出身の才媛で現に家政を手傳ひ、孫は季子(三十九年生)富美子(四十四年生)憲次(大正九年生)の二女一男にして、是等の兒孫を撫し乍ら尙ほ且壯者を凌ぐ勢力で内外に奮闘努力して居る。居常、生花、盆栽類を嗜好して、慰安となし雅懐を養ひ、風格自ら高く、拘すべきものがある。多年町總代となり令名を馳せて居る。年六十才。

製綿問屋業

熊本製綿株式會社常務取締役

熊本市蔚山町町總代



合資會社九州實業社

帝國通信實業學校

中川亮君

◎國家富強の根幹を培養して、國運の進展を達成するには、實業補習教育の普及充實に俟たねばならぬもの大なるに拘らず、本邦教育界の缺陷が、寧ろ此の方面の不備不振にある事は、世人の齊しく認容して慨嘆する所である。茲に着眼奮起して、實業通信講義録を發行し、以つて偉大なる國家的貢獻に銳意奮闘しつゝ、ある中川亮君の功勞は、是れを多とせねばならぬものがある。

◎君は、鹿兒島の出身で本年三十七歳の新進氣鋭明治三十五年度を負ふて東都に上り、在京十五ヶ年、其間、或は佛教大學に學び、轉じて林伯の經營に係る東京實業學校に入り、後、目白僧園の講師となりて教育界に活躍奮進し、傍ら帝國現在の教育界に就いて具さに研鑽造詣すると共に、深く期し且つ遺憾とする所あり。即ち九州に下り、教育地たる熊本を選んで抱負貫徹の箇所となし茲

に實業通信講義録を發行して全國農家青年の爲め補習學通信教授を開始したのである

◎斯くて、時代の最も切實な要求に應じた事業の事として縣の補助を受け、既に九州全縣下に亘つて、約八万の會員を有する盛運を贏ち得て居るが、將來は、男子のみならず、女子に適應する講義録をも併せて發行する計畫を有し、更に進んで女子専門補習學校設立の準備既に熟し居り、其の前提として、熊本に女子簿記學校皆無なるに鑑み先づ是れを創設して生徒の募集を試みたるに、申込者殺到、所定の人員を幾層倍するの盛況を見、校舍新築竣成迄自宅の二階を教室に當て、福岡筑紫高等簿記學校より良教師を聘用して専任となし、君自身も教鞭を執り居るが更に専門的講師を得て着々内容充實を計り、以つて所期の効果を奏すべく、邁進努力して居る。

◎而も會の基礎を益々強固にし、事業の大發展を圖る爲め、組織を變更して會社となし君が個人經營を擧げて、資本金五万圓の合資會社九州實業社に讓渡し、自ら業務執行社員となり、漸次事業の擴張を期圖し、以つて國民教育の爲め大に貢獻すべく銳意奮闘して居る。吾人は、本邦教育界の現状に鑑み、鬱勃たる國運の將來に想到して、其の事業の發展と君の自重加緊を切に併せ祈るものである。

□ 山本運輸本店主 □



君郎三彌岡楯

九州の運送界を代表する勢力が大別して五つある。九州に本店を有する日本運送、八坂運輸、明治運輸の三勢力と、本邦運輸界の兩横綱たる日本運送並に内國通運の二支店勢力が即ち夫である。自餘幾多の群小勢力は當然この五大勢力中の渦中で、僅かに波紋を起し居るかの觀に過ぎぬのだ。隨而、業界出色中の人物は、何れも其の五大勢力中に立つて雄飛活躍して居る。

君は、熊本市の大支關たる春日町——熊本驛前に大々的店舗を張り、常に數十の店員、數百の仲仕を雇備し、敏活、誠實、懇切を以つて終始一貫する理想的運送店の名實高い山本運輸本店主である。青年時代より、彼の熊本の名物男として雷名を馳せ居る令兄市會議員古城卯三郎君と協力して山本運輸店の經營に當り、古城君の大和座經營と同時に獨立獨力にて大に店運の發展に銳意努力し常に時勢の進運に伴ふて改良を加へ、擴張を行ひ、今や上熊本驛を始め樞要地に數個所の支店出張所を設け、且つ日本運送、明治運送、明治運輸等の取引店として全國の海陸運送業者と聯絡を執り、其の理想的營業振りと相俟つて、社會的信望翕然として鐘り、名聲真に隆々噴々たるものがあり、業界羨望の的たる榮譽である。

隨而、其の名聲德望を以つてすれば、幾多の名譽職の如き、實に易々是れを贏ち得らるゝのであるが、業務に熱誠忠實なる君は、運送業に専念終始する外又他を顧みず、去る市議職、商議選舉の如き、衆望先づ君に集り、其の出馬奮起を懇請囑望して止まなかつたのを、遂に固辭自重したのに徴しても、君の人物の凡ならざるを推すに足るべく、其の深謀遠慮の程も察せらるゝではないか

君の養父は、肥後藩士にして、彼の明治五年先帝御來臨の際、御便乗の榮を賜はりし肥後藩最初の汽船野茂丸の船長として有名なる楯岡一太郎氏で、君は實に此の光榮ある家門に養はれて成人したのである。



君作大口ノ井

- 鍋 釜 鑄 造 業
- 天下に名ある井口釜
- 春竹校基本財産委員
- 熊本市春竹町

君は、赤手空拳より身を起し、獨立力行、終始一日の如く奮闘努力して、遂に今日の成功を贏ち得た立志傳中の一人である。抑も一家を成すと云ふ事は、多年の困難を堪へ忍んで他に幾倍するの勞苦を経なければならぬ。況んや裸一貫にて活社會の戰闘に勝利を得、能く一方の旗頭たる地歩を築き上げる迄の苦心慘愴は、實に凡人の企及すべからざる所である。是れを井ノ口君の經歷に就いて見ても、能く其の間の消息と眞理を物語つて居る。君は、十三歳の幼少時代から、本庄の鑄物業に従事して修業する事、實に二十一年間に及び、あらゆる苦心困難と戦つて、晝夜勤勉努力し、能く幾多の艱難に打ち克つて、遂に優秀卓抜な技術を練達すると共に、業界に關する各方面の修得を積み、斯くて三十三才の時、始めて獨立開業するや、更に奮闘努力を重ね、研究に研究を加へ、業績年と共に進展を致して盛運隆々、以つて創業約十七年間に、今日の成功を遂げ得たので、今や個人經營の鑄造業としては、君の右に出づるものなき盛大無比である。

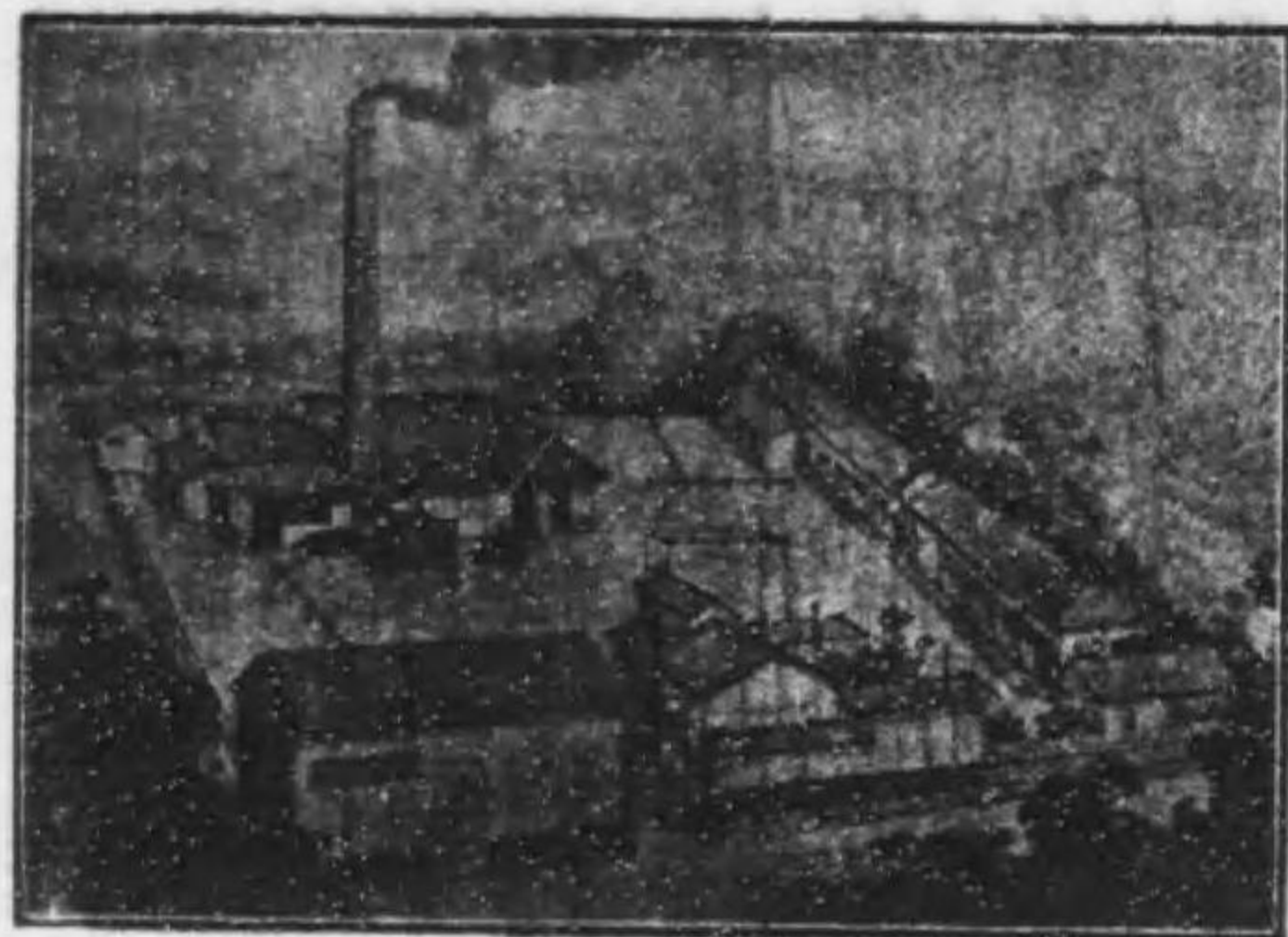
君の鑄造に係る「いげたの井」の商標は登録を受けた特許品で、彼の井ノ口釜の名は夙に天下に知られ居る。販路は九州一圓に及んで居るが特に縣下天草地方に牢乎たる得意を有し、縣外では宮崎大分等が主である。銃獵と乗馬は君の最も趣味とする所で掲ぐる寫真中の犬は、其の愛犬である。

君の前半生は、火の如き信念と、鐵よりも確い意志を以つて終始一貫した奮闘史である。所謂出る釘は打たれるの譬へに洩れず、君が靈俗兩面に顯脱しつゝある嶄然たる頭角に對し、世上兎角の評を聞かぬでもないが、何れにせよ、君の傑出非凡な點あるは、事實の證明する所で、是れを認めざるを得ぬのだ。
其の天質に然るべき優越を所有し居る事は勿論の筈であるが、君の性情を鐵火の如く強烈ならしめたのは、境遇の力に負ふ所が多い様である。特に慈母の感化は君の心身を靈覺悟徹せしむるものがあつた。即ち明治四年玉名郡木葉村に生れたが、幼少の時、極度に吃音りて殆んど發音するを得ず、其の爲め慈母は一入憐憫の愛情を披瀝し、身を犠牲にして其の不幸を救ふべく、神佛に祈願し、或は川に水垢る等、實に言語に絶する撫育救療の血涙を以つてしたのである。君又十才前後の頃、靈雨山に立て籠り、齋戒沐浴、斷食水垢りして吃音の平癒を祈願した結果、遂に神の御利益と精神の發育により茲に完全なる發音を得たので、君が信仰の動機は、實に是れに起因し、其の金鐵の如き意志も亦茲に發芽したのである。



黒髮一町夜塘宮地嶽
木村一君

唐白を杵き乍ら入り、精勵勤勉の結果、二ヶ年にして難なく神職試験に合格する俊秀の英才を發揮したのである。
二十七年前熊本市に來り、曾つて靈雨山で發祥した信仰を結實せしむべく、黒髮町一夜塘の一角に地を相し、淨域を開拓して、神靈あらたかな宮地嶽宮を建立創設し、其の一石一木は悉く君の信念と汗の結晶で出來て居る。斯くて今や信者三千人を越ゆる靈境となり、彼の日黨役の如き、當宮に祈願して掲げた出征軍人の肖像額で戰死したのは、僅かに一人たる靈顯であつたと傳へ聞いて居る。
尙ほ君は十七年間の久しき、禁酒、禁煙すると共に茶を絶ち、肉類一切を禁じ、更に一ヶ月中十一日間は斷食して來たのに徴しても、如何に君が不撓不屈の意志の人であり、且つ強い信念の持主たるかを推す事が出来るのである。



丸本染物工場

印入手拭 法布 風呂敷
各種引幕 印人暖簾

工場..... 本山白川端
本店..... 春日町本通

土地白川に臨む水利の場所、最も染物業に好適せる熊本市本山白川端に一大工場を有し、市内春日町停車場通に本店を構へ居る丸本染物店は、各種印入手拭、法布、風呂敷、劇場其の他の引幕、印入暖簾等、常に新意匠を施して、時期とりの活動をなし、奮闘努力の効果空しからず、今や、其製産額に於て實に九州一の成績を挙げ、其の品質の如き、彼の所謂上方品に優ることも決して劣らぬ進歩をなし、以つて同店多年の意氣込みであつた上方品の輸入防止に着々成功しつつあるは、獨り同業者の爲め万丈の氣を吐くのみならず又以つて本縣工業界に一新機軸を拓いた功勞者として多とせねばならぬのである。
吾人は、同店の營業方針に就いて三大特色を發見する事が出来る。即ち其の一は前述の如く、其の製造額と品質の向上進歩に依つて上方品の輸入防止を期する點で、其の二は、期日の嚴守である。是れは理論上當然の様だが、世人の所謂、「紺屋のあさつて言葉」が今以つて公然通用し、注文客も別に怪しまねば、染物屋さんも平氣で居ると云ふ傳統的陋習がある。染物店、商取引の刷新改善は、先づ此の貴重な時間觀念を無視した嘘付き弊風を打破するにあるとなし、同店では必ず期日を確守し、未だ曾つて「明後日言葉」を使はぬ紺屋のレコードを造り、時代の要求と顧客の大満足を贏ち得て居る。其の三は即ち工場所在地の善化である。
同店は明治廿年、嚴父總次郎氏の創業に係り、當主與吉君と其の舍弟惣太郎及惣七の三人兄弟が一つになつて何れ劣らぬ縦横の敏腕を振つて居る。其前途の大發展期して待つ可しだ

□建築ペンキ塗請負業
□熊本市鹽屋町



廣島秀四郎君

■何れの方面でも、群を抜いて頭角を現はすと云ふ事は決して容易でない。況んや競争激甚な事業界にあつて、一方の旗頭たるは、其の人物、手腕、識見の頗る傑出非凡な點がなければならぬのだ。
■茲に評傳する廣島秀四郎君は、明治廿三年生れといへば、今年卅三才の青年である。建築ペンキ塗請負師として、實に九州第一の名實を博して居る。是れ斯界の光彩であると共に我が熊本の有する誇りとすべき事業上の一新生面である。
■君は、斯界の大家故廣島善五郎氏の養嗣子で、創立茲

に三十年を経た家業の大成に銳意勵勵した結果、遂に、今日では斯界獨歩の境地を開拓し、年と共に多々益々進歩發展の氣運を促進しつゝある所、取つて以つて青年事業家の範とするに足る人物である。
■今や、各官廳、各學校、各會社銀行、商舖等、君でなければならぬ絶大な信用を得、得意年々擴張して九州一圓に及び、特に南九州の仕事は殆ど君の一手で取るといふ盛運を見て居る。又以つて君が隆々たる實勢力の程を推知するに足るではないか。
■君は居常、人格の修養に銳意實行し、其の天成の資性と相俟つて實に嘆稱に値する光を高く放つて居る。座右に掲げて日常服膺しつゝある自警十五ヶ條に就いて見れば、自ら其の人物性行の一端を窺ふ事が出来る。即ち、攝生、沈勇、決斷、規律、節儉、勤勉、正義、正直、中和、清潔、靜逸、節操、謙遜、忍耐、勢力の十五ヶ條が是れである。
■趣味として書畫を能くし、特に畫の方は好きでもあるが、豊富な天才を持つて居り、彩筆の技、時に専門家を驚嘆せしむる事があるに聞く。
■尚ほ三年前より町の組長に推され、或は鹽屋町青年會幹事として、社會公共の爲め大に盡瘁貢獻して居る點は町民の普く認めて多とする所である。
■子息は秀雄(十才)善一郎(七才)正夫(四才)廣(二才)の四男で、和氣常に満々たる家庭を築んで居る。



殿内利一君

□熊本指物界出色の人物として隆々の聲名を馳する、殿内利一君は、廣島縣の出生で、幼少夙に青雲の志を抱き十九歳の時より故山に別れて、各所を遍歴し、其の縦横の才氣と、錚々たる手腕を發揮して、隨時隨所に社會的飛躍を試み、幾多事業上の經驗を積んだ所謂甘いも酸いも嘗めて來た人物である。故に何處か垢抜けのした所があり、接する者をして、自ら其の洒脫圓轉たる風格に心たきなく交を結ばしめると云ふ得難い長所がある。
□大正二年來熊と共に現業を始め、其の製産、販賣兩方面に對する傑出非凡な技を振つて、忽ちに穎脱し、嶄然頭角を現はすと云ふ異常な發展振りは、同業者羨望の的となり、隨而商勢家運、鬱勃として旭日東天の隆昌を見るに至つたのである。是れ君が多年播いた種子の收穫期

□各種指物並ニ製材業
□簞笥、家具類一式
□熊本市新鍛冶屋町

に當面せる所以で、其の從來の奮闘史に顧み、更に現在に於ける努力活動の如何に他を凌駕するものあるかに想到すれば、今日の盛運は當然の結果であらねばならぬのだ。
□君は今年四十三才で、男の分別働き盛りだ。見るからに精力絶倫な力に富む心身の持主である。胸を叩けば業界刷新發展の卓見溢れ出づるものあるべく、一度腕を振れば優秀堅牢な家業の傑作製品が産れる所、又斯界の異彩と推稱して然るべしである。
□最近平和博覽會本市視察員となつて上京し、大に得る所のものを齎らして歸來したので必ずや市産業の爲め培養裨益する所多い事であらう。
□近く製材業を兼營すべく設備既に熟し居る由。

□鐵筋コンクリート業
□熊本市大江町九品寺



君一廣原梅

□熊本市大江町九品寺に盛大なる鐵筋コンクリート工場を有し、斯界に於ける日本の開祖として人も許し、自らも任ずる梅原廣一君は、石洲濱田の出身で幼少の折、醫業に志を起し、其の目的に向つて大に修學勉勵する所ありしが、中途にて籍を官界に置く事約七ヶ年、其の間精勤と敏腕を挺んで、上下内外の信望真に厚いものありしも、感ずる所あつて官界を退き遂に實業界の人となり、彼の日本鐵道の初期に係る東海鐵道開通の始め、即ち明治十一年より土木業に身を投じ、當時日本斯界の霸王と號はれて飛ぶ鳥も落す威勢のあつた高島嘉右衛門の組に入り大に業務を習得すると共に腕を磨き、後、愈々素志

を貫いて獨立營業し、盛に各方面の土木請負業に従事して今日に及んで居る。
□抑も君が鐵筋コンクリートに着眼した動機は、往年、山陰線に於て鐵道局が始めて鐵筋コンクリート工事を施した際、親しく其の堅牢にして經濟的な特色を目撃し、將來必ずコンクリート工事が土木建築界を支配するの時あるを確信した結果、銳意斯業の研究を積み、個人事業として是れを製造使用したるは當時の日本に於て、實に君が開祖をなして居る。
□其後九州に來り、其の特獨の技能を發揮して各地大小の工事、殆ど從事關係せざるなく、請負個所、仕事數等實に枚擧に遑ない程である。以つて君が斯界に於ける實勢力を推知するに足るのだ。
□就中、君が最も得意の技能を奮つて會心の工事を完成したのは、彼の九鐵宮地線であつた。即ち其の工事が縁となつて熊本に留まり、熊本縣を中心として南九州一帯にコンクリート工事の普及發達に銳意奮闘した結果、其の經濟的で耐久堅牢なる事が漸次斯界の注目焦點となり今日に見るが如きコンクリート萬能の需要を喚起したので、君に負ふ所、實に偉大なりと云はねばならぬ。
□故に現在縣下各方面の上下水道、溝渠、井戸側、酒造油醸造用のタンク等悉くコンクリートを用ふる事となり其の旺盛な需用は到底個人事業にて供給に應じ能はぬので近く組織を株式に更め、大活躍大發展を企圖すべしと

□富士菱印醬油醸造□



□代 先□

君郎太伊山片



□町寺行淨市本熊□

君吉健野城

□豊前屋醬油店□

熊本市醬油界一方の雄たる富士菱印醬油醸造元片山本店は先代伊太郎氏が、英邁なる才幹を振つて能く祖道を達成した隆々の遺業である。大正十年五月全市民痛惜哀悼の裡に五十四才の働き盛りを溘焉他界したのであるが、濟々學習中の當代伊太郎君(二十三才)を守り立て、家運の隆興を大成すべき、遺族店員の精勵奮闘息らぬものあり、特に愛婿藤原正夫君が、店の内外を切り廻して、更に鬱勃たる氣運を促進して居るのは何よりの心強さでなければならぬ。君は大阪高等工業學校内醸造學校を卒へた新知識であつて、其の醸造業に於ける造詣極めて深く、商客又群を抜く概がある。以つて同店の活躍發展の更に新且つ大なるものを期待して可なりである。
熊本市淨行寺町阿部醬油醸造部は、熊本現代の商星たる阿部彦三郎君が、其の聲望と敏腕を伸ばして明治四十四年創立兼營したのであるが、事業一切は城野健吉君の擔當に係り、醸造販賣兩方面に對する經營常に宜しきを得た爲め、頗る健實且つ異常な發展を遂げ、今や熊本醸造界の中堅として、隆々の威望を高く布いて居る。斯くて大正十年名儀を城野君に移し、茲に愈々名實共に全權を握る事となり、益々君獨特の快腕を振ひ、以つて業界の新鋭たる生彩を放つて居る。君は元、菊池郡隈府町の出姻縁を熊本豊前屋に結んで當阿部家に入り、彦三郎君の片腕となり知養となつて居る。年四十二才、居常、謠曲を唯一の趣味となす。



□君吉常井櫻□

□熊本製靴界の名實を完全に代表し居るものは櫻井常吉君である。君は鹿兒島出身にして、幼少の頃より志を製靴事業に立て、夙に、大阪、神戸、金澤、名古屋等の代表地に就いて斯業の研究に實地精勵する事多年に及び深く造詣する所を齎らして、明治三十二年熊本に來り、直に靴商を創業し、以て今日に及んで居る。斯くて特獨の才幹を振ひ、誠實勤勉に營業を終始せし結果、社會的信望自ら集り、爲めに店運年を逐ふて隆昌を加へ、嶄然、同業を凌駕して頭角を現はし、遂に盛運無比、斯界獨歩の榮譽を贏ち得るに至つたのである。

□君は又、家運を進むると共に社會公共の爲め銳意し、特に業界の向上發展に對しては、盡瘁貢獻怠らず、多年熊本製靴同業組合長に推されて、功勞極めて多く、斯界の推稱歸服後からざるものがある。先年、同業者一致の

- 製靴業
- 熊本製靴同業組合長
- 前商業會議所議員
- 鐵道省購買部指定商
- 熊本市通町

推薦と町内の熱烈なる懇請により商議戦に出馬し、悠々豫期の得票を得て當選したるが如きに徴するも、如何に社會的信望の大なるものあるかを窺ひ知る事が出来るのである。

□更に、其の功勞と實力は着々家業の上にも當然酬ひられ、鐵道省購買部指定商たる榮譽を得て居るが、是れ實に、同店の獨專の特典であるを聞く、以つて同店の業界に於ける卓拔優越せる地步を推すに足りるではないか。

□其の兄弟三人、悉く鐵中の錚々たる活躍發展振りで、櫻井のマークは、寔に是れ、業界の異彩にして、大なる誇りとすべき點である。

□嫡男嘉平君(二十六才)熊商出身の新進人物で、其の喚發する才氣を發揮して家業を精勵奮闘し、令名極めて高いものがある。

□熊本縣鏡町が往年のたる寒村よりして一躍九州屈指の大工業地と化し、更に洋々端腕を許さぬ將來の大氣運で活躍發展しつゝあるもの、素より、日本窒素肥料株式社の創設が直接間接の基因をなして居るのは争はれぬ事實である。が、同時に其の好運を能く捕へて氣運の乗すべきに駕御して、地方開發の共同目的に勇往邁進した土地の有志人物の功勞に負ふ所のもの又少く無いのである

會社の將來が漸次世界的に雄飛進展すべく運命付られ居るのに徴し、其の所在地たる鏡町一帯の大前途が如何に祝福すべきであるかを思ふと共に、其の運命を負荷する地方有志家の使命愈々益々重大を加へ來るものなげればならぬ筈だ。



□町鏡郡代八縣本熊

濱田茂三次君

業の内容を持ち、従つて會社の發展に伴隨する繁榮を招來すべきは當然の歸續である。して見ると君が洋々たる前途の大成功は、單に時の問題に過ぎぬのだ。

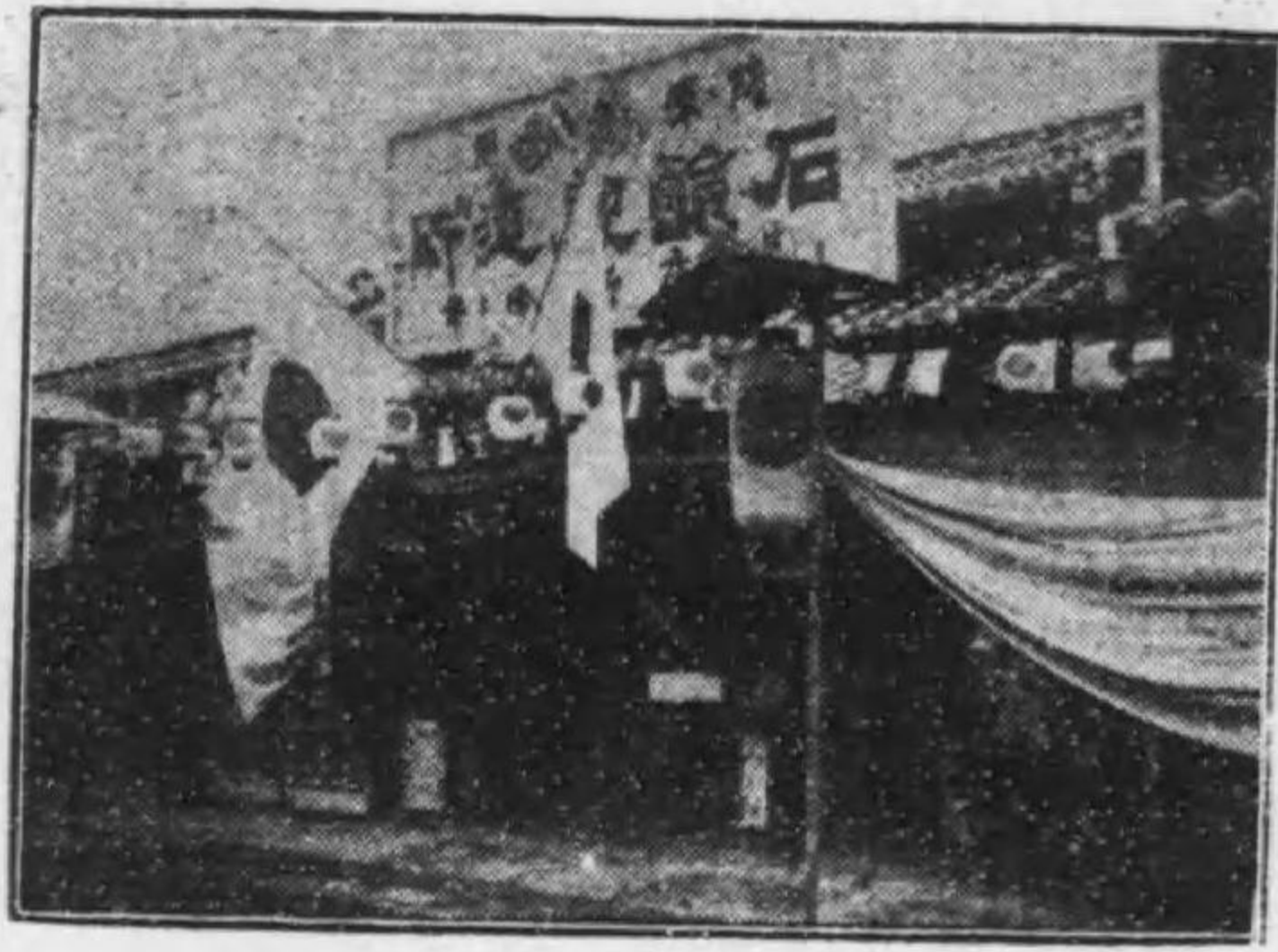
□木材業は既に二十年以上の經驗を有し、大正三年頃製材業を營んだ事もあり、彼の九州坑木商界一方の雄たる若松市の塩山茂君等を相結んで資本金五十萬圓の九一商會を同市に組織し其の重役となつて居る。

□濱田運送業を創開したのは大正五年であるが、其の社會的信望と資力と才幹を併せ發揮した爲め、忽ち先進同業を凌駕するの盛運を開き、大正六年創立株式會社有佐運送店の取締役を兼ね業界に覇を稱して居る。

□室素會社專屬の鏡軌道株式會社の社長に推され兼監査役と云ふ樞機を一手に握り、縦横の敏腕を振ひ、尙ほ近く熊本驛前に創立を見た東洋食糧品株式會社の重役たる等事業界の飛躍刮目すべきものがある。

□尙ほ、其の政治的立場も着々展開を見つゝあるに徴し近き將來に於て、必ず目醒しい活躍を演すべく、將に羽翼を擴げんする概である。齡四十二歳

□君の事業は、運輸、交通、材木等と廣汎に亘つて盛況を致して居るが、悉く是れ會社と直接間接交渉のある事



□熊本市練兵町
□店主野田常太郎君

□「マルチク」石鹼
□殺虫防臭劑

□野田石鹼製造所□

□熊本市練兵町野田石鹼製造所の「マルチク印」石鹼は其の品質の優良、価格の低廉な點に於て、遙かに他の製品を凌駕し、嶄然一頭地を抜く隆々の信望を以つて、飛ぶが如き賣行きを見、盛運無比、眞に業界美望の的たる觀を示して居る。

□店主野田常太郎君は、元福岡縣三潁郡大溝村の生れにして熊本近代の商星野田市兵衛氏に見込まれて其の養子となり、温厚の資性と精勵奮闘の努力を傾注して、能く、家運今日の盛況を博し得た事業界の一異才である特に研究心に富み、且つ周到なる用意を以つて事業に臨み、常に万善の策を講じて商略を謀らす、其の石鹼製造業を始むるに當つても、明治十一年より同廿二年迄の十ヶ年間を準備時代となし、研究に研究を積んで、製造販賣の兩方面に對する確信を得、明治廿五年一月始めて盛大なる石鹼製造業に着手したのであるが、是れ熊本に於ける斯業の嚆矢となつて居る。以つて君が人と爲りの程を窺知する事が出来る。

□爾來、益々研究を續けて業績の股脈を見ると共に、殺虫石鹼の發明に成功し、專賣特許を得たが、英國品の夫れと低觸した爲め、更に殺虫防臭劑の研究に苦心を拂ひ茲に、完全なる卓効品の發明を遂げ、大正八年三月七日、熊本縣より其の製造の免許を得て發賣し、現に、白熱的歡迎を得て居る。該品は植物性で人類に害なく害虫一切の撲殺に驚くべき卓効を奏して農家の福音となり、尙ほ、防臭劑として普く衛生的に歡迎を受けて居る。

□尙ほ君は、町總代八年間、衛生組長五年間を繼續精勵して今日に及び、令名噴々たるものがある。



□町會議員

中田初太郎君

□熊本縣八代郡宮原町にあつて、染色工場及び織物工場並に呉服商を併せ營み、八代町と天草郡登立に宏壯なる支店を設置し、何れも其の地方を代表する異常な活躍發展を遂げ、熊本以南に於ける實業界の雄として藉甚の名聲を馳する豪商は、實に田中初太郎君父子である。

□染色業は、創業既に五十年の經驗を有し、染料を本場産地の阿波より直接仕入れ其の専門と銘打つ糸紺屋としては、恐らく九州一の名實があり、縣下は勿論、遠く縣外各地の注文殺闘し至る盛況である鹿兒島地方其他各方面に出張して染色指導を試み、君特得の妙技造詣を傳授普及する等斯界啓發進展の爲め貢献大に努めて居る。

□染色工場 □綿織物工場 □呉服商
□本店：八代郡宮原町 □支店：八代町：天草郡登立



□熊本製綿株式會社長

中田盛喜君

□呉服商は、大正五年の開設であるが、日に月に盛運を加へ、昨年十月試みた開店五周年紀念祝賀披露大景品付大賣出しの如き、白熱的人氣を博し、恰も土地の宮祭りの様な人出を見て素晴らしく賑ふたのに徴しても、其の信望と人氣の一端を推知する事が出来るのである。

□令息盛喜君は、熊本製綿株式會社の社長に推されて好成績を上げつゝ、兎角非境に陥り勝ちな熊本人の手になる會社事業の爲め氣を吐いて居る。尙ほ君は染色科を専門的に研究して蘊蓄造詣深く、龜子夫人内助の淑徳と相俟つて其の洋々たる前途を矚目期待されて居る。



播磨英二郎君

□君は、熊本工業學校出身の英才にして、明治二十年生の新進人物である。卒業後、諸機械業の設計並に受負を試みて實地に幾多の経験を積み、益々卓抜なる才幹を發揮し、愈々確信を得た結果、大正五年米屋町に開店して今日に至つて居る。先づ最初、少規模のもとに經營を進め、漸次擴張發展を期圖すると云ふ健實周到な營業方針を立て、誠心誠意、日夜奮闘精勵怠らず、殆ど家業に拘する程の勤勉を終始した爲め、店連日を逐ふて隆昌を致し、業績年と共に異數な發展を遂げ、今や、斯界屈指の機械類商店として社會的信望を集め居る盛況である。勤勉汝を玉にすとの平凡な古語、眞に人を欺かぬものありと云ふ可しだ。

□而も君は、機を見るに頗る明敏で、才略縦横の資質を有し、能く業界の趨勢を遠觀洞察して謬たず、最も時代

- 汽機汽罐其他發動機類受負
- 瓦斯管及フラン管
- バルブ継手、バルブ類一切
- シャフト、皮革、メタル
- 精米、精穀、製材機
- 各種唧筒、据付
- 工事設計受負

□熊本市米屋町一丁目
播磨商店
機械部
(電話一三七二番)

に順應する新進な營業を展開すべく、其の取扱に係る、汽機汽罐並に發動機類、瓦斯管及フラン管、バルブ継手類、ベルト類一切、シャフト、皮革、メタル、精米、精穀、製材機、各種唧筒据附、工事設計受負の營業品目に關しては、常に研究の上にも研究を積み、精選に精選を加へ、且つ獨特の工夫研鑽を加味する等、到底、他の企及すべからざる境地を有する爲め、顧客の信用翕然として一身に集り、聲名遙かに衆を壓倒するの概を示して居る。又業界の異材なりと推稱すべし。

□其の研究心の旺盛熱烈なる事は、想像に餘りあるものがあつて、三度の飯よりも器械の研究が好きで、明けても器械、暮れても器具と云ふ趣味の中に没頭して、又餘念ない有様は、譬ひ職業とは謂へ、常人の追隨を許さぬ所、以つて其の天分と將來の大成を推す事が出来る。



三雲嘉代次君

□青雲の雄志を抱いて事業界に活躍するもの、悉く是れ成功の彼岸を期待措かず、烈々の希望に人事の限りを傾け盡すのであるが、多くは、事、志に副はず、失望落莫の境地に沈淪する外なきは、世上、時々刻々に目撃し居る通りである。故に、裸一貫の男の腕一本を資本となして、一角の功を奏するが如きは、確かに、其の人物の卓越優秀を物語る生きた證左であつて、推賞敬服せざるを得ぬ所以である。

□茲に、快男子、三雲嘉代次君の事業家的道程を聞くに君は、元、宮崎縣延岡の出身で、山産物商の豪家に生れ幼少の頃より其の專業に係る樽丸に關する各方面の實地に當り、即ち、親しく山地奥深く跋涉して、林相の研究立木の觀測等より、山林購入の實際を擔當見學し、所謂腹の底から山を知る教養を十二分に積んだものである。

樽丸專業

青年事業家の雄

熊本市米屋町

然るに、豪放不羈な君は、事情あつて生家を放れ、漂然熊本に來り、青春一介の身を資本となして、熊本の樽丸商界に飛躍を始め、出田家等と呼應提携を結んで、盛に縦横無盡の活動奮闘を續け、其の錚々たる手腕と、深い業界の造詣を提げて、忽ちに、一大勢力を築き上げ、今や、熊本斯界の新進事業家として押しも押されぬ地位を占めて居り、更に、多々益々大發展の氣運を捉へ、美望の的たる成功を博し得て居る。洋々の前途に、眞に窺知を許さぬ概である。

□君は、斯く、事業に成功する一方、又能く、社會公共の爲め餘力を割き、特に、社會の發展、國家の隆運、一に我等青壯年の雙肩にあるを確信自覺し發奮しつゝ、自ら大熊本青壯年會の中堅分子となり、或は、視察に加はり、又は各種の活動に貢献大に努めて居る。



□町門麗高市本熊□
君藏倉足帆

□君は、福岡縣黒田藩に仕へ碌三百石を食みし武家に生れ、随つて、自ら侵すべからざる凛然の風格を有す。明治三十五年熊本驛に勤め、更に熊本郵便局に轉じ、精勵黽勉の名高かりしも、不羈英邁なる君は、壯志鬱勃として押へ難く、即ち、其の後警官となりて大阪に上り、茲に出世成功の素地を見出すべく、奮闘努力の甲斐ありて模範巡查の令名噴々たるものありしが、到底、官界の空気に躡脚を許さぬ氣魄の持主である君は、斷然、官職を擲つて、明治四十年熊本に來り、商業に従事し、家號を『あけぼの』と命名して肉類販賣業の開始を見たのである。□君は慧眼早くも、熊本の所謂肉屋なるもの、弊風と横暴強慾を觀破する所あり、即ち、彼の青島肉をごまかし、内地肉の如く偽り賣るを見て痛憤措かず、大正十年十月より、肉軍總司令部を大熊本市新市街魚市場占領地

- 青島牛肉專門□
- 鶏肉商□曙屋□
- 肉軍總司令部新魚市場内□

に設け、其の軍律は、『正直にして叮嚀ならず、確實を以つて本分とす、是れ、本隊の軍律なり』とのモットウを掲げ、是れを信奉服膺して進軍又進行止まず最初、營業開始以來、私慾横暴を逞うする同業者の壓迫甚だしく、何かにつけ、苦心慘憺たるものありしが、突貫奮撃して是れを突破するを得、今や君の正義軍をして、想ふ存分の凱歌を奏せしめつゝあるは、眞に、快哉を叫ばざるを得ぬのである。斯くて、
□青島肉專門、鶏肉商として薄利多賣の商行為の本領を遵守し、終始一貫渝らざる爲め、『あけぼのや』の名實、隆々東天の威勢を示し、信用ある繁榮店の代表を以つて謳はれ、同業を遙かに凌駕するの盛運を招致して居る。是れ全く、君が正義の商士であると共に機略に長じ、精勵他の企及を許さぬ資質の結果である。

□電柱丹礬注入の九州開祖□
□熊本材木界の覇□



寺品九町江大市本熊

店木材藏清崎山

□大江工場面積千五百坪□
□町總代□青年會長□

□熊本材木界の霸王として、噴々の名實を馳する山崎清藏君は元、縣下、上益城郡福田村の出、明治二十一年を以つて生る。夙に、熊商を卒へ、熊本事業界新進人物の錚々たる人格と才幹を併せ有し、出藍の天質を發揮して、家運の大成を完ふすべく鋭意奮闘怠らず、經綸畫策、又、他を凌ぐものあり、斯くて、隆々無比の業績を築き上げ、眞に窺知を許さぬ勢力を伸ばして多々益々向上大發展を見つゝある。
□先代大藏氏時代の開業に係り、創業の商才に富みし氏の慧眼は、早くも、業界の處女地に向つて未發の開拓を試み、即ち、木山町を作業所として、門司市の電柱に丹礬注入を行ふた九州の開祖は、實に氏であつた。其の志業を承け繼ぎし清藏君は、是れ又、創業の才幹と守成の器局を併せ有する、傑出非凡の新人物にして其の大江町九品寺の大工場は、面積千五百坪の規模に、完備せる施設をなし、盛に各方面より注文し來る丹礬注入や、製材を作業して居る所、見るからに、熊本事業界の誇りとすべき偉觀である。
□君は、斯く、家業の成功を贏ち得つゝあると共に、又、能く社會公共の爲め、常に義心を披き、公德を布き、尚ほ且つ、町總代に推されて、至れり盡せりの世話を厭はず、更に、青年會長となりて町内青年の指導啓發に貢献する所多く、爲めに、社會的信望を自ら一身に鍾め、衆庶の歸服、眞に淺からざるものがある。□今や、大熊本の形體既に成り、向後其の内容充實に邁進奮闘すべき時に際し、君の如き、公私の模範的新人物を有するは、確かに、新熊本の時運の産める天職の高きに發奮する所を祈る



□洋家具製造販賣業□



□理髮器製作販賣商□

□桑原商會□

□熊本市新鍛冶屋町□



君市信原桑

□君は、佐賀縣の出、明治十二年を以つて生る。先代信右衛門氏時代より家具製造業を營む。明治卅三年理髮器製作を志し上海に渡りフレンチ會社にて洋家具を研究す。後、マニラ、桑港を経てオールサム會社に入社研鑽を積み、明治卅七年歸朝直に長崎に開業す。大正三年熊本に轉居開業今日に至る。目下理髮器製作工場を有するは全國に於て君の熊本工場と横濱、東京の三箇所あるのみ。販賣は、關西一圓並にハルビン、朝鮮、滿州、上海、布哇、臺灣、青島に及び、業績の前途益々好望洋々を加ふ。君の如き世界的商星を有するは、實に我が人物熊本の誇りとす所だ切に君の自重を祈る



君藏新崎井

□八代郡鏡町に於ける生氣潑瀾たる新進實業家の花形は先づ井崎新藏君であらう。同地には、勿論、濱田敬吾、佐藤立次郎、白石等の先輩諸君があつて各方面に重きをなし居る様であるが、嚮勃たる事業家の英才を抱いて、鏡地方當來の大氣運を駕御するに足る風雲兒の一人として最も囑望され、期待を繋ぎ居るものは君たるの概がある以つて其の洋々春の如き大前途を推すに難くないのだ□君は、大正元年日本窒素肥料株式會社創立の當初より會社の専屬用達を勤め、實直精勵、敏活懇切に是れを營んで終始一貫した結果、會社の信望最も厚く、随つて、業務益々般販を加へ、店運逐年發展して今日に見るが如き盛況を贏ち得て居るが、是れ全く、君の人格、才幹、奮闘の賜物であつて、自ら他を凌駕する優越卓拔な特色あるからである。

□業漕廻陸海□

鏡 日本窒素肥料株式會社專屬荷扱
豐 日本運送株式會社取引店
セ 國
メ 火災保險代理店
ト 特約店
ン 約店

鏡 用 達 組 主

本店 肥後國八代郡鏡町
支店 陸送部 九州線有佐驛前
電話 貳拾七番

□嚴父松太郎氏は、以前和船問屋を營み、地方に隆々の信望を布いた人物であつた。家嚴の濃厚な薫陶養育裡に成人した君は、長ずるに隨ひ出藍穎脫の天質を益々發揮して家運の隆興大成を遂ぐ可く銳意する所ある傍ら又能く、社會公共の爲めにも其の義心を披いて盡瘁貢獻怠らず、爲めに地方一帯、界限の評判極めて噴々たるものがある。其の社會的輿望を以つて、先年窒素會社に起つた彼の牡蠣問題紛糾の解決に異常の功勞を致し、會社より感謝狀を本年一月受領したのに徴するも、君の人と爲り一端を窺ふ事が出来る。□尙は君は窒素會社關係以外に、鏡軌道會社、鏡町活動寫眞館東洋館等に重役として令名がある。□子女は、長女あや子(十六才)、八代郡立女學校在學)長男信一(十四才)、次男義一(十一才)の二男一女也。



□君郎四口江□

□熊本の洋樂界は、其の殷賑な點に於て、進歩の度に於て、先づ九州に雄たるの概を示して居る。随つて、同好者の団体も尠くない様だが、研究会、同好會、若葉會は其の主なるものであらう。研究会は、第一師範の若狭万次郎君を取り圍む団体にして、第二師範の青木君に依つて創開された同好會は、現在同校越尾隆君が是れを繼承し、互に研究を競ふて居る。而して、此の兩團體の間に在つて、聊か趣きを異にし、普く洋樂趣味の普及と洋樂志望者の教養に盡瘁貢獻しつゝあるのが、即ち江口四郎君の組織して居る若葉音樂會である。

□若葉音樂會は會員約五十名を有し、久留米、博多、廣島、姫路、神戸、大阪、京都、東京等と互に聯絡があり、極めて、強固なる基礎のもとに斯道の啓蒙を致し、彼の樂壇の天才竹内照二君の如きも實に、同會より出した程

□名古屋グアイオリン
□鈴木 マンドリン
□新式 マンドリン
□船來 グアイオリン
□船來 ハーモニカ
□音樂隊用 樂器
□山葉ピアノオルガン
□大 正 琴 專
□音 樂 書 類
□其他 洋樂器一式

□若葉音樂會事務所
江口樂器本店
江口樂器分店

本店 熊本市鷹匠町電氣館東
長電話三五九番
分店 熊本市手取本町五五

で、年と共に益々盛運を招いて居る。

□江口君は、第四師團陸軍々樂隊に在つて令名を馳せ、日露役乃木軍に従ひ、戦地の士氣を鼓舞したる事あり、更に京都音樂學校に教鞭を執り、或は商船學校講師、兵庫鐵紡會社音樂教師等を勤務し、兵庫オリエンタルホテルに招聘されて數年間獨特の妙技を振つた經歷がある。

□大正三年熊本に歸り、洋樂器専門の江口樂器店を開業する傍ら前記若葉會を起し、尙ほ活動宮眞館其他の樂隊を指導啓蒙する等、熊本洋樂界に致した功勞擧げて數ふ可らざるものあり、最も、特筆多謝せねばならぬのは、オーグストラの開拓者たる貢獻である。其の絃樂と管樂との調和接續に對する神秘的音律に就いて君の有する天才的得意の奥技は、實に推稱嘆美に値するものがあり、當地専門家の教へを乞ふのが掛かないと仄聞す。



君治景野上

□君は、中學済々費を出で、熊本藥學校に入り、卒業後、熊本醫學校醫學教室に於て研究を積み造詣する所深く、後、熊本縣廳衛生課へ三年間奉職して格勤精勵の名を馳せ、大正二年八月藥種商、藥局を開き、以つて今日に至つて居る。常に、

□熊本藥劑師界の中堅となつて、獨特の敏腕を振ひ、其の稜々の氣骨と相俟つて、最も重きをなす一人者である現在、斯界一方の代表として、商業會議所議員に推され貢獻大に努めて居る。吾人の所見を以つてすれば、會議所の遺憾なき機能發揮は、各階級、各職業の衆知を集め是れが渾然融合した經濟的發動に依つて、使命を果すにあると信する。かるが故に熊本藥劑師界の新進有爲な方面を表し居る上野君の、會議所に於ける負託は、是れを單に、分化的に見ても、寔に、囑望期待の大なるものが

- 上野 同仁堂 藥局
- 熊本商業會議所議員
- 藥劑師 □ 藥種商
- 熊本市上通町五丁目

なければならぬ筈だ。同時に、君が、能く、其の任を完うすべく自重、更に、一段の活躍奮闘を庶幾せらるゝ所以である。若し夫れ、

□君が、商才と機略にかけては、蓋し、熊本藥種商中の白眉たる名實にして、即ち、上野同仁堂藥局の信譽發展は實に、儕輩を凌ぎ、斯界に異彩を放ち、多々益々、洋々の氣運を捕へて、端倪を許さぬ概がある。尙ほ、事業家としても、一角の天分を有し、既に多少の試練を経て居るが、未だ以つて君の眞骨頂發揮の幕をば見せて居らぬ様である。將來、其の専門的知識を披いて、必ず、熊本事業界の一面を開拓すべく、觀測されて居る。

□居常、銃獵を以つて唯一の趣味となし、現に、熊本獵友會副會長となり、盛に、天狗連の鼻筋を培つて居る。

明治十八年十二月十三日生。



熊本前驛日町
惣進旅館
濱崎親松君

熊本に於ける一代の成功家にして、立志傳中の劈頭に
數ふべき一人者は、即ち是れ、濱崎親松君である。熊本
驛前春日町の目貫に、盛大なる高等旅館を経営し、傍ら
倉庫業等に手を擴げて商略圖に當り、今や、名、既に成
り、功、茲に遂げ、囂々團樂の家庭に起臥して、孝心深
き子女に取捲かれ、悠々樂隱居の身世を送り居る人生の
幸福者であるが、其の今日あるを得たる道程には、實に
血の出る様な貧苦を嘗め、涙を絞る辛酸があり、顧みれ
ば確かに是れ、不撓不屈、獨立獨行の奮闘史にして、以
つて、儒夫を起たしめ、後進を警むる活教訓たるものが
ある。

一片の志を抱き、自ら、他に見る事の出来ぬ心意氣と頭
脱振りをして居た。斯くて、十五歳の時、先づ、大工
職として身を立つべく決心し其の翌年、富岡町在の叔父
角岡氏に師事して年期奉公の身となり、天質の恂發に精
勵奮闘の鞭を打つて、研鑽習得怠らず、忽ちに出色の腕
を研き得て、一人前以上の進境を開き、大に其の前途を
矚目期待され、随つて叔父の重用眷顧一方ならざるもの
ありしも、素より、僻在の小天地に踞踞たる人物にあら
ず、即ち、發奮興起して、出熊したのが二十二才の時であ
つた。然し、天は、其の人を大ならしむべく、試練の
鞭を加へて止まざるものあり、裸一貫で熊本に來りし君
の意氣と抱負の壯なるだけ、其の苦心も亦、到底、尋常
一様のものではなかつた。

最初、飽託郡高橋町に大工職を始め、些々たる収入よ
り毎月必ず何程かの蓄積を斷行し、是れにて、親の借財
を完済すると共に、家を興し、身を立つる資力を築き上
げた美德と心意氣は、寔に、他の追隨企及を許さぬ人物
の偉力であつて、君が、今日の成功も亦、自ら首肯せら
れ、如何に粒々辛苦の汗の結晶であるかを推すに難くな
いのだ。明治二十四年春日町に來り、先見の明を發揮し
て、居住を現在の個所に定め、茲に旅館業を創始したの
であるが、時に名狀すべからざる苦境に陥りしも、其の
都度、新銳の勇氣を振り起し、以つて無比の盛運を拓い
たのである。嘉永三年生、令息嫡男惣五郎君風に高工を
出で、官界を辞して、事業界に雄飛し、新進の令名高し



熊本市春日町
寺田權八君

熊本市に於ける土木建築請負界の人物中、最も實力
ある鮮やかな手腕を有し、且つ、社會的信望の隆々たる
持主は、寔に是れ、寺田權八君其人である。君は、飽
託郡沖新村の出身にして、夙に、志を土木建築請負界に
立て、機略縱横、業務精勵の名高く、着々、出色非凡の
才幹を振つて、盛運無比の發展を遂げ、今や熊本市界一
方の雄として、押しも押されぬ名實がある。即ち、
明治四十四年、鐵道工事指定請負人たるに徴しても其
の實力、信用の如何に大なるものあるかを窺ふに足るべ
く、又、細川家の耕地整理施工に成功して、嘆賞すべき
業績を挙げ、其の他、十數年に亘る幾多請負工事に就い
て是れを見ても、悉く、模範的工事を以つて推稱多謝さ
れ居る等、斯界に於ける君の信望と功業は、世、既に、
定評ありで、又、業界の異彩なりと稱すべしだ。

更に、熊本過去及び現在の斯界が、徒らに、群小相割
據して、蝸牛角上の小天地に鬩ぎ合ふ暗愚をば、痛嘆措
かず、即ち、慨然奮起して、同志同業の結束に依る會社
設立の必要を發起提唱した有力者は、實に、君であつた
斯くて、現在、其の専務取締役に推舉され、會社の運命
を脊負つて立ち、着々、豫期の好績を擧げて居る。

熊本市は、今や、久しい間の夢より醒めて、所謂大熊
本形体の建設となり、更に、其の内容を充實せしむべく
極めて多事多端な時である。特に、建築土木の事業は、
最も焦眉の急を要し、随つて、此の大任を負托するに足
る斯界の勢力者を渴望して止まぬものがある。茲に於て
か、吾人は、寺田君が會社の大勢力を擧げて、其の信用
と手腕を縱横に振ひ、以つて大熊本市運に副ふ一大飛躍
を嚮望期待措かぬ所以である。

- 土木建築請負業 □
- 熊本土木建築株式會社
- 社 專 務 取 締 役 □
- 鐵道工事指定請負人 □

- 正札附厘毛引なし
- 熊本市東唐人町
- 店主金澤伊八君



- 高等雜貨
- 歐米洋品一式

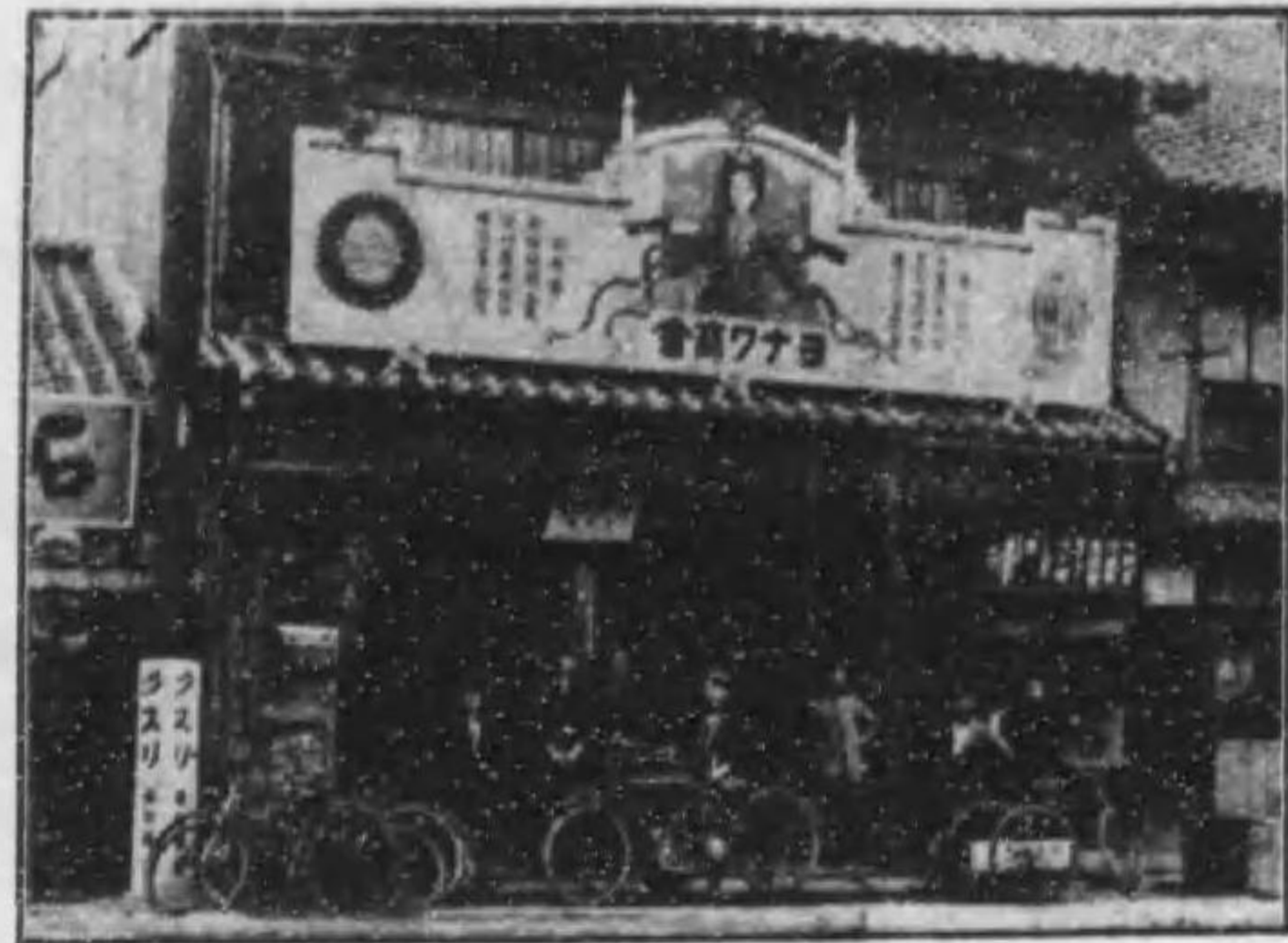
□ 店 分 澤 金 □

□熊本の雜貨卸商中、最も半手たる實勢力を有し、出色の商運を開き居る老舗は、金澤商店である。終始、新界一方の雄として縣内外に勳勳たる勢威を張り、獨特の地歩を築いて活躍發展止まず、同業者羨望の的たる概を示し居る所、又以つて誇りとするべき業界の色彩である。此の豪家に成人して、多年令兄當主金藏君と共に、同店内外一切の業務を脊負つて立ち、異数の商才を以つて推稱矚目された氣鋭の新人物が、即ち伊八君である。

□君は、本年の初頭、東唐人町の一角に、高等雜貨、歐米洋品一式の金澤分店を開き、最も嶄新な時代に魁する模範的經營法を敢行し背景に本店卸部の大を控へ、其の明敏な商略と縦横な才幹と、高邁な識見を併せ擁して試みた堂々たる旗揚げは、一舉、直に斯界の一敵國となつて、刮目すべき陣營を進めて居る。

□君が熊本の商風に懷焉たる一人者として、夙に、其の刷新を絶叫する所ありしは、吾人の常に共鳴敬服措く能はざる點なりしが、今や理想實現の陣頭に立ち、先づ身を以つて範を示す勇断に出で、居る。即ち、熊本の店舗で現在行はれ居る所謂正札の如き、稍々ともすれば、一種の時代相應を衒ふ表面の好策に過ぎずして、一度、其の裏面に立ち入れれば、蓋し思ひ半ばに過ぎぬものがある、爲めに健實なる現代的商風自ら翻廢する結果を見、玉石混淆し、欺惑と懸け引きに浮身を驚す事となり、結局時間の浪費と商勢の萎靡を招く外ないものあるを痛憤せる君は、正札の絶對的斷行をなすべく、随つて、其の價格を附するに當り誠實薄利を極度に發揮し、品質の精選と相俟つて、到底他店の追隨を許さぬ確信を以つて勇往邁進しつゝある事とて、白熱の人氣と信用自ら集中し來り、今や豊富に取揃へたる良品が低廉なる正札にて得らる、現代的模範店の名高し。

- 各種機械器具
- 明電モートル
- 製材機一式



- 熊本市春日町本通
- 店主與繩磯五郎君

□ 會 商 ワ ナ ヨ □

□熊本に於ける、機械器具商の中心勢力を有し居るヨナワ商會は、先代が、苦心經營の結果、贏ち得たる隆々の功業を、更に、當主磯五郎君の新進氣鋭な敏腕に依つて、着々、其の大成を遂げつゝある斯界の一異彩である。見渡せば、大熊本市に營業し居る、各種の機械器具店は、其の専門と銘打つ商舖だけでも、殆ど、十指に餘る盛況だが、多くは、資力足らず、才幹の推すべきもの寥寥たる群小脆弱を以つて目され、大熊本の大氣運に順應して、能く、負荷の使命を完うし得る底の實力者、果して幾何ぞの憾みがある。茲に於てか吾人は、斯界の大勢力たるヨナ商會に對し、囑望期待措かざると共に、其の自重活躍の更に大ならん事を祈るものである。

□試みに、其の取扱に係る各商品に就いて見るも、悉く是れ、全國第一流の信用ある會社商舖と特約を結び、常に有利な契約のもとに精選せる優良品を豊富に取り揃へ、以つて斯界に臨むのであるから到底、他の追隨を許さぬ商權を握り、爲めに江湖の信望、自ら集中し、無比の盛運を見るに至つたのである。特に、

□主人磯五郎君は、熊商出身の錚々新人物であつて、明敏果斷の資性を有し、霸氣に富み、商略に長じ、能く、守成の才幹と創業の手腕を併せ發揮して、業界を雄飛獨歩し居る所、又、偉なりと推稱せねばならぬものがある。尙ほ、

□君は、極めて洋々たる政治的將來を有する一人者で、現に、市議戰、商議員選舉の如き、衆望の德憑懇請、寔に、切なるものありしも、隱忍自重、起たず、滿を絞つて放たざる賢明振りであるが、何れの日には、必ず、市政界の中心圈内に擡頭活躍すべく推されて居る。憲政派の人だと聞くが、政黨に對しては、色彩頗る恬淡の様である。茲に花陵山上の別荘に養ふ君の銳氣の益々壯を祈る。



伊藤要吉君

□熊本市呉服町に、各種の洋傘、帽子、洋服製造並に和洋雜貨卸商として籍甚の信望を布き、商勢隆々、嶄然群を抜いて斯界に重きをなすものは、即ち是れ合名會社山本商店である。店主伊藤要吉君は、剛毅不撓の通有性を以つて鶴の長野縣出身にして、夙に、洋傘、帽子業研究の爲め上京し、斯界各方面に亘り造詣する所深く、年々逐ふて益々頭角を現はすに至り、其の胆識卓抜な商才を振ふ最好適地を熊本に選び、烟眼果斷、早くも明治二十三年を以つて、現在の個所に開業し、精勵奮闘、堅忍持久の大精神を發揮して、縦横の商路常に圖に當り、日に月に盛運を開いて今日に見る發展をなし居る所、又、業界の異彩なりと推獎せねばならぬ。

□大正三年八月、類焼の災厄に逢ひしも、更に勇奮百倍して、最大の努力を拂ひ、忽ち、以前に倍加するの擴張發展を遂げたるが如き、以つて其の傑出非凡な才幹の程

- 洋傘、帽子、洋服製造
- 和洋各種雜貨卸商
- 合名會社山本商店
- 熊本市呉服町一丁目

を推すに難くないのである。斯くて、業務の異常な發展と時運の趨勢に響み、大正四年組織を合名會社に變更して、更に新銳の陣營を敷き、充實せる内容を掲げて、多々益々活躍隆昌の大氣運を贏ち得て居る。今や同店の名實は、斯界一方の大立物たる雄を示し、前途の大成、定に窺知すべからざるものがある。其の製品の如き、各共進會、品評會、博覽會等に出品の都度、優賞を受領し居るに徴しても、如何に優良な精製品のみであるかを立證する事が出来るのである。

□君は、温厚健實な實性を有し、加ふるに天成の商才と社交に長じ、店內外の信望推服を一身に集め居る出色の人物である。子女二男二女あり、長男秀雄君(廿六才)熊本に學び、現に店務に従事して評判よく、次男正衛君(十九才)は大坂に新業の實地見習中にして、他は長女愛子(卅一才)、次女榮子(十七才)尙桐校在學中)である。



熊本市新町二丁目

炭谷與平次君

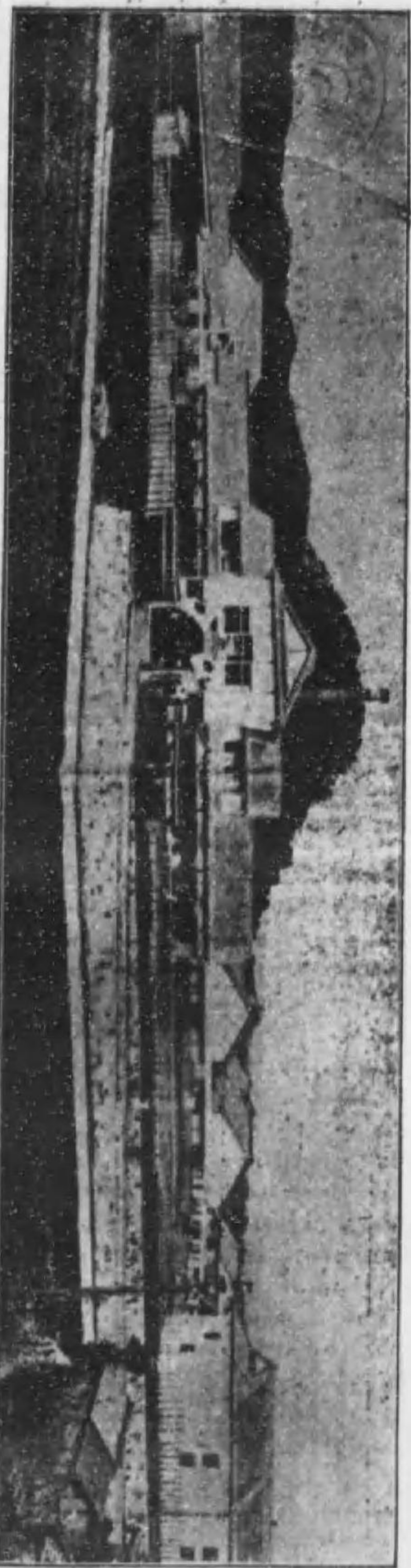
- 教育玩具
- 雜兜人形
- 室内外裝飾品
- 和洋樂器

卸問屋

□玩具小賣商店の如何は、其の町の進歩を推すバロメーターである。此の見地よりして、熊本の斯界を一瞥するに、未だ以つて幼稚貧窮の境域を脱せぬ憾みがあり、大に改良を加へ、發展を策せねばならぬ現況である。現に玩具専門の小賣店として見るに足る可きもの、殆ど無いと謂つても好い。多くは、顧客吸收策の一端にもなり且つ店舗裝飾の賑ひ位の程度にて、是れを取扱ひ、眞に玩具の社會的意義を徹底し、深甚な研究の裡に教育的經營を進めつゝあるのは、先づ、絶無であらうと目されて居る。素より文化の程度と玩具に對する理解の點に於て、一般社會の需要上、かゝる現狀は當分止むを得ぬかも知れぬが、一方、熊本市所在の玩具卸商の覺醒奮起を促さねばならぬものがある。茲に於てか、吾人は熊本の有する玩具卸商三軒中で、最も新進な見解と抱負を以つて着々、玩具界の改良進歩に鋭意しつゝある炭谷與平次君に

對し、衷心の敬意を表すると共に囑目期待措かぬ所以である。

□炭谷玩具店は、明治初年の創業に係り、新町二丁目角の目貫な場所に店舗を構へ、逐年、業務の進展を遂げて今日に至つて居る。店主三伍氏は、熊本に於ける斯界の開闢たる功勞と地歩を築き上げた人物で、現在店務の内外一切を切り廻し居る與平次君は、其の次男に當り、即ち玩具の中から生れた豊富な天分に加ふるに熊商出身の新知識たる商才にして、常に業界に於ける一隻眼を抱いて、現代的經營を發揮すべく勇往邁進して居る。令第三二郎君慶應理財科在學中であり、家に、二十年以來精勵勤續し居る同店の柱石とも推すべき木山初次君がある。居常、玩具に對する家業的研究を怠らぬ傍ら、寫真趣味を有し、素人放れのした妙技あり。ペン畫、油繪等も堂に入つて居る由。年三十二歳。



熊口知本縣下製絲城郡松橋町和知製絲株式會社

熊本縣の實業界は、今や榮耀、
 製絲兩方面に向つて顯著なる進歩
 發展を遂げつゝある。人知の向上
 と共に實業界の原料時代を風に推
 移して、是れに精製加工を施す所
 謂製絲事業が、縣民の手によつて
 所在に起り、其の業績年を遂よて
 良好を加へ彼の肥後製絲、長野製
 絲等の「ヤーク」が生絲品位の世界的
 支配權を握り居る程の誇りを有す
 る様になつて居る。この縣下に鬱
 物たる事業的氣運に乗じて、宇土
 益城の城南に於ける原料地帯を擁
 して、大正九年七月創立を見たの
 が、即ち不知火製絲株式會社であ
 る。社長は熊本縣會新進の花形に
 して半島の素封家松枝重君是に任
 じ、専務取締役に、敢て官界其他
 に於ける斯道造詣深き小崎君あ
 り、其他服部泰臣、中山君、大
 吉澤仁四郎、高濱省三、金田君八
 諸君を取締役に擧げ、山田徳十郎
 河野一馬、上村福太郎の諸君が監
 査役たる等、何れも地方一流の有
 志實業家を以つて重役となし、充
 實豊富な内容を提げて着々活躍
 發展の歩を進めて居る。特に注目
 すべきは、同社が肥後製絲株式會社
 と姉妹的關係を有し、將來必ず合併
 を見る筈で、現在の經營が其の適
 程に過ぎぬであらうと目され居る
 事である。何れにせよ、同社の前
 途は、寔に祝福に値す可き許々の
 社運を騰らしつゝあるのだ。

労働階級の接頭活躍は、現今全世界を通ずる新趨勢であつて、將來益々其の傾向の度を加ふべきは、世人の齊しく認めて豫斷する所、従つて、労働者階級に勢力を扶植し、信望を存負ふて立つ者の前途は、最も刮目すべき社會的實力にして、必ず、一方に雄たるの人物である。熊本市新町元一新校通りにて、貸人力車業を営む木村貞平君と云ふ青壯氣鋭な労働者がある。他託郡大友の出生でそれこそ、裸一貫、腕一本を以つて、世の荒波に飛び込み、満身を絞る汗の力にて、着々、事業の基礎を築き上げ、同時に労働者階級共存共榮の理想に向つて勇往邁進し、今や新界に鬱勃たる信



木村貞平君 貸人力車業 熊本市新町一前校

任聲望を一身に鐘め、虎視眈々、熊本の一角に陰然重きをなして居る。

往年、清正公三百年祭の當時、熊本の天地は、所謂御祭騒ぎの氣分も多少加つて、空前の賑合ひを呈し、滿街殆ど人を以つて鎮まり縣下は勿論、全國各地より潮の如く押し寄せて来た人出が形容の辭なき程であつた事實は

未だ、市民の記憶に新たなる所、其の時、其の人出と共に押し出して来た一人に木村貞平が居たのである。

爾來、君は、あらゆる事業に指を染め、晝夜、労働服を脱がずに善戰健闘を續け、其の間、時に血の涙を絞る様な苦惱を嘗め盡して而も不屈不撓、一難を経る毎に鋭氣を百倍も奮ひ起し、以つて、鐵石の如き腕を振り上げて自己運命の開拓に成功の鍵を握つた、眞の力の人である。

現在百餘輛の貸人力車を有し、傍ら金融部をも兼營して居るが、尙ほ且つ、労働に従事しつゝ、精勵力行の他に幾倍するものあるが如き、君の人物と抱負の、如何に卓拔優越せるかを推測するに足るのである。現に人力車同業組合事務所を自宅に宛て、其の監督指導に任じて數多い新界の人々の心を捉へつゝ、徐ろに勢力の培養を努め、乘すべき將來の風雲を睨んで居る。

人力車同業組合並に其の他の労働車階級に推されて、市政界に打つて出づべき一人者たる矚目期待は、近く、必ず、實現する筈である。即ち、君の政治的據頭は、時の問題に過ぎぬであらう。明治十七年生。



□町人職中市本熊□

君藏嘉田本

- 各種饅類一式 □
- 硝子製造業 □
- 中職人町青年會長 □
- 全衛生組長 □

□殆ど製菓事業を以つて満たされ居る職人町通りに、盛大なる硝子製造所を營み、嶄然として異彩を放つものは本田嘉藏君である。明治十九年、嚴父八平氏の創業に係り、元兩隣り向ふ三軒と同様菓子製造を家業とせしが當時の菓子屋は、何かにつけ面倒な事夥しく例へば一々姓名を控へて商賣せねばならぬと云ふ風な其の筋の峻厳に堪へ兼ね、氣骨と商略に富める八平氏は、即ち職業の轉換を留意し、慧眼早くも硝子製造業の時勢と共に有利多留なるを觀破する所あり、先づ最初製菓業の傍ら硝子業を兼營して、是れに乗り移る用意周到な準備時代を經過して來たのである。以つて其の遠謀深慮の程を推知する事が出来るではないか。

□當り嘉藏君は明治十七年生で、幼少の頃より硝子業に對する十二分の經驗を積み、而も穎悟俊敏の天性と相俟つて、家業の基礎、茲に愈々牢乎たる確立を見、其の大

成を遂ぐべき十全の資格を具備し居る故、今や硝子製造專業となり、販路は逐年擴張して九州一圓に及び、盛運隆々、寔に旭日昇天の勢威がある。各種饅類一式を製し多年研究精勵の結果、遙かに他を凌駕する優良品たる爲め、自ら註文殺到の繁榮である。尙ほ熊本に於ける硝子業は、實に同家が嚆矢をなし、九州でも恐らく開祖たるべく是れ寔に家門の榮譽たると共に熊本事業界の誇りとすべき功勞である。

□熊本市新町二丁目、以前より硝子湯と稱して名高い隨而浴客の多い湯屋がある。今では電氣湯の名實が廣く通つて界限の繁昌湯屋となつて居る、是れ即ち君の兼營である。

□是等事業の成功以外、社會公共的にも亦重きをなし、青年會長、衛生組長等に推され貢献多く、居常金春流の謠曲を趣味とし、令息は嘉一郎、美代子、登志男の三人也



君藏庄花立

□熊本に於て、逐年、商勢の沈滞を感ずる新町地方、特に段山方面の寂寥を破つて、獨り万丈の氣を吐く概あるものは、熊本履物卸商界の新鋭花形たる、立花兄弟である。就中、庄藏君の商勢最も盛況を開き、其の隆々たる發展は、寔に、業界羨望の的となつて居る。立花家は、元、山鹿町の出身にして、夙に熊本に出で、庄藏君は明治二十年嚴父米八氏の二男に生れ、幼少の時から履物に關する技術、營業兩方面の仕入みを受け、其の倒發明敏な才氣を煥發すると共に精勵力行の他を凌ぐものあり、即ち深く研究を積み、進境自ら卓越優秀を致し、大正元年、獨立開業するや、縦横の敏腕を振つて刻苦勉勵の結果、一躍、先進同業者を凌駕するの商運を贏ち得て、斯界異數の發展を遂げ、最も重きを業界になし居る。又、偉なりと推稱せねばならぬ。

□販路は、熊本縣下は勿論、隣縣鹿兒島、宮崎方面に平乎たる信望を博し、尙ほ多々益々擴張進展の氣運をはらみ製作工場並に商品納家の増新設を施して、製産能率の増加を計ると同時に、京阪其他産地の一流店と直接仕入を最初より敢行する着眼手腕の如何に出色せるかを推すに足り、又一方、履物卸商組合幹事として、銳意努力を拂ひ、盛に貢献を致して居る。

□尙ほ君は、政治的方面にも亦一方の潛勢力を握り、憲政會新町地方幹事に推され居るが、其の政見並に立脚地は寧ろ非政友派と見るを至當とすべきものがある。然し何れにせよ、新町地方に於ける政治的戰闘員の方ある一人たるを失はぬのである。

□子息は一男一女にして、長男欽一郎(大正三年生)次女綾子(大正八年生)の二人である。

◆萬履物問屋◆

- 本 店：熊本市段山町九八
- 商品納家：全 新魚屋町二三
- 製作工場：全 新魚屋町一七



□町日春市本熊□

君郎太已村崎

□家畜市場經營□米穀業□萬日郵便局長□熊本市米穀同業組合副會長□白坪、春日、二本木精米業組合長□白坪村消防組頭(二十五年間)□白坪村區長、村會議員各三期□武徳會常委員□明治二年一月生

□馬匹の改良、愛馬心の涵養は、是れを國家的見地からするも將又個人的趣味嗜好より云ふも、極めて緊要且つ推稱すべき事である。崎村己太郎君、十二才の幼少時代からして馬を好み、長するに従ひ益々是れを愛し、三度の飯よりも、先づ馬が好きなる程の愛馬家たる事は、夙に世人の周知する所、常に五六頭以上を飼養して、撫育至らざるなく、隨而、馬の鑑識眼頗る高く、熊本の伯樂を以つて自らも任じ他も亦許して居る。而も乗馬を能くし是れが訓練に長する等、其の馬に關する知識、技能、熱愛は、實に他の追隨企及を許さぬ境地で、見る者をして何れも舌を捲いて感嘆措く能はざらしめて居る。

□現在、家畜市場の經營をなし、着々成功しつつあるが是れ實に適材適所と推稱すべく、敢て會社組織時代に當り、何等經驗なき警察界の古手連が、經營の衝に就き、

君は僅かに監査役の閑職に空位を擁せしめた爲め、遂に失敗を招き、其の收拾挽回とあつて君を營業部長に起用せんと懇請切なるものありしが、是れを固辭した結果、解散の止むなきに立ち至つたのである。後、其の跡を引受けて個人事業として獨立經營し、以つて今日の成功を贏ち得て居り、更に有望なる前途を有し、事業の性質上將來、必ず市營たるべく期待されて居る。

□君の嚴父は白坪村舊役場に永年吏員として重望を布き且つ篤農家の令名高き人物であつた。君は此の徳望ある家門に成人し、馬を愛する傍ら又能く各種の公私事業に貢献成功して居る。即ち二十八年間、米穀業を營み、市の組合副會長に推され、或は多年細川家の小作人世話を務め村會議員、消防組頭、万日郵便局長等、別掲記載の如く幾多公職に盡瘁貢献して、名聲噴々たるものがある



□師 園 庭□

□町竹春市本熊□

君平増斐甲

たのである。抑も、眞の庭園師なるものは、元、茶道から發足せねばならぬのであつて、更に陰陽五行に則り、砂を並べて研究し、或は書籍に依つて學ぶと云ふ様な學理と實地の組織的修業を要するので、君は明治十九年熊本藩士菅野正房氏の高弟北岡庄八氏に就いて茶の法を學び、更に同二十二年直接正房氏より、茶道、庭園法、數寄屋建築法等を習得し、同三十四年修業したが、特に茶道に於て眞臺子、菊茶箱、卓點、小單符等、それから庭園法では砂臺、石組法並に數寄屋建築法、大書院、小書院の方法、内路地、外路地の區別等一切の極意相傳を受け、明治二十五年五月山崎溪雲に從ひ、猿中流花道を學び、同三十五年四月修業し、尙ほ吉良宇源太に就いて、あらゆる古實を習得する等、庭園師として間然するなき各方面の素養を積み、多年の刻苦精勵と天質の聰明穎脱と相俟つて、茲に十善の資格を築き上げ、以つて理想的庭園師の名實を博したのである。

□目下、庭園師なきと自稱する連中は、悉く是れ、庭木手傳人位の者にして、普通人より聊か器用な點があること云ふに過ぎぬ程度である。が、今日の熊本で、古實に則り、正式な庭園法を學んだのに、甲斐増平、長谷川、古田正夫の三人者がある。然し、長谷川、古田の両君は、單に方則を學んだだけで數多く實地に當つていないから眞の庭園師としては、先づ甲斐君一人と云つて好い。

□君は、熊本縣阿蘇郡野尻村に生れ、九歳の時郷里を出でて岡山藩に出仕し、十九歳にして東京に上り、後年、熊本に歸省したが、其の間、警察界に職を奉じ、恪勤精勵の名、高さものあり。越つて明治十六年、品川彌次郎氏來熊の初り、氏の言に、日本の國体に最も合致する茶道及び生花に對する痛切な獎勵があつたので偶々是れに共鳴感激したのが動機となり、遂に庭園師界の人となつ

□斯て各方面の切なる依頼に應じて獨特の靈腕を振ひ其妙技紳に入り、今や君の手が懸らぬと眞の庭園をなさぬとまで推稱嘆美されて居る。其築營に係る主なるものは、内藤正義氏庭園、八代郡植柳の米家の庭園、熊本武徳殿の庭園、椿豊人及椿陸奥雄氏庭園、藤村男爵邸の植込庭園(熊本)、熊本市迎町田村甚三郎氏の石山庭園、朝鮮仁川堀力太郎氏庭園及仁川旅館の石山庭園等は曾つて伊藤統監の激賞を受けたもの等である。



君郎次楠本松

口 藤談輪の高等改良馬車が出来初めたのは、明治四十五年頃であつた。其の以前は、假令大官高貴な方でも例の鐵輪の馬車で騒々しい音を立て乍ら揺られたものだ。而して此の車輛界の革新轉機が、熊本の一隅で發祥したと云ふ事は、特記すべき業界の誇として推揚多謝せねばならぬ。即ち熊本市水道町の松本製車場主松本楠次郎君が藤談輪改良高等馬車の發明開祖をなし、其の結果、東京を始め大阪、福岡、朝鮮等と日本全國の業者が競つて是れを真似、隨而、漸次、彼の改良藤談輪馬車なるもの一般的普及を見たのである。

口 君は高知縣吾川郡廣岡の土佐紙製紙家として名ある商家に生れたるも、志を車輛界に立て、十六才の頃より新道に從事研究し、廿一才の時熊本に來り、廿六才と云へば恰も日露役時代現在の個所に開業して鋭意研究努力の

- 高等乗合馬車
 - 新式人力車
 - 全自人力車
 - 商店用各種
 - 配達馬車
 - 荷積馬車
 - 各種タイヤ商
- 熊本市水道町
第一松本製車場
- 全市千反町
第二松本鐵工部

結果年と共に盛運を開き、以つて今日に至つて居る。口 常に發明研究に意を注ぎ、事業に對する進歩的新機軸を開かねば止まぬ性格なので、其の爲め多少經濟的犧牲あるも更に介意せず勇往邁進する有爲な快男子である。現在、二十七名の職人を使用して、東京、本州、九州一圓並に朝鮮に亘る牢平たる大販路を有し、殺到し來る注文に、絶えず追はれ居る盛況である。尙ほ、改良馬車のみならず、藤談輪の人力車、乳母車、籠車等の最新式車は、悉く君が嚆矢をなし、且つ常に考案研究を凝らして進歩せる發明製造をなすので、江湖の白熱的歡迎を一身に纏め、盛運無比、業界羨望の的となつて居る。大正九年不幸類火の災厄に逢ひしも、更に奮闘努力を致し以前に幾層倍するの繁榮を招き、社會的にも組長、青年會長同業組合副長等に推され、噴々の令名を馳せて居る。



君郎三善村西

口 西村式煉瓦製繭乾燥器は、新案特許第九一六六七號を得て居る理想的新考案の發明器にして、從來の金屬製乾燥器を、總ての點に於て凌駕する斯界の福音にして、盛に歡迎推稱されて居る。抑も製絲上、一番肝要なのは、繭の乾燥であつて、絲の性質の良否は、全く乾燥の如何に依るのであるが、從來使用の金屬製乾燥器は是れが爲めに巨額の經費を投せねばならず、且つ種々の改良を要すべき點あるを發見し、熊本市西村善三郎君が、數十年間、幾多の犠牲を拂ひ、苦心研究の結果、右述ふるが如き、完全無缺な優秀器を發明したのであるが、其の特長とする所は、他式に比し、總ての點に於て經濟的にして且つ實用的たる事である。即ち其の熱度優に二百五十度乃至三百度の上昇を得べく、繭乾燥に用ふる百八十度より二百度まで温度に要する石炭の經濟は、實に、驚く可く

- 新案特許第九一六六七號
- 西村式煉瓦製繭乾燥器
- 熊本市新鍛冶屋町三七〇

少量にて事足り、乾燥上、時間及び熱度を過しても絕對に差支へなく、鐵材を使用せず煉瓦のみの製造なる故、熱度の工合が一面に柔かに上昇し、尙ほ鐵製の乾燥器では、扇風を設置せねば、ムラが出来るも、西村式は煉瓦應用なる爲め、扇風器使用の必要絕對になく、自動的に空氣の更代を見、頗る安全であり、其の使用度數に於て他式のものは一晝夜三回の規定となつて居るが、四回以上使用し得べく、最初焚付けてから僅か三時間にして百七八十度騰り且つ保熱上の優越等實に絕對無比な理想的完全器である。最近、更に改良を加へ、彼の三光式、帶革式今村式等を遙かに凌駕する最新式を發明して居る。縣下小川町長谷川製絲、菊池製絲組合、玉名製絲、福岡縣朝倉郡林製絲、大分縣日田町林製絲支店、上益城郡六田製絲、鹿本郡八幡及大正社の各製絲、長崎縣小林並に野口の各製絲場等は其の製造に係る主なるものである。



立花大藏君

口履物卸商として、熊本の業界には、豪商多く、才物又少くない。就中、新銳の商勢を以つて、着々頭角を現しつゝ、あるものは立花君兄弟である。殿君米八氏は、明治十一年の頃から履物商を営み、熊本市に於ける新業の古參開拓者となつて居るが、今、尙ほ鏗鏘として壯者を凌ぐ勢力を發揮して、嫡男大藏君の名備で別に開店し、頗る賑つて居る。今日立花君兄弟が、新界に嶄然、雄飛しつゝあるのも亦、自ら殿父の遺跡を繼いで、是れを大成すべく勵致されて來た薫陶の結果だと見て然るべしである。

口大藏君は、明治十三年と云へば、本年四十三歳の男盛りだ。幼少の頃から鬱勃たる大志を抱き、明治三十六年、鷹翼を伸ばして渡米、彼の地にある事、實に十ヶ年、其の間精勵奮闘の行を積んで、能く異常な成功を成し得て

歸國するや、即ち、腕に覺わのある履物商を開始して今日に至つて居るが、其の外國文明に觸れて來た知見と誠實伶俐な資性と奮闘力行の活動が相俟つて、忽ちに拔群の業績を擧げ、特に其の取扱ひに係る桐材は、専門と銘打つ丈けの名實を具備し、到底、他の企及すべからざる優秀堅牢品と營業振りをなして居る。熊本縣下は勿論鹿兒島地方を主として宮崎縣より九州一圓並に遠く朝鮮方面に罕乎たる販路を有し盛に活躍發展して居る。

口君は、一面又能く、社會公共の爲め熱心を披き、陰徳を施す等、流石に廣く活社會の表裏を經驗して來た程あつて、自ら超越した風格がある。

口子女は長男壽一郎(四歳)、二男精一(二歳)、長女路子(六歳)の二男一女で、常に和氣藹々たる家庭の團樂を樂んで居る。

- 口履物卸問屋
- 口桐材専門
- 口熊本市木下町



鹿本郡山鹿町
今井彌三郎君

口山鹿町の中心勢力を支配する団体は、即ち明正會である。同會は世上周知の如く、最初、山鹿町に於ける時代に目醒めた新進氣鋭な青年の人々が、發奮興起して、先づ、團結のもとに人格の修養を積み、更に進んで、大山鹿町建設を使命として出現し、全然、合議制を執つて、會長を措かず、逐年、會員の増加を見、今や、山鹿町内の新人物を網羅してゐる。往年、所謂藥師堂問題で、侃々諤々の正論を立て、縦横無盡の活躍を敢行した壯烈な勢威に會の實力と面目を遺憾なく發揮して以來、歲月と共に益々新威力を加へ、近頃では、山鹿町に起る大小の諸問題が、多く、明正會を中心として展開し、解決するの概がある。それだけ、其の負荷の任、重且つ大なるものがなければならぬ筈だ。同時に、最も刮目すべきは同會の牛耳を握り、自然重きをなし居る今井彌三郎君を

の人である。

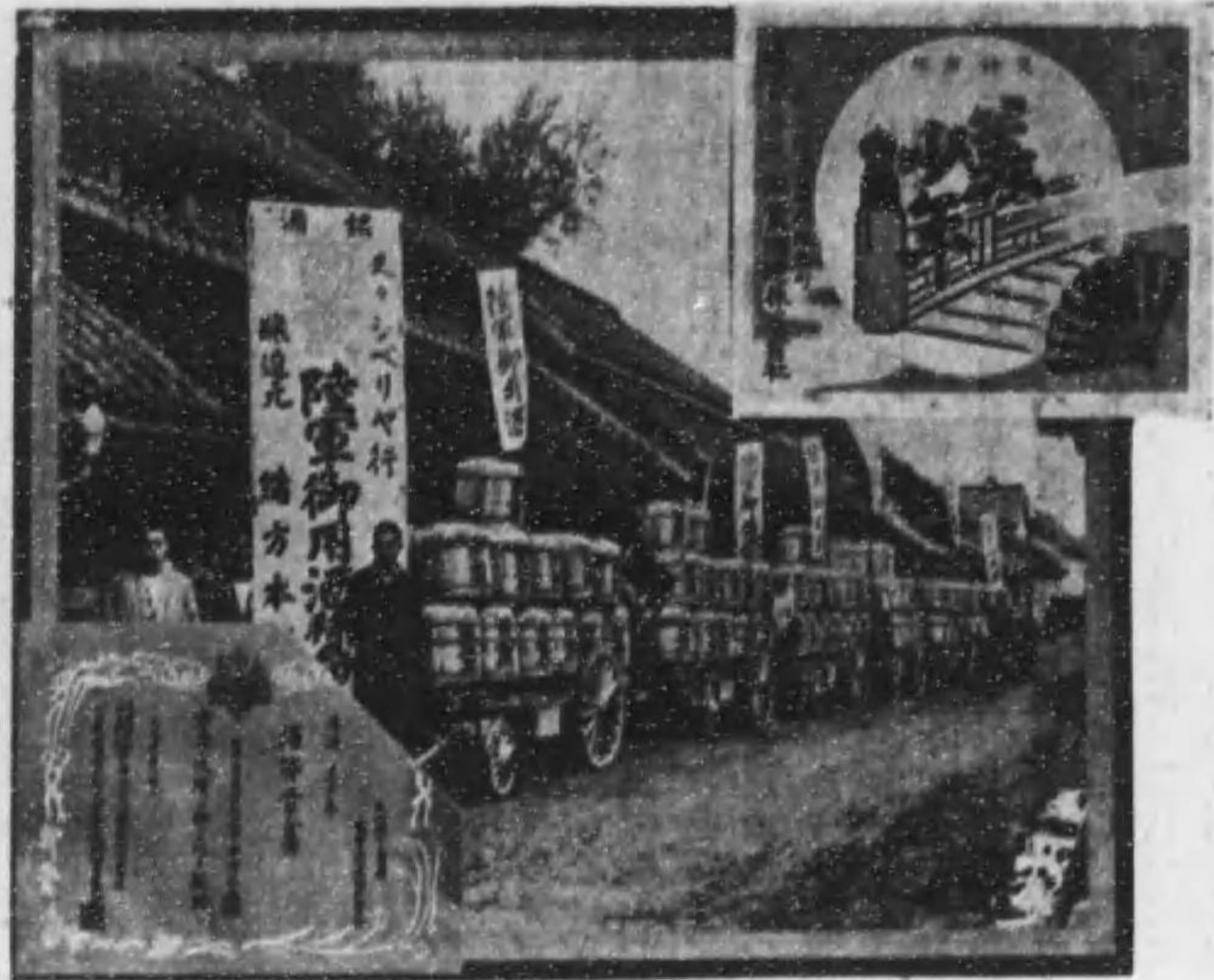
口君は、今、山鹿に於ける新人物の花形を以つて推され各種の問題に對し、殆ど交渉せざる事無く、常に、卓拔高邁な明智を放つて、町勢の振興に十二分の貢献を致して居る。特に政治家として豊富な天分を有し、且つ物々たる志望を抱き、現に町議團中の錚々たる等、近き將來に於て、必ず明正會の勢力を提げて山鹿町に號令すること共に、郡縣の政界に獅子吼すべく、大に囑目期待されて居る。試に君の日常を窺へば、訪客晝夜接衝し來り、或は自ら東奔西走席温らぬ活躍振りである。以つて其の社會的信望を推す事が出来る。

口彼の城北學館出身には、人材雲の如く、寔に是れ多士濟々である。君も亦、夙に、該館に學徳を積み、鉄中の錚々を以つて鳴り、俊敏頭腦の才氣を顯はれた事馨兒であつた。果然、長ずるに及び、多々益々、人物の優越を發揮し、今や、嶄然一頭地を抜いて政界に、實業界に活躍發展して居る。又、偉なりと推稱すべし。

口居常、武藝を以て唯一の趣味となし、特に居合術に就いては、將に達人の境に入り、他の各武藝も一通り以上に味解して居る。是れ全く、君が性格の反映であつて、其の膽力の自ら他を凌駕するものもあるも亦、實に、武藝による心身の鍛練、預つて力ありと云はねばならぬ。

口家庭に、子女二男三女を擧げ、和氣藹々たる所、以つて常に英氣を養ふて居る。

銘酒界之潮南薰



清酒界の麒麟兒 美少年

熊本縣下益城郡隈庄町

南薰酒造株式會社

銘酒……美少年

五條が橋に笛を吹く、
花魁かき美少年、
やがて源氏の大將と、
名を海外に轟はる。

緒方家は、明治十一年、下田本家より分家して、其歴史ある祖業を引き継ぎ、明治十二年、所謂肥後の赤酒に満足せず進んで澄酒に現今の改良酒を研究醸造したのは、實に先代求太郎氏が嚆矢をなして居る。氏は即ち前貴族院議員下田幸三郎氏の令弟にして、本縣酒造組合長並に酒造研究所長を兼ね、縣下酒造界に偉大な功勞ある人、當代求太郎君、又能く、嚴父祖先の遺徳を繼いで、縣下屈指の酒造家を以つて賑はれ、店運の大成を遂げて居る。明治九年組織を株式に變更し、向黨の外美少年と命名する新進花形銘酒の吟醸に成功する所あり、造酒高年貳千五百石を越え、各品評會毎に優等賞を受け、東宮殿下の御臺覽、閑院宮殿下の御買上、陸軍御用酒等の榮譽を博し、業界の羨望の的たる盛運である。



熊本市上船場町
万尾卯一郎君

明治三十六年六月八日、金壹圓五十五錢を懐中して、熊本郵便局附近の一旅宿に投じた壯漢があつた。打ち見たる所、軀幹大ならずと雖も滿腹の霸氣と縦横の才氣は自ら異彩を放つものがあり、其の當時、最も珍奇であつた洋服類丸染を營むとの觸れ込みに、先づ世人を驚愕せしめたのは、誰あらう、即ち是れ、万尾卯一郎君其人である。

君は、最初熊本永住の爲め來たものではなかつたが、偶々、君の齎らした洋服丸染に就いて、當時の兩新聞は面白半分の挿絵記事を二段抜きで第三面に三日間も連載したものである。記事の内容は、丸染洋服を着用に及んだ某氏が途中雨に逢ひ、雨傘の持ち合はせなきま、ビシッ濡れに濡れ這々の体で歸宅した所、妻君始め家内申が上へ下への大騒ぎで悲鳴を擧げ先を争ふて逃げ廻つたのに

果然自失した主人公は、後になつて丸染洋服が雨の爲め剥け落ちて顔面手足一帯を眞黒けのけに染め居たので、雷公と取り違はれ大物笑ひになつた一場の喜劇を脚色せるものなりし故、其の評判がバツト縣下に擴がり、到る處の笑ひ草となつたものだ。利かぬ氣で、敗けし面魂の万尾君たるもの、素より其のまゝ引つ込む男でないのみならず、是れを目して高價な無料廣告だと見做し、熊本の雨は地より降り来る爲め丸染洋服の剥け半で顔面を黒く染めたのだと皮肉り乍ら逆用して、金拾參圓の資本で、先づ十二圓の看板を製造に及び、店舗を開いたのが上船場の現所の個所である。

斯くて、君は、其の喚發する才氣と、人一倍の奮闘努力に任せて、縦横に活躍したので、忽ちに白熱的人氣を博し、隆々の商運を捕へ、更に、慧眼早くも十年前頃より、不圖した動機から電話賣買商を營み、是れ又、圖に當り、以つて今日の家運を開拓したのである。

斯く家業の隆昌を招致する一方、又、能く、社會公共の爲め盡瘁貢獻怠らず、現に君の發起に係る上船場町青年會は、二十二名の鞏固なる結束會員で壹千圓以上の基本金を有し、會の事業として床屋を経営しつゝ、あるが多額の純益收入があり、旁々、同地方の發展振興策上、刮目すべき前途を有して居る。尙ほ、君が大和座演藝株式會社重役として、其の内容刷新を斷行した勇氣と硬骨は世人の齊しく驚嘆措かぬ所だ。明治九年生。伊豫の出。



川住佐平君

□大熊本市の一角に新進の履物商を営み、其の現代的經營振りに白熱的人氣を集め、斯界刮目の中心となり居るもの、即ち是れ、南新坪井町の川住佐平商店である。最新高等品専門の卸商にして、良品珍柄の薄利多賣を店是となし、それには、毎月一回以上仕入れの爲め上阪、親しく製造元に就いて商品の選擇を行ひ、最新流行の優良珍柄を手に入れ、かくて是れを販賣するに當つては、自ら店務の内外を切り廻し、極めて小人数に依り能率を高め、以つて出來得る限りの經費節約を斷行しつゝあるので、自然、廉價販賣の可能性があり、尙ほ且つ店則たる薄利を遵奉終始し居る故、到底、他の追隨を許さぬ經營を見るに至るのである。由來、商法の極致根本義は良貨廉賣にある。恰も水の低きに流るゝが如く人氣と繁榮は良貨廉賣の店に集るのだ。川住商店の盛運無比なる自

- 嶄新高等品専門履物卸商 □
- 函物珍柄花緒 □ 最新形表付 □
- ゴム裏草履 □ 變り形直履 □
- 錦紗爪掛 其他履物類一式 □
- 熊本市南新坪井町 □

ら然らざるを得ぬのである。
□店主佐平君は、熊本實業界の重鎮たる増田商事株式會社の大黒柱を以つて鳴る日隈九平君の令弟にして、十八才の時より令兄の名儀に依り履物商を營む事十一年間、更に増田商店の履物部に敏腕を振ひ熱誠を致す事七ヶ年に及び、其の修得体験せる才略と人格の豊富を齎らして大正十一年六月一日獨立開業するや、縣下一圓は素より隣縣宮崎、鹿兒島方面に亘る南九州一帯に半平たる販路を開き、函物珍柄花緒、最新形表付、ゴム裏草履、變り形直履、錦紗爪掛等の營業種目を提げて、薩々の商勢を招きつゝある所、又、業界の異彩なりと云ふべしだ。
□養父川住久次君は、先代より駄の製造販賣を家業とし、川住家の振興を招致すると共に、能く地方公共に盡瘁貢獻怠らず、現に多年町總代として令名噴々たり。



増永敏彦君

□九州運送界の一異彩たる君は、明治十四年、熊本縣御船町の雜穀屋に生れ、夙に、茨木縣立中學校を卒へ、約廿八年前來熊したのである。嚴父完平氏は明治十年の頃熊本市河原町にて酒造業を營んで居たが兵火に罹り、或は、御船町、川尻町等にて斯業に従事せしが、業績常に思はしからず轉々したのである。斯くて、君は歸熊後志を運送界に立て、明治三十四年松田運送店に入つたのが抑も業界活動の第一歩である。後、久留米の久運に格勳精勵し、更に久運直方に轉じて獨特の敏腕を振ひ、其の後、即ち明治四十三年熊本驛前久運陸送部主任に拔擢され、縦横の活躍を試みて居たが、勇氣満々、銳氣鬱勃たる君は、到底、一店員たるに甘んずべくもあらず、驟然奮起して明治四十年上熊本驛前に、増永運送店を開始し、以つて獨立自營の陣頭に立つたのである。

- 熊本 増永運輸本店 □
- 驛前 增永運輸本店 □
- 菊池運送株式會社取締役 □
- 菊池運輸株式會社取締役 □

□最初、本店を上熊本驛前に設置し、熊本驛前と御船町と隈府町に各支店を設けて居たが、時勢の要求に應ずべく地の利に鑑みる所ありて、慧眼早くも本店を熊本驛前に移し、更に、上熊本支店を菊池運送株式會社に、又、隈府支店並に立町出張所を菊池運輸各會社に各合併して各會社の重役となり、茲に堂々の陣營を整へて斯界に闊歩雄飛しつゝある所、又、業界の一大光彩たるを失はぬものである。
□資性淵達俊敏にして商略に富み常に機先を制して、能く、業界を縦横に飛躍する所、確かに我が熊本運送界の産んだ一人物と云はねばならぬ。斯くて
□君は、公認組合の評議員たる事四ヶ年、別に居所京町本丁の町總代に推され社會的信望獲からざるものあり。特に、業界多事多端の際、君が風雲的雄圖の幸を祈る。



熊本市下職人町 熊本 吉平 君

熊本市下職人町紙箱製造業神吉商店の祖神吉正は、細川侯入國の際、丹後丹邊沼より扈從し來り碌百石を食みたる家柄にして、其の十五代の孫の如き、樂善好施の名人を以つて赫々の聲名を轟かした程の大人物を傑出せしめた由縁ある歴史を有して居る。後、時勢の推移と共に實業界に入り以つて今日に及んでゐる。特に、當代の叔父に當る神吉久八君は、明治十年役前後に於て、熊本一の大材業を營み、板屋と號して盛況無比の商運を贏ち得たのである。而して、

□當代神吉喜平君は、其の士道の流れを拘む所謂士魂商才の家系に明治十四年を以つて生れ、幼少の頃より群童を抜く天質を發揮し、齊しく其の將來を矚目された俊物で、長ずるに及び、益々英才を伸ばし、夙に慧眼を開いて當來の時運を達觀すると共に、早くも、紙箱製造業が

前途洋々たる開拓の餘地あるを觀破したので、大正元年即ち更始一新の年紀に斷然是れを創業し、大正堂と號して、茲に神吉家万代の家業を建設したのである。斯くて君の資性と精勵と商才とは相俟つて家運日に進み月に榮え、今や、大熊本一の業績を擧げ、群小同業者を遙かに睨睨しつゝある所、又、業界の大異彩たるを失はぬ。試みに職人町なる君の工場に就いて其の工程の一斑を窺へば、整備せる器械力の施設を幾十人の男女職工が分業的に製作する様、實に目も醒むるばかりであり、尙ほ、店頭堆く積みある製品の優秀華麗なる、更に又、其の高き能率に依つて四時製造しつゝある幾多の製品が次から次へと羽を生やして飛ぶ賣行きは、流石に同店の信譽と繁昌の如何に偉大なるものあるかを推すに難くないのである。

□君は、斯く家業の成功を招きつゝ、尙ほ又能く、社會的貢獻の擧げからざるものがある。即ち、彼の新町に組織せられて、最も顯著なる効果を擧げ居る新町自強會の理事兼會計の樞機を握り、其中堅となつて活躍奮闘意らず隨つて、町内外の信用深く、牢乎たる社會的勢力を築き上げ或は又、

□熊本紙箱同業組合幹事兼會計に推され、斯界の爲め献身的功勞を致しつゝある等に徴するも君が人と爲りの一端を窺知し得らるゝのである。特に、かゝる公共的團體に在て會計たるの任は、實に其人物の健實重厚を要し最も難き所たるに係らず君は能く是等の難局に善處して居る



下田 幸一 君

熊本縣下益城郡隈庄町下田本家は、甲斐護正隈庄築館の時代、既に、附き副い來りし舊家にして、細川公熊本入國の際、お迎へ申したと云へば、實に寶歴年間の古き歴史を有する由緒の家柄である。明治維新以前より代々酒造業を營み、業祖初代理左衛門、二代幸二郎、三代幸三郎氏を経て當代幸一君に至つて居るが、維新以前の酒造家としては、我が肥後に當り下田家と甲佐町渡邊家の二軒のみであつて、勿論、最初は赤酒の醸造ばかりであつた。斯く歴史的誇りを有する酒造業の方は、現在、當主幸一君より下田家の分家たる緒方家に譲り、以つて祖業の達成を遂げて居る。

□當主幸一君は、嚴父幸三郎氏の遺徳を享け、能く、守成の才幹を發揮して、縣下屈指の素封家たる下田家の舊若の家運を益々加へて居る。抑も先代幸三郎氏は、稀に

見る英邁達識の人材であつて、家運の隆昌に成功すると共に、社會公共の爲め貢獻大に努め、公人の典型として衆望を博し、遂に多額納税議員に推され貴族院に列する榮譽を贏ち得たのである。斯く最高議政府に臨んで天下國家の大事を伸べつゝある間、具さに政界の情偽劇を嘗め、大に感ずる所あり、即ち國家的奉仕の道、必ずしも政界の人たるを要せぬ、彼の政黨の渦中に捲き込まれて財を失ひ、産を傾け、爲めに一家の生活を犠牲に供して顧みざる、滔々たる現代政治家の末路程、悲惨寂寥なものは無いのである。かゝるが故に、其の子孫を戒めて、「堅く政黨に關係せざる事、一切政治界に指を染めざる事」を以つて遺訓としたので、當代幸一君、確く之れを遵奉服膺して、又深く政界に立ち入らず、其の資望を以つてして、僅かに郡會副議長となり、町會議員、所得税調査員たる位に留まつて居る。至孝、敬すべしではないか。

□令息四男、令嬢二女を擧げ、長男幸資君(二十五才)東京農業大學を卒へ、次男保之君(十九才)中學卒業後東京にあり、三男利夫君(十七才)熊中四年、四男利三君(九才)にして、長女さみ子(二十三才)白旗村の横山長雄君に嫁し、次女さよ子(十三才)尚綱女學校在學中である。居常、喜多流の謠曲を樂しみ、骨董等の趣味を有し、自ら高風雅懷の程を偲ぶに足るものがある。

□明治七年生と云へば、本年四十九歳の男盛りである。切に其の健福を祈る。



肥後銀行支店長 北里泰一君

菊池郡隈府町は、往昔、菊池公勤王の血潮を披瀝した名に於て、歴史的薫りの極めて高い古蹟である事は、普く人口に膾炙され居る所だが、更に菊池郡が豊富な産業地として城北に雄たる概を示しつゝあるのも亦世上周知の事實である。即ち、全國に冠絶する肥後米の聲價は、實に菊池米を以つて代表となし、菊池の蠶業は、其の量と質に於て熊本縣下を風靡壓倒するの實勢力があり、其の他林産物等に至るまで、菊池郡の如く天恵寶庫に富む土地は、先づ他に無いと云つて好い程だ。斯くの如く豊富な産物の経済的鍵を握り居る所が、即ち其の主都たる隈府町であつて見れば、地方都邑としての同地が如何に経済的實力を有するかは、推察に難くないのだ。

斯く觀じ來つて、其地の産業經濟を培養啓發するに最も力ある金融事業に想到すれば、吾人は隈府町銀行界の

僅だしい盛衰興亡に對し、今更ら古昔の感なき能はざると共に、今日の夫れが、茲に始めて、時勢の進運に順應する健實有力な機能の發揮を見、以つて菊池財界の激瀾たる發展に資益し、貢獻の大に推稱すべきものあるを多とせねばならぬと思ふ。

目下、隈府町所在の銀行は、肥後銀行支店と隈府銀行の二行であつて、健全有爲なる發展を遂げつゝあるが、特に、肥後銀行支店は、其の偉大なる背景を擁して、最も那財界の爲め盡瘁の功勞顯著たる、世人の齊しく認め推稱措かざる所、是れ主として、支店長其の人を得たからである。

大正五年五月、菊池銀行の買收併合と共に、其の營業一切の基礎の上に立つて支店を創設し、例の健實を以つて鳴る安田式の肥後銀行が、石橋を叩いて始めたのだから素より大地を打つ槌の如く、計畫企圖の外れ様なく、特に支店長北里泰一君大正九年就任以來、益々業績を加へ地方の信望を集中して、菊池金融界の牛耳を握り、盛運無比の活躍發展を遂げつゝ、更に洋々たる前途の大氣運を促進して居る所、到底、常隣凡介の能くし得られる所でない。資性、温良謙讓にして社交に長じ、而も潑瀾たる才略と卓越せる議見を内在し隨時隨所是れを喚發して、縦横の敏腕を振ひ、鐵中の錚々たる英才である。

君は、肥後銀行に精勵する事、茲に二十三年に及び永年勤績功勞者の一人である。明治五年生。



熊本縣會議員 鹿本鐵道株式會社社長 村田辰彦君

鹿本郡山鹿町が、温泉場として名あるのみならず、最も豊富な經濟力を有する縣下屈指の都邑たる事は、茲に贅言を要せぬ所、郡一帯に亘る産業的進歩發展の他を凌ぐものあり、特に、其の養蠶業の如き、隣郡菊池と相並んで縣下を風靡壓倒する威勢がある。若し夫れ、熊久鐵道開通し、隈森宇鐵道實現の晩ともならば、山鹿町の地の利は、熊本切つての要位に占め、大牟田以南に於ける中心都市たる大前途を運命付けられて居る。が、然し、是等洋々祝福すべき山鹿町將來の展開に對し、能く、其の大氣運を捕へて、是れに善處するに就いては、土地有志家の異常な發奮興起を前提とすべきであつて、特に代表的中心人物に囑望せねばならぬものがある。

現に、其の天恵の最も大なるもので、且つ、山鹿町の生命を培養しつゝある温泉に就ても、万端の施設經營に

於て必ずしも大山鹿町の氣運に感應し居ると見做す事の出来ぬ現状ではあるまいか。鹿本鐵道問題の如き、寧ろ政争に累禍されて、山鹿町の進展を、時に支障するかの奇觀なきにしも非らずで、同地方の人士が、共同の大目的を達觀自覺して、既に得て居る地の利を啓き、將に來らんとする天の時を冒瀆せぬ人心の和ありやを想到せば前途甚だ、遠慮の嘆なきを得ぬのである。

斯く觀じ來つて、吾人は、同地方の權威者にして、社會的信望を一身に集注し、事業界と政界に兩翼を張り、今を時めく村田辰彦君が使命の重且つ大なるを痛感せざるを得ぬのである。熊本政友會鹿本郡支部長、縣會議員鹿本鐵道株式會社社長、中央製絲組合長等を、瞥した丈けでも、鹿本郡を代表する第一人者たる事を首肯される。

君は重厚温良の資性を有し、清濁併せ呑む抱容力に於て人に長たる器を示して居る。勿論、縣議壇上風雲を捲き起すの雄辯や、其の才幹を以つて一部を震撼せしむる辛辣味ありとは謂はぬが、鹿本郡政友會は君に依つて支持發展を庶幾すべく、鹿本郡の事業、又、君の德望に待たねばならぬので、今正に、山鹿乃至鹿本一半の運命を脊負ふて立つて居る。年四十九才、切に其の健福を祈る

家に四男一女あり、嫡男均君(二十六才)は長野縣絲專門學校に學び、次男西東君(二十三才)は東京外國語學校在學中、他は楓子、繪里、憲樹の諸君である、一家和氣常に鶯々、春風胎蕩の團樂を樂んで居る。



□村水泗郡池菊□

君八長藤齊

□菊池郡泗水村は、縣下一の殷賑な養蠶地として籍甚の名聲を馳せ、彼の泗水製絲場の如き、實に全國稀に見る模範的經營をなし、隨つて業績年々優良を加へ、何れの方面よりするも確かに斯界の龜璫とすべき權威である。此の蠶絲業王國の開拓達成者たる點に於て、齊藤長八君の功勞は、夙に世人の推稱多謝措かぬ所、先年、舉村民の熱烈な信望の象徴として頌德碑を建て、永遠に其功徳を敬仰讚美し居る、素より當然の報謝だと謂はねばならぬ。

□君は、所謂温厚篤實の長者で、累代泗水村の豪農として、縣下に名ある家門に生れ、常に社會公共の爲め赫々の徳望を布いて、郷黨の指導啓發に任じ、能く興業慈善に銳意貢獻する等、其の社會的善行篤志、實に、擧げて數ふ可らざる程である。就中、最も顯著なるものに就いて見れば、前記蠶絲業に對する貢獻にして、同時に菊池郡原野整理の任に功を奏し、或は河川の改良に盡瘁して授賞せられ、大日本赤十字社特別會員、泗水村長、泗水村外四ヶ村の組合議員、合志西部學務委員、泗水村學務委員、菊池郡會議員、熊本縣會議員等の公職に推されて、常に、十善の職責を完うして、赫灼たる偉功を奏し、爲めに社會的重望を一身に蒐め、更に泗水組合製絲の長となり、尙ほ菊池肥料會社長、菊池軌道會社重役、菊池西部米券倉庫長、泗水村農會長、縣農會議員等、實業的方面の貢獻、又、極めて大なるものあり、今や、郷土一帯に於ける衆望の權化たる概を示し、其の一舉手、一投足は、深く社會各方面に交渉深く、而も、着々歩一歩と、この重大使命を完うしつゝある所、寔に是れ凡介常麟の到底、追隨を許さぬ點で、又以つて、其の人物、才幹の如何に優越せるものあるかを窺知する事が出来る。

□君は又、菊池政友會の重鎮にして、多年、勳勳たる其の勢力で同派の黨勢を支持擴張し、敢て敵黨をして一指を染めしめず、舉村界限、殆ど君の一舉一笑を以つて政狀を支配する概があり、貧乏播きもせぬ政友會の金城鐵壁である。近來、時に、其の黨勢に波紋を起す觀なきにしもあらずだが、君の目の黒い間は、政友會たるもの、先づ、枕を高くして可ならんと目されて居る、何れにせよ偉大なる功勞と隨而、勢力の所有者たる點に於て、君程の人物も亦少いのである。



山鹿水力電気株式會社社長
高木三平君

□君は明治五年十一月一日鹿本郡嶺間村に生れ明治十九年より大江義塾、神水義塾、熊本英學校等に學び、夙に歐米文化の新知識を修得し、明治二十四年には、早くも雄心勃勃、鵬翼を擴げて米大陸に押し渡り、同地の高等中學に學徳を積み、後、大平洋鐵道會社に入つて勤続六ヶ年に及び、精勵取調の名をなし、明治四十三年錦衣歸郷するや、翌四十四年一月嶺間村長に推され、茲に郷黨啓發の第一歩に就き、其の多年造詣した該博な知見と卓抜な才幹を振つて、着々治績を擧げ全村民の信望を一身に集注し、大正九年十二月山鹿水力電気會社創立經營の爲め不得止辭任を見るに至つた、其間實に十ヶ年、主なる治績として特筆推稱せねばならぬのは、彼の就任當時直に村有林植栽に着手し、毎年三十町歩乃至四十町歩を植栽する一方、手入、下刈等の勵行に銳意し、尙ほ村民

各自に苗木を養成せしめ、植林思想の普及、林業の發達に致した功勞、實に大なるものがある。

□更に大正七年二月、村會の議決を経て、部落有財産を統一し、是れが整理に指を染め、村有林施行案を制定して知事の認可を受け、茲に村百年の長計大策を樹立したので村發展の基礎、自ら培養せられたのである、尙ほ明治四十五年以來、山林植栽と共に林業に最も關係深き道路の改修に意を注ぎ、嶽間往還、維持往還、麻生道路及茂田井林道の開鑿を行ひ、交通運搬の便を計り、更に大正八年の部落有財産統一紀念事業として村役場並に村立病院を建築し、或は山鹿町外十七ヶ町村學校土木組合會議員となり、矢谷道路の縣道編入其他學校道路の改善發達に貢献する等、公人としての功勞擧げて數ふ可からざる程である。

□斯くて大正九年七月資本金參拾萬圓の山鹿水力電気會社を興し、推されて社長となり、内田村矢谷に發電所を設け、内田、岳間、岩野、廣見、三岳、三五、六郷、玉名郡緑村の八ヶ村に電燈電力の供給を爲し着々業績を擧げて居る。

□君は、又、鹿本郡政友派の錚々にして、最も同志間に重きをなし、彼の熊久鐵道速成同盟會の中堅となつて目的達成の爲め銳意奮闘しつゝ、信望噴々たるものがある。其の、常に自己を空うして、至誠、公共の爲め盡瘁息らぬ功勞を多とせねばならぬ。



塚本喜太郎君

□北守南進の大熊本市運に乗じ、最も發奮覺醒を促すべき所は、即ち、春竹町方面である。兎角、何かにつけ後れ勝なる春竹町勢を脊負つて、是れが新運命の開拓に任せねばならぬ土地有志家の使命は、寔に、重且つ大なるものがある。今、春竹町の長老人物を大觀すれば、先づ塚本喜太郎君、松岡巳一郎君、楠本長兵衛君の三人者を以つて重きをなす概あり、彼れ松岡君は縣下に於ける大地主たる素封家にして、既に政友派市會議員の要路に座すと雖も、町勢の陣頭に立つて是れが積極的開發を庶幾し能ふ人物にあらず、又、楠本君は、一代の成功家ではあるが、現在に見るが如き中立市議員の旗幟不鮮明な公的態を除儀なくされ居る人物にして、到底、春竹の一半を統率して是れが指南東道に任すべき柄でないもの、如く、茲に唯だ一人の塚本君ありて、其の公明正大なる出

- 熊本自治會相談役□
- 佛 教 青 年 會 長□
- 町總代□前村會議員□
- 熊 本 市 春 竹 町□

處進退と自主獨立の大氣魄と半平たる潜勢力と翕然と鍾り居る信望とは、以つて、春竹町勢の陣頭に立たしめ、能く其の使命を完うせしむべく、第一人者だと推賞せねばならぬ。去る市議戦の際、偶々、病氣の爲め、出馬せず、楠本君に譲つたのであるが、憲政派たる君は、楠本君當選後の出處進退に慊らぬとも聞く。何れにせよ、春竹町の一角は君の一顰一笑に依つて動く勢力の持主であり、且つ、積極進取の長老たる點に於て、最も刮目すべき人物である。

□村會議員十九年間、其他區長、總代、佛教青年會長、國勢調査員委員等の公職に推され、盡瘁貢獻顯著なるものあり、絶えず、町内の覺醒進展を銳意努力し、徳昭其に舉町を化育する概あり、居常、書畫、盆鼓、和歌、俳句等を趣味とし、特に菊栽培の名人たり、齡七十才。



宮本正太郎君

□家祖、宮本正兵衛氏は、藩主細川公の御用達を務めたる家柄である。君の祖父繁次郎氏呉服商を営んで居たが感ずる所ありて是れを舍弟儀平氏に譲り、明治八年、陸軍用達たる榮譽を得、彼の明治十年役に際し、糧食運搬係を命ぜられ、彈丸砲雨を冒して死生の境を潜り、龍城軍に是れを供給した功勞偉大なるものあり、爲めに後年熊本城史談話會より表彰されたのである。

□明治三十八年事志に副はず、用達に失敗した祖父の志業を再興すべく、君、夙に精勵奮闘怠らず、偶々日露戰役後捕虜收容所の建築物を取り除く際、其の處分工事を請負ひたのが動機となつて、茲に、材木商を始め、天威の権柄と勤勉と商才は、忽ちにして、頭角を斯界に顯はし、其の健實で懇切、機敏な商取引は、自ら白熱的信望を一身に鍾め、着々、盛運無比の家業を築き上げ、今や

- 材 木 商 □
- 熊本材木組合副組長 □
- 町總代 □産業調査員 □
- 熊本市花畑町 □

熊本の宮本材木店と謂へば、市内一流の信用繁昌店として、誰れ知らぬなき地歩を占め眞に、同業者羨望の的たる概がある。現に熊本材木組合副會長たる樞要に座し、斯界の爲め、寄與貢獻淺からざるものあり。

□更に、君は多年町總代に推されて、能く町内の世話を怠らず、随つて社會的聲望隆々たるものがあり、尙ほ、産業調査員に擧げられ、縣市の産業開發に顯著なる功績を致し居る等、其の公共的方面の盡瘁、又、到底他の追随を許さぬ境地を開きつゝある。明治十一年生

□居常、生花を趣味となし、繁劇なる業務の餘暇を削いで、高風雅懷を伸ばし居る所、以つて其の人物の奥床しさを窺ふに足りるではないか、家庭に一女四男を擧げ居れるが、愛護文字は目下奈良高等女子師範學校に在學中である。



□業 負 請 築 建□
□島 漆 町 莊 本 市 本 熊□
君 郎 次 乙 本 藤



□商 木 材□
□町 工 細 市 本 熊□
君 郎 次 久 原 福

□熊本材木界の長老を以つて推重され會つて鐘紡支店建築時代其の監督として名聲隆々たる福原久次郎君は、名既に成り、功茲に達して、今や磐石の家運を擁し悠々樂居の身分なるに係らず、饒饒壯者を凌ぐの元氣と知慮を提げ、活躍奮闘、老いを忘れて日も尙ほ足らざるの概がある。斯くて、商勢日に進み、家運月に榮む、牢乎たる社會的潛勢力を布き、熊本材木組合相談役に推され、新界の指導啓發に盡瘁する一方、又、能く、公共の爲め滿腹の奉仕を致し、即ち、創設以來の町總代として多年献身的努力を拂ひ、今日に見る町内の平和と向上發展の君に負ふ所尠からざるを多謝推賞されて居る。尙ほ、敬神の念厚く既に寺總代となつて居る。年六十五才。

□熊本建築請負界の中堅人物を以つて鳴る君は、二十才より、早くも、長崎、福岡、東京方面の鐵道工事に親しく従事し、十二分の手腕と蘊蓄を有する業界の異彩である。約十年前熊本に來り、熊本縣廳指定請負人に推舉され居るに徴しても、如何に其の人格と識見と才幹に於て他を凌駕するものあるかを窺知し得られるではないか。明治十二年生と云へば、本年四十五才の分別男盛りだ。其の隆々たる現在及び前途の大成、眞に刮目すべきものがある。

□斯く、家業の盛運を達成すると共に、又、能く、居町の發展に鋭意貢獻怠らず、現に、漆島町共勵會長並に組長に推されて居る。居常書畫の趣味深く好尚高し。



君松末田本

□熊本市在住の請負師は、多く、所謂塲所を踏んで居らず、且つ、教養の浅い人物で、一見、團栗の脊較べたる觀がある。爲めに、土地の大工事にして、外來の同業に拉し去られるもの擧がらず、現に、市廳舎建築の如き不利と面目丸潰れを甘受せねばならぬ實狀である。而も、熊本縣市の現在及將來は、實に各種土木建築事業の多事多望な秋たる此際、斯界の人物に想到せば、轉た、寂寞憂慮に堪へせぬのであるが、唯だ茲に、本田末松君の如き豊富な經驗と深甚の教養ある氣鋭の人材を發見するに於て、始めて意を強うし、以つて鬱勃たる業界の時事を囑望期待し得らるゝのである。

□君は、長崎縣の出、明治十四年を以つて生る。夙に、長崎市役所港灣改良係を勤務し、精勵敏腕の名聲廣々たりし才物にして、早くも請負界の駿足を庶幾せられ、後

□土木建築請負業□

□熊本に於ける施工個所は□第五高等學校□二十三聯隊營舎□熊本驛、宮地驛の各ブラットホーム□其他□

□熊本市大江町□

大に感じ信する所ありて職を辭し、彼の本邦請負界で隆々の威勢を謳はれ居る松下組の切なる懇望招聘を容れて是れに入り、先づ、宮崎補充部建設主任の樞要に就き、縦横の奮闘施工を試み、更に、鹿兒島に轉じて、縣立病院、大林區署、農林學校等の工事を請負施工上、間然するなき竣成の美を濟し、爲めに推賞感謝を受け、隨つて信望を一身に鍾め大に面目を施したのである。

□斯くて其の後、獨立するや、鹿兒島病院一等病室の看護婦宿舎を始として大小幾多の工事を完成せしが慧眼早くも熊本に着目したので、大正二年來熊を見、第五高等學校、十三聯隊の大工事を施工し、尙ほ熊本驛並に宮地驛の各ブラットホーム及び上熊本乾藪所等の幾多工事を請負ひ、現に見るが如き優秀の建築である。居常生花、書畫を趣味となし、風格雅懷を養つて居る。



抄紙機械六台
職工一千二百名
職員五十名

製産額月三百万ポンド
社長 大川平三郎君
熊本縣八代郡上松求麻村

九州製紙株式會社

熊本縣所在の工場にして、日本の誇りを有する事業は、彼の九州製紙株式會社と日本窒素肥料株式會社の夫れである。九州製紙は、明治二十九年の創立に係る、彼の東肥製紙が祝融の災厄に罹つた後を引き繼いで、明治三十六年八月改稱し、本邦製紙界のオーソリチーとして聲名高き大川平三郎君社長となり常務に長谷川太郎吉君を挙げ、其他、一流の實業家重役に任じ、斯界練達の英才を物色し來つて理事となし、以つて實務を擔當せしめ、茲に新鋭且つ充實せる陣容を整へ、逐年活躍發展の大氣運を捉へて、遂に今日に見るが如き盛況を博し得たのである。

蓋し、九鐵坂本驛は、九州製紙の爲めに停車場を設けたる概であり、同驛より構内迄引込の輕便軌道に沿ふて行く事數丁、八代郡上松求麻村船返り谷全部が工場となつて居る。抑も製紙營業に最も必要なる用水と運輸に就いて是れを見るに、其の工場所在地は、清淨にして、豊富なる水源を球磨川に求め、原動力に水利の便あり、總ての物資を鐵道及河川に依つて得らるゝ等、寔に間然する點なき模範的工場地である。

既に斯くの如き天恵の地の利と、經營者其の人を得て、天の時に乗じつゝ、社運の隆々たる展開を年と共に致す所、又、業界の一大壯觀なりと推稱せねばならぬ。現在、最新式抄紙器械六台を据へ付け、男女職工壹千二百人、職員五十名の大を擁して、一日の製産十萬ポンド、即ち月三百万ポンドに達し、新聞用紙が主で、其他、中等程度の各紙印刷用紙を盛に製出して居る。

現理事相良周吉君は、東京出身の新進事業家で、商略に長じ、趨勢達觀の識見に富み、其の冴えた敏腕を振つて、精勵奮闘怠らず、能く、同社の盛運を進めて居る業界稀に見る異彩である。



菊池郡限府町 今坂強哉君

菊池の山川、夙に、勤王の血に彩られ、巍然として高く、淡々として長し、山の偉、川の靈、即ち是れ國士俊傑の瑤籃でなくてはならぬ。果然、多士極めて濟々、才人亦雲の如く、古來、人物淵藪の地として菊池の名、江湖に高きものあり、菊池郡限府町今坂強哉君、又、この流芳餘韻の地に生れ、青年時代、早くも澁江翁並に豊前恒遠先生の塾に學び、頤才俊敏の名を誦はれ、當年の國士で近代の傑物たる佐々克堂、古莊嘉門氏等と共に策を負ふて東都に出で、互に相往來して、天下國家の大事を布き、日夜政治運動の爲め東奔西走したものである。彼の明治二十三年國會開設當時、國民自由黨等を組織し、自ら首領となつて牛耳を握り、八百八街の帝都を獅子吼した壯烈な雄姿を偲んで、吾人は今更ら、君と共に回顧の念、轉た切なるものがある。流石に菊池の流れを掬む

風骨の、自ら高く鳴つて止まぬ概あるを思はしめるではないか。

君は政治的活躍を試みて、嘖々の名を布く一方、事業界にも指を染めて雄飛したのである。即ち、熊本近代の文學者たりし津田精一氏等と共同にて朝鮮に海運業を興し、盛に快腕を振ひ、縱横の機略に滿韓對支の事業的風雲を捲き起さんとする勢威の展開を見つゝ、あつたが、兎角、志、徒らに高うして、事、是れに副はず、爲めに捲土重來の後圖を策して、手を退く事となり、爾來、専ら郷黨の開發誘掖に銳意し、郡參事會員等に推されて、貢獻大に努め、衆望を存負ふて、其の高邁卓越な經綸を布き、以つて今日に至つて居る。同時に、限府銀行の重役となり、豊富な實力を擁して、菊池經濟界に陰然重きをなし盡瘁の功勞、多とすべきものがある。

君は、本年五十六歳、文學詩作に長じ、且つ武術に秀で、居常、新曲等を樂しむ、悠々自適の境に遊び、特に詩作は最も好める所、左に其秀逸を紹介して高風雅懷と老來益々英氣激洩たる一端を偲ぶ事とする。

清賀徹骨送年華、素志未灰氣益加、
誰是可爲真知己、窓前只有存古窓、
一人の令息ありしも十八歳の時、不幸夭逝し、令嬢みまえ子に良縁の養子あり、帝大出身の工學士たる今坂隆志君で長崎三菱造船所に勤務、令名高し。



志垣大平君

□熊本名所は本妙寺と水前寺だと語られ、肥後名物は清正公煎餅と朝鮮船であると夙に、定評されて居る。其の清正公煎餅の開祖にして製造本舖たる志垣清正堂は、熊本市の大玄關春日町本通りにある。主人志垣大平君は、最初、志を官界に立て、鐵道機關庫に在勤する事、實に二十年間の久しきに及び、恪勤精勵の令名噴々たるものあり、上下の信望を一身に蒐め大に前途を矚目されて居たが、雄心勃勃たる君は、兎角、官界生活の空氣中に懨焉たる所から、徐ろに方途を轉換すべく、銳意考慮の結果、茲に肥後名産清正公煎餅の研究に指を染め、天性の惻愾に加ふるに刻苦研鑽の限りを盡す事二ヶ年間、遂に前人未發の製造方法と意匠の案出に成功する事が出来、茲に大なる確信を得て官界を辞し、製造賣出しに着手したのが大正三年であつた。斯く、周到な準備時代を経て

- 肥後名産 清正公煎餅 □
- 開祖、志垣清正堂 □
- 熊本市春日町 □

出来た、嶄新卓抜な熊本名物は、是れを外面から眺めても、自ら手の出る様な垢抜けのした意匠であり、更に中味の風趣に至つては、到底、普通煎餅の追隨を許さぬものがあつて、兎角、名物に甘いものなし等の下世話を戴き付けて居る。故に、其の賣行きは、所謂飛ぶが如しで十數名の職人を督勵して、自ら陣頭に、晝夜立ち働いて居るが、而も製品に逐はれて、白熱せる需要に應じ兼ねる盛況である。

□由来、其の土地の繁榮を齎らすに與つて力ある名物如何は、大に考究すべきものであつて、其の適否不良は纏て土地の發展に影響する事、寧ろ意表に出づる力をつけて居る。吾人は、此の點に於て志垣君の清正公煎餅に對し、衷心の敬意を表すると共に熊本發展に致しつゝある貢獻を多とするものである。明治六年生。



熊本市大江町九品寺
石谷永太郎君
愛馬 龍風號

□龍風號 □
□駿足、龍風號は、薩摩産、栗毛の五才馬にして、去る熊本招魂祭の時、甲種最優等賞を贏ち得たのみならず、斯界のレコードを作つた程の名馬である。

□快男子石谷永太郎君は、生粹の江戸ッ子で任侠勇み肌な男の骨の持主である。青年時代の頃から土木建築請負業に従事し、二十才前後、早くも獨立して各地の工事を盛に請負つた程の敏腕家だ。特に橋梁は、其の最も得意とする所、九州でも長崎地方其他で、君の施工に係る大小の橋梁が數多くある。若し夫れ、君が賣り出しチャキ／＼の頃、九州事業界の快傑梟雄たる鹿兒島市の都答院重義氏に拔擢愛撫されて、例の波佐美嶺山に立て籠り其の請負工事に縦横の快腕を振ひ、壯烈天を衝く様な意氣と、冴えた天晴れな腕ッ節を遺憾なく發揮して、流石の都答院氏も舌を捲いた程の切れ味を示した壯舉は、是れを思ひ起すだに、肉離り骨鳴るの概がある。

□大牟田の事業に天災の累禍を受けて、大正五年二月六日颯然熊本に來り、持参金貳圓七拾錢と四十三個の大打李で大江町九品寺の人となり、請負工事を營む傍ら、九品寺通りの埋立事業に成功し、同方面が、今日、新開地の如き股賑と繁榮を招来しつゝあるもの、是れ全く君に負ふ所でなければならぬ。町總代として令名あり。



□鶴印ラム子製造工場□

□熊本縣八代郡八代町□

□宮本虎次郎君□

□飲料水界一方の雄として、好評噴々たる鶴印ラムネは縣下八代郡八代町宮本虎次郎君の製造に係り、兎角、球磨川の水流よりも急激に襲ひ来る、幾多の競争品を、絶えず一蹴して常勝將軍の名實を誇り居る最高の優良品である。君は、以前盛大なる酒造業を営む屈指の豪家であつたが、飲料水界の前途、極めて多望なるを看破すると共に、古くより是れに指を染め、苦心研究の結果、他の企及を許さぬ獨特な技能を有するに至り、遂に、今日に見るが如き盛運を贏ち得たのである。

□資性温厚篤實にして、徳望高く、現に、熊本縣飲料組合會長に推され、且つ審査員たる重任を負ひ、常に飲料水が公衆衛生と忽にす可らざるを慮り、尙ほ單なる嗜好品の時代を超越して、既に必需品となり居る業界の現状に深甚の注意を拂ひ、縣衛生課其他に就いて意見の交換をなし、其の改良啓發の爲め盡瘁怠らざる功勞は、世人の齊しく認めて多とする所である。随つて、

□其の製造工場の様、最新式の精良な機械を据え付け噴水器、洗瓶器、其他一般の設備間然する所なく、寔に、理想的模範工場の名に背かぬ完全無缺な大工場である。故に其の製品たる鶴印ラムネ、シトロン、サイダー、王冠詰サイダーの各種共に白熱的人氣の焦點たる歡迎を受け爲めに業績年を逐ふて披群の進歩發展を遂げ、各品評會、博覽會等、常に最優等賞の月桂冠を得て居る。又、業界の異彩なりと謂ふ可し

□上掲せる寫真中白衣の工場服姿が、主人宮本君にして、從業員に伍し、密に監督作業し居る所である。



黒木武君

□君は、宮崎縣立農學校出身の新人物にして、本年三十才の活動盛りである。明治四十四年より大正二年迄、九州農事試験場に格勤精勵し、斯界の爲め赫灼の功勞ありしが、養父の志業を見學繼承すべく官途を退き、爾來養父を助けて、業務奮勵怠らず、爲めに家運の隆昌美望の的たる盛況を呈し、特に、砂利採集販賣高に至つては熊本一の名實を握り、各種の土木建築請負に於ても、他の追隨企及を許さぬ活躍發展の地歩を占めて居る。

□而も、餘力を割いて社會公共の爲め盡瘁貢獻からず現に熊本土木建築協會創立の第一人者にして、引續き万般の處理に任じ、以つて業界の刷新向上に献身的寄與を推賞されて居る。更に在郷軍人會副會長、大江青年會長大熊本青壯年聯合會理事、衛生組長等の公職を有し、其の痒い所に手の届く世話と、清廉高潔なる人格美の輝き

- 土木建築請負業□
- 大江在郷軍人分會副會長□
- 大江青年會長□
- 大熊本青壯年聯合會理事□
- 熊本建築協會幹部□

は、能く、町内界限を化育指導開發し、随つて社會的信望を一身に鍾めて居る所、又、大熊本建設の中心勢力をなす有力分子として推重敬意を表せねばならぬ新人物である。

□君の養父は、福岡縣築上郡の出身にして、元、大阪府土木課に勤務し、吏僚の俊秀に以つて誦はれた人物で、明治三十二年熊本縣廳に轉勤して、大に敏腕を揮ひ、聲名を馳せしが、明治三十五年、官界の空氣に懽焉たるものあり、即ち、去つて民間事業界に入り、土木建築請負業の獨立開業を營み、多年の深い造詣と知見を傾けて、斯界に臨むや、業務の發展、自ら日に月に加はり、今や、熊本請負界の長老たる名成り、功茲に遂げ、賢明出藍の養嗣子を得て、悠々、今や樂隱居の身世を楽しんで居る齡七十一才。

□熊本で靴と謂へば、先づ、指を櫻井のマークあるのに屈するのであるが、櫻井三兄弟中、最も油の乗れる商勢を築き、今、めき／＼大繁昌を招いて居るのは、即ち上通町九州日日新聞社前に店舗を構へ、業界の信望を一身に鍾め居るは櫻井留吉君である。

□君は、鹿兒島縣の出身にして、八人兄弟中の第七男で明治十一年を以つて生る。最初、郷里の鹿兒島市にて商賣せしも、天の時利あらず、事志に副はざりし爲、三十三歳の時、令兄常吉氏を便つて來熊し、月十五圓の薄給で、所謂注文取の外交に衝り、精勵勤勉怠らず、忽ちに他を凌駕するの才幹を發揮し、斯くて營々の一ヶ年貯蓄金二十一圓を以つて大正三年獨立開業するや、即ち、商賣優たる故にや、昔より兄弟の別れは他人との諺通り兄弟よりして、非常な壓迫を加へられたが、素より、か、



君吉留井櫻

る障害の爲め志を屈する驕行の人物でない君は、却つて益々倍奮の勇氣を振ひ起し、活躍奮闘一日の如く品質の優秀と價格の低廉を提げて邁進を續けた結果、社會的信望自ら集り、随つて、他に見る事の出來ぬ盛運を開き、今や八人の優良職人を督勵し、而も、常に製品が需要に追はる、無比の發展振りは、眞に、同業者羨望の的たる概がある。

□斯くて、屋敷の購入より家屋の建築に至る成功を博し多々益々隆々の商運を捕へつゝあるが如き、到底他の企及を許さぬ所である。更に、時勢を見るに明敏なる君は製靴業の傍に野球道具販賣を併せ營み、是れ又非常の繁榮を招いて居る。君が僅々十年以内の年月に所謂一貫より身を起して今日の成功を築き上げ居るは、實に立志傳中の新進人物と推賞せらるゝ所以である。

- 製靴販賣業□
- さくらい靴店□
- 野球道具販賣□
- 熊本市上通町□



□業負請築建木土□
□目丁二町新市本熊□

君次鶴浦西

□君は、熊本市京町宇土小路の出身にして、嚴父西浦源太氏の長男である。源太氏は、馬方となりて細川公に仕へ、祿百五十石を受けて居た家柄の人物であつた。君二十五歳より五十歳迄の二十五ヶ年間を、縣下の素封農夫たる彼の戸坂の水野家に獨特の敏腕を振ひ、同家の爲め大なる寄與貢獻を致す所あり、其の後、土木建築請負業を開始し、三井の指定請負人となり、明治三十一年より同三十三年に亘り、工費二十八萬圓の四山築港を請負ひ更に、福岡縣山門郡大和村の新地百町歩(森上卯平氏所有)並に徳光屋渡邊敬衛門氏の大牟田新地百町歩を施工竣成する等、以つて才幹の傑出を窺ふべし。居常茶の湯書畫、骨董、讀書を趣味として居る。



□業買賣物現式株□
□町屋米市本熊□

君郎三字田和

□熊本で腹のある株屋らしい株屋は唯だ和田宇三郎君あるのみだとは、夙に、世上の定評する所である。君は、熊本市紺屋町で麻苧、椎茸問屋並に第六鎮臺御用達商として雷名ありし和田宇平氏の三男に明治七年を以つて生る。最初、實地修養の爲め長崎の三井物産に入り、勤続六年後十九才の青春にて獨立商業を開始し、迎町扇屋酒店を繼承、激争する事三ヶ年に及びしも時利あらず失敗に終る。而も不屈不撓の志氣を振ひ田代屋用達部に入り日清役に戦地で活躍し、更に臺灣に轉じ、其の後、大阪某株式仲買人と縁戚を結び、茲に株界雄飛の動機を得、多年北濱市場の本舞臺で鍛へ上げ、大正二年米屋町に富屋株式店を獨立開業し、現に財界觀望雌伏中である。



□ 教 育 功 勞 著 □
□ 熊 本 市 楠 町 □

三浦彦君

□國士的人格者として、特に初等教育に赫灼の功勞ある君は、十八歳の時、官軍となり東北戦争に参加し、仙臺戦に軍功あり、後、明治七年熊本縣第一回の師範學校を卒へ、通町列、水道町列の小學校教師、中學巡回教師、千葉城中學校教師等を歴任し、聲名噴々たるものありしが、彼の明治十年役の際、熊本兵として日向地方まで轉戦し、大に偉功を輝かしたのである。斯くて戦後、再び教育界に入り、壺川校長、北辰高等小學校長、南部高等小學校長等に推舉され、常に、市初等實際教育の指導啓發に任じ、能く、使命を完うして、聲望高く、明治四十三年勇退後、市議員に推され、夙に文部省第一回教育功勞者の表彰を受く。嘉永三年生。



□ 素 麵 精 米 落 花 生 油 商 □
□ 熊 本 市 松 原 町 □

泉金次郎君

□熊本に於ける、素麵製造業の大立物として、將又、九州落花生王の名實を握れるは、即ち是れ、泉金次郎商店である。更に、盛大なる精米業を併せ營み、且つ明治三十九年名物高素麵の特製を始め、絶對に類似品を許さぬ特色と風味あり、製造能力、又、極めて豊富にして、盛運無比の大繁昌を招いて居る。斯くて其の營業に係る各製品の販路は、日本全國に普及擴張を見、尙ほ、大連、朝鮮、支那にも半平たる地歩を築き、眞に、熊本商工業の爲め萬丈の氣を吐く誇りとなつて居る所、嚴父光藏氏は、九州落花生王の家運を興した人物だ。君は、十四年間も筑後屋吳服店にあつて斯業に従事せしが轉業今日に至つて居る。明治十二年生。



□ 熊 本 市 内 坪 井 町 □

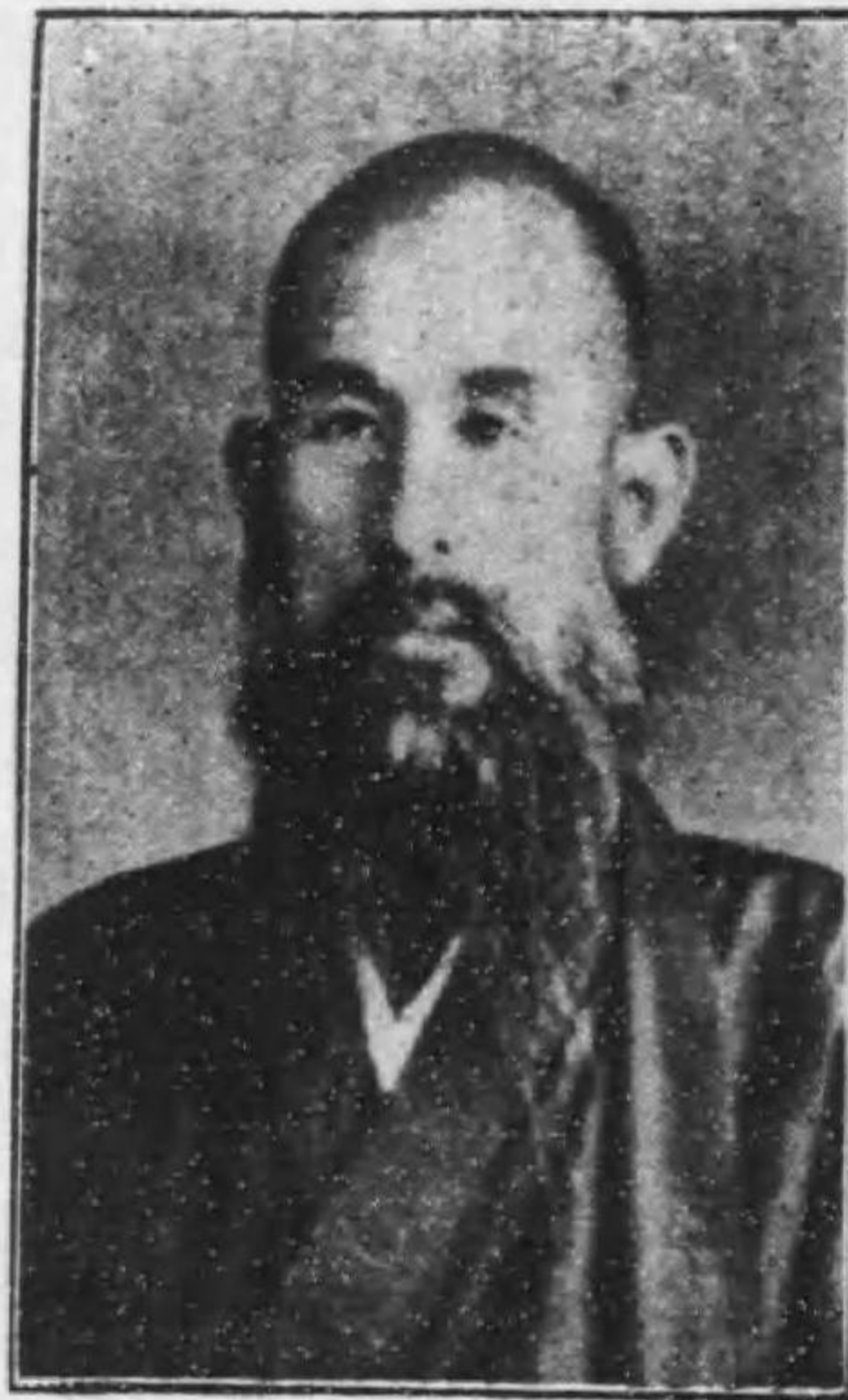
佐村直人君

- 肥後硝子工業株式會社專務取締役
- 株式會社靈泉商會取締役
- 前商業會議所議員 □ 町總代
- 慶應三年十一月生

□熊本に於ける社會的潛勢力の一人者にして、温厚の資篤實の性、謙讓の質を併せ有する人物は、即ち、佐村直人君である。君は、彼の名探偵として、其の雷名を全國に轟はれた、一代の才物佐村佐藏氏の養嗣子で、夙に、志を事業界に立て、創業の才幹と經營の手腕を具備し、盛に、活躍發展を見て居る。即ち、疾早く彼の阿蘇郡山西村なる搖が池の靈泉に着眼して、茲に、飲料水製造を計畫し、株式會社靈泉商會の組織となり、自ら、創業當時經營の難局に就き、能く、社運の隆昌を招致した大半の功勞者を以つて推重されて居る。所謂お池の水が原料であると云ふ靈妙な作用と、品質の他を凌いで冠絶せる爲め傍々白熱的需要の喚起を見、靈泉サイダーの名實聲價今や斯界に重きなし、兎角、激争の裡に終始優越して今日の盛運を開拓した基礎を築き上げたのは、君の努力

と才幹であるが目されて居る。更に
□肥後硝子工業株式會社を發起創立して、春竹驛近くの本莊町に工場を置き、重に各種の罐類を製造し、創業日向は捷きに拘らず、豫期以上の好成績を挙げ、漸次、營業の刷新改善を加へ、社長に新進事業家の雄たる瀬口二人君を推し、既に、試験時代を順潮に經過發展して、今や、着々有利な收穫期を實現しつつ、益々、隆々進展の氣運を捕へて居る。是れ全く、君に負ふ所である。
□君は、社會公共の爲め、貢獻大に努め、随つて社會的信望厚く、其の十數年間、町總代となつて、眞に、職責を完うし、更に、衆望を負ふて、商業會議所議員に推され、献策奮闘怠らず、能く、其の機能發揮に十二分の盡瘁を致したのである。特に、彼の大建築に伴ふ苦心努力は殊記して、多とせねばならぬものがある。

□君は、明治四年上益城郡甲佐町に生れ、夙に、郡部の有志家時代を推移超越して、熊本事業界に雄たる活躍を試み、縦横の敏腕を振って、熊本市と甲佐町に兩翼を張り、噴々の聲名を縣下に謳はれ、今や、押しも押されぬ熊本實業界の重望を以て許す貫目がある。其の事績中、特に、牢記多謝せねばならぬのは、彼の御船鐵道株式會社に對する顯著な功勞である。現在、政争に累禍されて、同社専務の地位を退いて居るが、有体に評すれば、御船鐵道の今日あるは、君に負ふ所、最も大で會社經營を担當し來つた事、實に、十一年間の久しきに及び其の間、常に、會社の全運命を存負つて立ち、終始一日の如く精勵奮闘怠らず、五万圓以上の私財を投じて社運の振興を銳意し、至誠を傾けて、是れが最善の經營を進め、寔に適材適所の名實を以て鳴り、社内外の推服信望を一身に鍾め、以て磐石の社礎を築き上げた、君の



赤星勉君

功績と、誠意を顧みて、多事多端な同社の大前途を想到する時、吾人は、君の捲土重來を豫期せざるを得ぬものがある。

□熊本砂利株式會社と甲佐物産株式會社は、共に君の目論見と發起に係り、現に、社長として、存分の經營を斷行し、着々、好績を見て居る。特に甲佐物産は、傳物たる甲佐の現在及び將來に順應して、土地の大繁榮を策すべく、先づ劇場を營んで居るが、更に旅館、料亭等の經營に指を染むる豫定だと謂ふ。古臭い語であるが道は遠きにあらずして却つて近い所にある筈だ。地方發展の道又、然りである。故に、此の種の試みは、土地繁榮の捷徑で最も實力ある有利事業だと推稱する所以である。

□尚ほ、君は多年甲佐郵便局長として令名あり、常に潑刺たる銳氣を發揮して南船北馬、東奔西走、席殆ど温らぬ活動家である。茲に、君の自重加餐を切に祈る。

- 甲佐郵便局長
- 甲佐物産株式會社々長
- 熊本砂利株式會社々長
- 松田工業株式會社取締役



有吉薰夫君

□縣下に名ある家門の出にして、熊本無比の名勝を以て鳴る水前寺の風光に生ひ立ちし君は、一見、温乎たる風格に、不羈豪放の遙かに群を抜く氣魄を内在し、最も義に勇み、節を重んずる人物として推されて居る。君の祖父市左衛門氏は、細川公の家老たりし人、能く、藩公の治績を補佐して、籍甚の令名を馳せた傑出の國士であつた。代々、熊本市手取本町(現在、静養軒のある所)を屋敷として居たが、嚴父泰一郎氏に至り、明治七年、他託郡健軍村神水に居所を移し、以て今日に至つて居る。

□君は、此の名門素封の家庭に明治十六年を以て生れ何不自由なく、純直に成人した嫡出である。故に恃操自ら典雅にして悠揚たる襟度を有し、能く、家運を守ると共に、社會公共の爲め盡瘁する所あり。即ち、青年會神水分會長、大日本武德會熊本分會常議員、出水神社崇敬者總代、學事相談役、郡會議員等に推され、貢獻大に努

めて居る。特に、彼の、肥後舊藩士を以て組織する、甘棠會の副會長として、多年、盡瘁貢獻怠らず、噴々の聲名を會の内外に馳せ、信望を一身に鍾めて居た功勞は茲に、更めて絮説を要せぬ所、而も、會内に刷新改善を要するものあるを痛感するや、虚心担懐、自己を完うして是れを計り、事成るに及んで職を勇退したるが如き賢明な出處進退は、寔に、推稱措く能はざる所である。

□居常、狩獵を以て唯一の趣味となし、七八才の幼少時代より既に從いて廻はり、十六才頃には、早くも一人前の腕を有するに至り、山に海に、狩獵に對する知識、經驗、随つて手腕は、其の道の達人たる概があり、自ら任じ居る所、彼の滔々たる天胸筋と斷じて選を異にするものありと謂ふ。更に、劍術、柔術にかけても一方の雄を以て鳴る名實があり、尚ほ長會我部氏の弟子として熊本に於ける仕掛煙火の元祖格であると聞く。

- 他託郡會議員
- 大日本武德會熊本分會常議員
- 出水神社崇敬者總代
- 青年會神水分會長
- 前甘棠會副會長
- 熊本憲政會地方幹事



熊本朝市商卸節鏗
熊本朝市商卸節鏗
熊本朝市商卸節鏗
熊本朝市商卸節鏗

君八平田村

君は、熊本實業界の一方を代表する新進の商才である其の取扱に係る鏗節は、薩摩、土佐等の産地製造元に於ける一流の會社商舖と直取引をなし、以つて精選を加へた優良品を豊富に取揃へ、縣下の需要を殆ど一手に占め盛運無比、斯界獨歩の名實である。他に、北海物産、各種海産珍品の卸販賣を營み、朝市場切つての、異彩ある商勢を築き上げて居る。

幼少、夙に、獨立獨行の氣魄を有し、敢て親兄弟や縁類の世話を潔しとせず、即ち、雄圖を抱いて各地に飛躍を試み、慧眼早くも、北海道、樺太等に着目渡航して、海産物業に身を投じ、特に、領有日尙ほ淺き樺太島に於ける事業の従事は、極めて危険の伴ふ物騒な時であつたが、銳氣激湧として稜骨高き君は、挺身長驅、具さに苦心を嘗めて奮闘怠らず、幾度か、死生の境を出入して、

而も、初志を貫いて居た、其の不撓不屈の膽力と勇猛心は、到底、他の追隨を許さぬ所、君が、創業茲に十年、能く、今日に見る大發展を遂げ得たるは、是れ全く、活社會表裏の決死的修養の力と業界に關する先見的研鑽並に、豊富な貴き經驗が因をなして漸次報はれつゝあるもので、寧ろ當然の歸結なりと稱すべしだ。

家運の牢乎たる基礎を贏ち得た君は、茲に、餘力を伸ばして、事業界の雄飛を試みて居る。即ち、發賣早々、勳物たる勢威を以つて、本邦飲料水界の中心勢力に擡頭し、一躍、覇を稱へて居る、彼の株式會社みすみ鏗泉商會の販賣主任として、縦横の敏腕を振ひ、斯界を驚嘆せしめ居る鬼才は、實に君である。是れ、素より、天下に冠絶する品質の優秀にも依る筈だが、又、君の事業家的才幹に負ふ所でなければならぬ。以つて、其の洋々たる前途を推すに難くないのである。

尙ほ、君は公人としても大に矚目期待され、去る市議戰の際、熊本實業會の物色徳選を受けた程で、必ず、市政か、商議員かに打つて出づる將來を推されて居る。特に、迫君の信頼推稱深きものあり、傍々以つて君の公生活を祝福すべきである。

居常、犬を愛し、書畫の趣味深く、其の所藏に係る、名幅逸品極めて多く、随つて、鑑賞眼も凡ならざるものありと聞く。尙ほ、君が今日の地歩に對し、令閭内助の淑徳に負ふ所、揚からざるものありと謂ふ。



前代議士
下城郡富守村板津

君雄一垣紫

城南益城の一角に、多年、鬱勃たる潜勢力を築積し、其の狀、恰も、嶋を負ふ虎の如き概あるものは、紫垣一雄君、即ち其の人である。夙に、政界に雄飛して、天下國家の壮志を伸ばし、衆議院議員に推されて、献翼大に努めたるも、其の後、自ら、政界の表面に立つを好まず常に、帷幄の内任つて、同志の爲め畫策後援し來つたの、齊しく首肯して、敬意を表し居る點である。

願みれば、國權黨の發祥地と目して然るべき、益城平野政狀の現在、政友派の蠶食跋扈に任せて、政戰の都度、多く、敵に一籌を輸しつゝある不振を呈して居る。譬ひ、時の勢なりとは謂へ、金城湯地と頼める一角に、龜裂を生じたりとせば、生へ抜きの鎮西館員たる君の如き、撫然として感慨無量なるものあるべく、即ち、挺身

躍起、其の捲土重來を庶幾するもの、豈單に、熊本憲政界の時事のみならんや。吾人は、君が陣頭の雄姿を熊本政局の近き將來に想望して、特に、益城平野今後の政戰に興趣津々たるを禁じ得ぬ一人である。

君が、一顰一笑に支配さるゝ人心の動からざるものあるを觀じ、且つ、其の胸臆に燃え居る政治的生命の火焔は、確かに、來年の縣議戰、來々年の逐鹿戰に一種の雪辱戰として壯烈な激争を見るべく、其の時こそ、眞に、國權黨の益城に於ける健任を試金されなければならぬ好機であると目されて居る。

尙ほ、君の使命は、政治的方面以外にも多々重大なるものがある。即ち、地方稀に見る素封家として、社會的權威を擁し、其の一舉手、一投足の微と雖も、尙ほ且つ群衆に淺からざる衝動を與へる。故に、吾人は、君の賢明と高邁な識慮に鑒みて、社會的活躍の他を凌ぐ貢獻を益々期待措かぬ所以である。

君は、人も知る縣下屈指の名門舊家に生れ、所謂、春風胎蕩の裡に撫育せられて、純直な成人を遂げた温良珠の如き典雅な人物である。而も、穎悟の資、磊落の性、卓抜の才を内在せる豊富な天質を有し、渾然たる人格美の輝きあり、爲めに、大家素封の氛圍氣中に想像を許さぬ人間味と世故に長じた所がある。教養深く、識見、又衆庶を推服せしむるものあり。居常、書畫、骨董を趣味となし、以つて雅懷を培ひ、銳氣を養つて居る。



□鹿本郡 村田君
星子清君

□君は、鹿本郡政友系の中心勢力にして、同時に、熊本支部一方の雄である。夙に、篤農家を以つて鳴り、地方開發の功勞顯著なるものがある。其の令兄八九郎君、從兄弟津直君及び進君共に皆、城北屈指の社會的潛勢力では等、一家一門の隆々たる繁榮は、即ち、世上羨望の的となつて居り、更に、是等の實勢力が渾然として社會的に發揮する時、殆ど能はざるなき概を示し、随つて、君の一舉一笑に依つて鹿本郡政界の大勢を支配する重大衝動を與へる事が慥くないと觀測されて居る。

る事、素より一投足一擧手の勞でもない筈だが、固辭して起たず、而も、黨勢の支持擴張には人一倍の盡力を致して居る。故に、君の言行は、自ら權威があり、其の抱懐する高邁卓拔な政見の徹底を期するに於て、君程自由の天地を有し、且つ、可能性の豊富な信望に富む人物は多く見當らぬのである。彼の實名我慾の野望に依つてのみ動きつゝあるかに指彈彈壓され居るもの、比々殆ど然らざるなき、滔々たる現代政黨員中、君の如き政治的良心の燦然として高く輝くを見るは、以つて、一脈清新の氣に接する概がある。

- 政友會熊本支部幹事
- 政友會鹿本郡支部幹事
- 村會議員 □篤農家
- 山鹿稅務署管内所得稅調查員
- 鹿本鐵道取締役
- 明治七年生



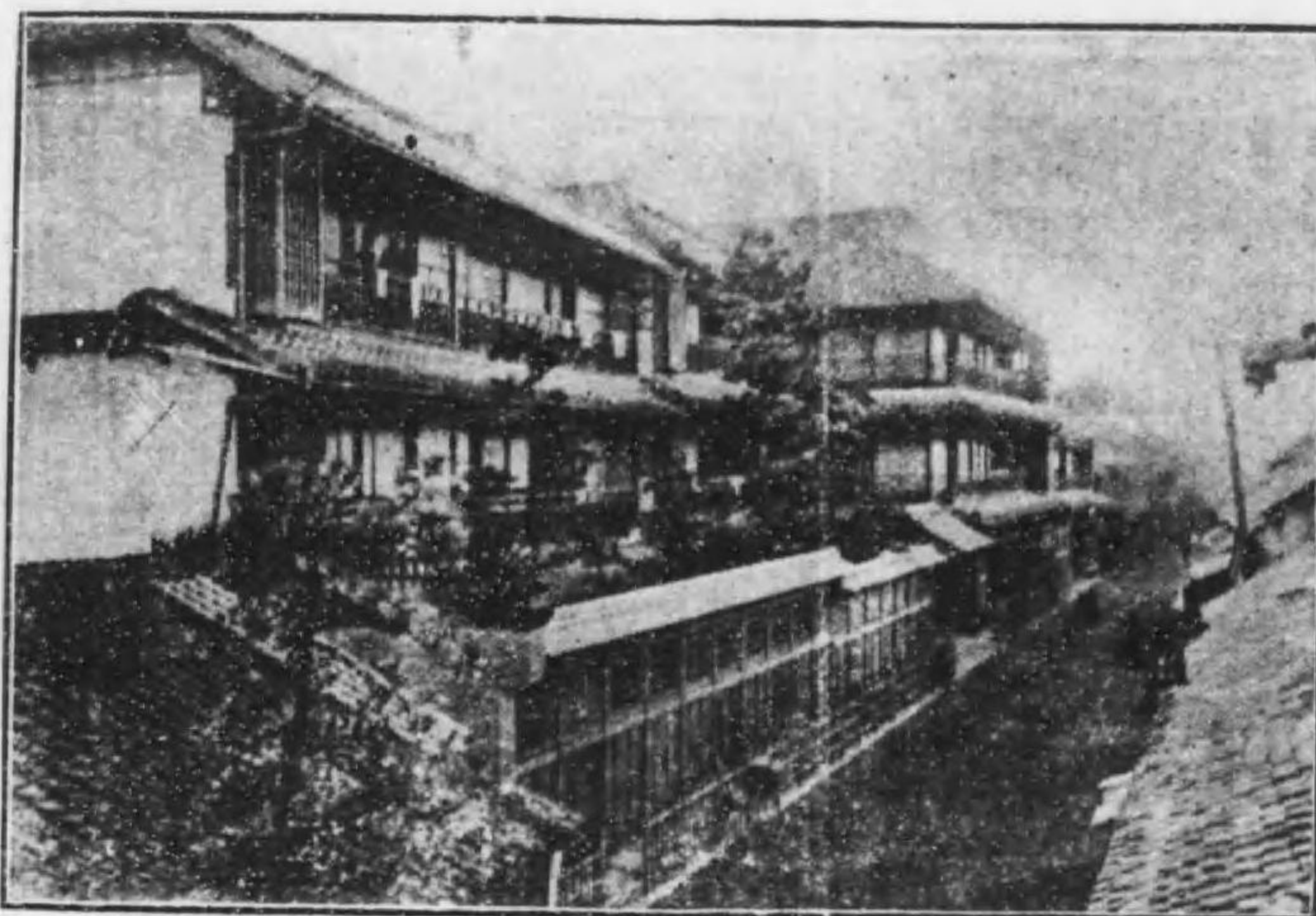
□阿蘇郡 宮地君
栗林謙輔君

□大阿蘇の宣傳は、今や、單に阿蘇郡の問題でなく、大熊本市の運命にも亦深い交渉を齎らす様になつて來た。大熊本市の外面的考察に於て、大阿蘇程意義深長な、随つて價値ある問題は、先づ、殆どないと謂つて好い。故に、吾人は、大熊本市民が、内に顧みる心を擡げて、其の眼光を外に放つ時、必ず、大阿蘇を標的とせねばならぬ所以を屢次絶叫し來つたものである。而して、其の第一歩は、阿蘇の人物と温い握手をなすのが先決問題であると思ふ。相提携して、大阿蘇の世界的意義と眞價を宣傳紹介に成功した結果は、阿蘇の大繁榮を策する所以であると共に、より多く熊本市を培養發展せしむる事となる。所で、人物の握手提携は、先づ、對手の人と成りを知らねばならぬのだ。是れ、吾人が、大阿蘇の人物を評傳するに當り、特に、深長な意義を痛感措かぬ所以であ

る。更に、中堅人物の代表を以つて推され居る栗林謙輔君の風格を窺はんとするに際し、一種の責任と鈍才の嘆に打たれざるを得ぬものがある。

□君は、大阿蘇の麓なる宮地町著明の舊家名門に明治十六年を以つて生れ、郷校を卒へて、更に上京、早稻田大學に最高の學徳を修め、所謂自由奔放な早稻田學園の氣團氣に存分の才識を伸ばした新人物の一人者である。學業成ると共に歸郷して、大家の經營に善處する傍ら、能く、社會公共の爲め貢獻怠らず、信望自ら高きものあり特に、大阿蘇宣傳の中堅となつて、陰に陽に活躍奮闘しつゝある敬虔すべき努力は、縣民の齊しく多謝措かぬ所である。事實、大阿蘇に對する各方面の觀察と味解に於て、君の如き深刻痛切な造詣あるものは、恐らく居るまい。君に就いて、鐵道問題より見たる大阿蘇を聞き、或は大阿蘇の正面が何處であるかを敲き、尙ほ、五岳の四季折々の靈姿、朝夕の雲の色、雨の風情、風の趣き、静寂な山の呼吸、噴煙の微妙な動き、大地の奥底より波打つ鼓動等に關する詩的觀賞、學理的考察、多年親炙し居る實感や印象を物語らしめば、大阿蘇の全き靈姿と生命を確かに直把する概がある。即ち眞に大阿蘇宣傳の資格ある第一人者たる名實の人物は、君を措いて、又、なしと斷するも過辭ではあるまい。

□居常、書畫、謠曲を趣味となして居る。尙ほ君の事業中、最も刮目すべきは彼の廣大なる殖林事業であらう。



□町久奈日郡北葦縣本熊□
□樓波金館旅等高泉溫□

□日奈久温泉の名、古來、關西に鳴る。其の泉質は、無色透明無臭の炭酸泉にして、多量のラヂウムを含有し随つて、醫治効能に富み、避暑に適し、療養地として絶好の場所を以つて推され、逐年、繁昌を加へ、四季の浴客絶えず雲集し來る盛況である。是れ素より、泉質の良好と地の利に於て、遙かに他を凌駕する天恵の優越に依る所、極めて大なるものあるべきも、能く、是れを開拓啓發して、其の眞價を發揮せしむるに遺憾なき人爲の施設經營なくんば、遂に、今日に見るが如き隆々無比の聲名を博し得ぬ筈で、土地有志の献身的努力貢獻に負ふ點が最も多きをなして居ると斷じて然るべしだ。茲に於てか□日奈久唯一の温泉大旅館主たる松本參郎君の功勞を痛感して多とせねばならぬのである。君は、葦北名門の出で、創業の才幹と守成の手腕を併せ有する地方稀に見る新人物だ。彼の日奈久の殿様か、否、寧ろ日本の事業家の偉器を抱いて、明治新田等に牛刀鶏肉の嘆を撫しつゝ、ある松本清三郎君を令兄とし、近く、縣下第五區の激戦に天晴れの優勝を贏ち得た新銳代議士中島照寛君は、即ち君の舎弟である。夙に、日奈久温泉の卓絶偉大な靈効あるに拘らず、旅館の設備不完全なる爲め、天下の浴客を吸収して、土地の繁榮を策し得ないのを慨き、自ら巨費を投じて、理想的大旅館の設立を思立ち、全部日本式の長所と西洋風の便利を加味した獨特の設計に係り、宏壯秀麗な自宅浴室を始め、室内外の設備間然する所なく特に其高等木質制度は、家族連れ長期の入湯に便である



□村西山部蘇阿□
君喜貞岡片

□肥後風色の大觀は、大阿蘇の山の偉と球磨川の水の靈と有明沿岸一帯の潮の趣きで、先づ、盡きると思ふ。特に雄渾壯大なる大阿蘇の噴煙は、日本の有する世界一の誇りであつて、火の國の自然を支配する生命の泉でなくはならぬ。此の世界一の雄偉に化育されて、生ひ立つた阿蘇人士に傑出の質、非凡の才多きは、當然の歸結である。素川、片岡貞喜君、又、大阿蘇の産んだ豪放不羈の氣魄を有する人物中の一人者である。□君は、明治四年八月、岡本貞親氏の次男に生れ、長じて片岡武虎氏の養嗣子となる。片岡家は、歴代、阿蘇郡山西村布田長者として縣下に名ある豪農の家門である。君一度片岡家を繼ぐや、能く、守成と創業の家運を併せ進めて、家門の大成を見つゝあると共に、又、社會公共の爲め、其の天分を發揮して、衆望を一身に鍾め居る等定に、敬仰すべき才物である。即ち、明治三十四年山西

郵便局長となりて郷土開發に銳意貢獻し、明治三十六年政界に雄飛を試み、先づ、阿蘇郡會議員に推され、直に郡參事會員の要路を占め、同四十年再當選を見、更に、四十四年十月縣政界に現はれ、縣會議員となつて縦横の活躍をなし、献策大に努めて噴々の令名を馳せ、傍ら、肥後農工銀行に重役として羽翼を縣財界に伸ばしたのである。然るに其の後、政界財界の紛々擾々に憚焉たるものありてか、多く、山西村の高所に悠々長嘯して、又、出盧を見ず、居常、素川の詩名に依る、其の作品に托して、僅かに胸中の磊落をやり居るもの、様であるが、他日政界の風雲に乗じて、必ず、中原の鹿を逐ふ一人者であると矚目期待されて居る。□君は、澁江翁門下の高弟で、漢籍の造詣深く、其の詩名は夙に定評があり、尙ほ、古書畫を嗜み、特に刀剣に興味を有し、随つて鑑定眼の凡ならざるものありと聞く

□歲晚述懷□ 素川
誰復今宵歎逝川
爐邊一酌枕肱眠
此生鬢髮五十年
來往風塵